佐賀県文化財調査報告書第133集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　15

１９９７年３月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第133集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　15

１９９７年３月

佐賀県教育委員会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業等の施行に先立ち実施しました埋蔵文化財確認調査の記録をまとめたものです。

本県には先史時代以降の遺跡が多数存在しており、その密度の高さと重要性ならびに国際性は全国的にも注目を浴びているところです。

県教育委員会では、これらの貴重な文化財の保護と農業基盤整備事業等との調整を図るため、埋蔵文化財の確認調査を実施し、その記録の保存に努めています。

今回、平成7・8年度農業基盤整備事業等施行予定地区の文化財確認調査を実施した結果、先史時代～江戸時代にわたる各時代の遺跡・遺物が確認されました。

本書が、貴重な文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として、さらに学術資料として活用していただければ幸いです。

この文化財調査にあたって、御協力をいただいた文化庁・県農林部・県農村農地整備局・各市町村教育委員会・土地改良担当課・農林担当課並びに地元関係各位に対しまして、深くお礼を申し上げます。

平成9年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長　川久保　善明

例　　言

1　本書は国庫補助を受け、平成7・8年度に施工計画の佐賀県農業基盤整備事業等に先行して、平成7年度に調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業等に伴う文化財調査の報告書である。

2　確認調査は関係市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行なった。

3　トレンチの位置図作成、遺構の実測、写真撮影は各調査員が行なった。

4　遺物の整理・実測・製図・報告書作成作業は、佐賀県文化財課（神埼八子事務所）で行なった。

・遺物整理……中島美須三・田中ハルミ

・図面整理……山口美佐子・江島美恵子・上瀧光子

・地図等製図……三好文子

5　本書の執筆は下記の分担で行なった。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ－1～5、Ⅴ……松尾　法博（佐賀県文化財課）

Ⅲ－6、Ⅳ－17……川副真理子（佐賀県文化財課）

Ⅳ－1、Ⅳ－2……太田　睦（中原町教育委員会）

Ⅳ－3……鶴田　浩二（上峰町教育委員会）

Ⅳ－4……楠本　正士（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－5……前田　達男（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－6、9、10……山口　一郎（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－7……古賀　章彦（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－8……角　信一郎（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－11……岩永　雅彦（多久市教育委員会）

Ⅳ－12……徳永　貞紹（佐賀県文化財課）

Ⅳ－13……仁田坂　聡（唐津市教育委員会）

Ⅳ－14……内田　孔明（唐津市教育委員会）

Ⅳ－15……藤井　浩司（肥前町教育委員会）

Ⅳ－16……有光　宏之（玄海町教育委員会）

Ⅳ－18……船井　向洋（伊万里市教育委員会）

6　本書のⅢ・Ⅳについては各調査担当者より提出された「確認調査結果報告書」ならびに「発掘調査実績報告書」を引用し、一部加筆した。なお、「土壙」や「・・・跡」の表記等については統一を図り、また、一部表現を変えたところがある。これらの文責は編集者に帰す。

7　本書に用いた方位は、原則として座標北とし、磁北を用いた場合はその旨を明記した。

8　挿図中の■は遺構・遺物が確認されたトレンチ（試掘坑）、□は遺構・遺物が確認できなかったトレンチ（試掘坑）、　－－－は想定される遺跡の広がりを示す。

9　本書の編集は松尾法博が担当した。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過 ……1

1　平成7年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査 ……1

(1) 農業基盤整備事業等に係る協議 ……1

(2) 文化財確認調査 ……1

(3) 開発と文化財保護に係る協議 ……1

Ⅱ．調査組織 ……2

Ⅲ．平成７年度文化財確認調査の内容 ……13

1　佐賀東部地区の調査 ……13

(1) 鳥栖市 ……14

(2) 中原町 ……16

(3) 千代田町 ……16

2　佐賀西部地区の調査 ……19

(1) 佐賀市 ……20

(2) 多久市 ……26

(3) 大和町 ……28

(4) 三日月町 ……28

(5) 川副町 ……29

(6) 富士町 ……29

3　佐賀南部地区の調査 ……32

(1) 鹿島市 ……33

(2) 江北町 ……33

(3) 太良町 ……33

4　佐賀北部地区の調査 ……36

(1) 伊万里市 ……37

(2) 北波多村 ……38

5　佐賀上場地区の調査 ……41

(1) 唐津市 ……42

(2) 鎮西町 ……42

(3) 玄海町 ……44

(4) 肥前町 ……44

(5) 呼子町 ……46

6　筑後川下流用水事業に係る調査 ……46
(1) 佐賀東部導水路（城原川以西）……46
(2) 佐賀東部導水路（城原川以東）……46

Ⅳ．平成７年度発掘調査の概要 ……49
1　前田原遺跡 ……50
2　野田遺跡 ……52
3　堤六本谷遺跡 ……54
4　西千布遺跡 ……58
5　友貞遺跡 ……62
6　金立遺跡 ……64
7　下和泉一本椎遺跡 ……66
8　牟田寄遺跡 ……68
9　妙常寺北遺跡 ……70
10　妙常寺南遺跡 ……72
11　岡遺跡 ……74
12　焼石遺跡 ……76
13　雲透遺跡 ……78
14　八幡溜第Ⅱ遺跡 ……80
15　赤坂Ⅲ遺跡 ……82
16　長倉遺跡 ……84
17　下中杖遺跡 ……88
18　宮ノ前北遺跡 ……90

Ⅴ．まとめ ……94

Ⅵ．資　料 ……96

挿図目次

図1　平成７年度農業基盤整備事業事業等に伴う文化財調査地区位置図 ……5
図2　佐賀東部地区周辺地形図 ……13
図3　鳥栖市九千部山横断線トレンチ配置図 ……15
図4　中原町中原北部（蓑原）トレンチ配置図 ……17
図5　中原町中原北部（綾部）トレンチ配置図 ……18
図6　佐賀西部地区周辺地形図 ……19
図7　佐賀市金立南部トレンチ配置図 ……22
図8　佐賀市鍋島トレンチ配置図 ……23
図9　佐賀市兵庫西部（東淵）トレンチ配置図 ……24
図10　佐賀市久保泉西部トレンチ配置図 ……25
図11　多久市本多久トレンチ配置図 ……27
図12　大和町佐賀西部導水トレンチ配置図 ……30
図13　三日月町西部導水トレンチ配置図 ……30
図14　佐賀南部地区周辺地形図 ……32
図15　江北町江北トレンチ配置図（1） ……34
図16　江北町江北トレンチ配置図（2） ……35
図17　佐賀北部地区周辺地形図 ……36
図18　伊万里市久原トレンチ配置図 ……39
図19　伊万里市木須（里）団地トレンチ配置図 ……40
図20　佐賀上場地区周辺地形図 ……41
図21　鎮西町塩鶴（上場）トレンチ配置図 ……43
図22　肥前町納所トレンチ配置図 ……45
図23　三田川町下中杖トレンチ配置図 ……47
図24　前田原遺跡位置図 ……50
図25　野田遺跡位置図 ……52
図26　堤六本谷遺跡位置図 ……54
図27　西千布遺跡位置図 ……58
図28　友貞遺跡位置図 ……62
図29　金立遺跡位置図 ……64
図30　下和泉一本椎遺跡位置図 ……66
図31　牟田寄遺跡位置図 ……68
図32　妙常寺北遺跡位置図 ……70
図33　妙常寺南遺跡位置図 ……72

図34　岡遺跡位置図 ……74
図35　焼石遺跡位置図 ……76
図36　雲透遺跡位置図 ……78
図37　八幡溜第Ⅱ遺跡位置図 ……80
図38　赤坂Ⅲ遺跡位置図 ……82
図39　赤坂Ⅲ遺跡出土遺物実測図 ……82
図40　長倉遺跡位置図 ……84
図41　下中杖遺跡位置図 ……88
図42　宮ノ前北遺跡位置図 ……90
図43　宮ノ前北遺跡地形測量図 ……91

写真図版目次

図版1　確認調査状況（佐賀東部地区・西部地区） ……31
図版2　確認調査状況（佐賀西部地区・南部・北部・上場） ……48
図版3　前田原遺跡 ……51
図版4　野田遺跡 ……53
図版5　堤六本谷遺跡（1） ……55
図版6　堤六本谷遺跡（2） ……56
図版7　堤六本谷遺跡（3） ……57
図版8　西千布遺跡（1） ……59
図版9　西千布遺跡（2） ……60
図版10　西千布遺跡（3） ……61
図版11　友貞遺跡 ……63
図版12　金立遺跡 ……65
図版13　下和泉一本椎遺跡 ……67
図版14　牟田寄遺跡 ……69
図版15　妙常寺北遺跡 ……71
図版16　妙常寺南遺跡 ……73
図版17　岡遺跡 ……75
図版18　焼石遺跡 ……77
図版19　雲透遺跡 ……79
図版20　八幡溜第Ⅱ遺跡 ……81
図版21　赤坂Ⅲ遺跡 ……83
図版22　長倉遺跡（1） ……85
図版23　長倉遺跡（2） ……86

図版24　長倉遺跡（3）……87
図版25　下中杖遺跡……89
図版26　宮ノ前北遺跡（1）……92
図版27　宮ノ前北遺跡（2）……93

表目次

表1　農業基盤整備事業等に伴う文化財調査一覧（平成7年度）……7
表2　農業基盤整備事業等施工予定地区内文化財確認調査（平成7年度実施）……9
表3　平成7年度農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表……11
表4　平成8年度農業基盤整備事業に係る文化財調査一覧表……96

Ⅰ．調査に至る経過

1．平成７年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査

（1）農業基盤整備事業等に係る協議

県農林部と県文化課が昭和53年4月に締結し、昭和59年4月に一部改正した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づいて、平成7年9月に平成8年度農業基盤整備事業施行計画について事業担当部局から文化財保護担当部局へ協議が求められた。

平成8年度工事地区のうち踏査・文化財確認調査の対象となった地区は、佐賀東部地区（鳥栖市・中原町・千代田町・東脊振村・脊振村・三瀬村）33.2ha、佐賀西部地区（佐賀市・川副町・大和町・三日月町・多久市・富士町・小城町・有田町・西有田町）162.8ha、佐賀南部地区（鹿島市・武雄市・太良町・江北町・塩田町・大町町・福富町・山内町・北方町・有明町・嬉野町）62.0ha、佐賀北部（伊万里市・北波多村・浜玉町・七山村・厳木町・相知町）185.5ha、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・肥前町・玄海町・呼子町）59.2haの合計502.7haである。

関係する農業基盤整備事業として、県営圃場整備事業・干拓地等農地整備事業・県営土地改良総合事業・団体営圃場整備事業をはじめ、農業構造改善事業・山村振興農林漁業対策事業・農地等鉱害復旧事業・広域基幹林道事業・導水事業等多岐にわたっている。

施行主体は九州農政局筑後川下流用水事務所・伊万里開拓事業所所管の国営、佐賀県農村農地整備局所管の県営、市町村所管の団体営事業に区分される。また、水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業に伴う協議（佐賀市・三田川町）もなされた。

（2）文化財確認調査

協議された事業計画地区（工区）の設計図については、佐賀県遺跡地図で位置を確認するとともに現地踏査などの結果をもとに検討を行なった。検討に際しては、関係市町村教育委員会の文化財担当職員の協力を得て、情報の収集を行ない、遺跡が立地する自然環境等を含めて事前の検討を進めた。

更に、各事業計画地区については、関係市町村教育委員会の文化財担当職員と共に現地踏査を重ねた。

その結果、遺跡の存在が予測され確認調査が必要と認められた地区（表2）について、当該市町村の教育委員会・土地改良担当課・県農林部、県農村農地整備局との第1回目の合同四者協議会（『平成8年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護の協議会（第1回）』）を県教育委員会が主催して平成7年10月11日に開催した。協議会においては全体協議の後、市町村毎に関係者による個別協議の場を設け、事業計画の概要説明、現地踏査等の検討結果の報告、確認調査の計画的・円滑な実施にあたっての打ち合せを行なった。

その協議会での合意に従って文化財確認調査は原則として、佐賀上場地区など稲刈りが早く終了する市町村では10月下旬から開始し、その他の市町村でも麦の種蒔き時期との関係で12月上旬までの間に実施を予定した。

実際の文化財確認調査は、関係市町村教育委員会の文化財担当職員の協力を得て、稲刈りが終了する10月下旬から麦の作付けが始まる12月上旬までの間に行なったが、上物の状況によって適当な時期に調査を行なった。確認調査は原則として、2×2ｍの試掘坑（トレンチ）を20ｍ間隔で碁盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、分布範囲等を調査する方法を採用した。

（3）開発と文化財保護に係る協議

確認調査の結果をもとに詳細な遺跡分布図を作成した。確認された遺跡は、佐賀東部地区14,500㎡，佐賀西部地区63,700㎡，佐賀南部地区194,000㎡，佐賀北部地区1,312㎡，佐賀上場地区12,740㎡の合計286,252㎡であった。

この確認調査の結果をもとに、関係市町村教育委員会が主体となって開発事業担当部局との個別協議が行なわれた。

農業基盤整備工事等が遺跡に影響を及ぼす地点については、水路位置の変更、盛土による田面高の嵩上げ、圃場の区画変更等の設計変更を中心に、技術的・経済的に可能な保存方法を検討し、開発事業計画と文化財保護に関する調整を行なった。この間、事業担当部局には、設計変更に関して積極的に対処していただいた。個別協議を進めるなかで、埋蔵文化財の保存のために数度の設計変更を行なったが、やむを得ず農業基盤整備工事等により埋蔵文化財の保存が不可能となったとなった地点においては、文化財調査の方法・時期等についての協議を進めた。

このような個別協議を経て、平成7年12月15日に第2回目の合同四者協議会（『平成８年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護の協議会（第2回）』）を開催し、平成8年度の事業計画と文化財の保護についての最終的な調整が行なわれた。この調整会議においては、各地区の平成8年度の文化財調査の面積・調査方法・調査時期等についての調整がなされたが、一部の地区については工事設計の詰めの作業と併せて、個別協議を平成7年度末まで継続した。

これらの協議を経て、平成7年度以前に確認調査を実施した分を含めて、平成8年度及び平成9年度以降の工事計画を考慮に入れた最終調整がなされた。これによって、平成８年度工事施行予定地内の大部分の遺跡は盛土工法等の採用による設計変更により遺跡の保存が図られ、残る40,705㎡については平成8年度に発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。

Ⅱ．調査組織

１．調査主体

佐賀県教育委員会　（事務局：佐賀県教育庁文化財課）

２．総括

（事務局長）	高島　忠平	県文化財課長			
（次　　長）	木下　　巧	県文化財課参事		深町　昌司	県文化財課長補佐

３．庶務

岩瀬　茂生	県文化課庶務企画係長	久保　信行	県文化課庶務企画係主査
鷲崎　義彦	県文化課庶務企画係主査	富窪　道代	県文化課庶務企画係主事

４．調査

（調査主任）	田平　徳栄	県文化財課長補佐、管理・指導班長
（調 査 員）	西田　和己	県文化財課管理・指導班企画調整主査
	徳富　則久	県文化財課管理・指導班企画調整主査
	松尾　法博	県文化財課管理・指導班主査
	徳永　貞紹	県文化財課管理・指導班文化財保護主事
	武谷　和彦	県文化財課管理・指導班文化財保護主事
	市川　浩文	県文化財課管理・指導班文化財保護主事

川副真理子	県文化財課調査班文化財保護主事
福田　義彦	佐賀市教育委員会文化課文化財係長
古賀　章彦	佐賀市教育委員会文化課文化財係事務吏員
三代　俊行	佐賀市教育委員会文化課文化財係事務吏員
石橋　新次	鳥栖市教育委員会社会教育課文化財課主査
内田　孔明	唐津市教育委員会文化財課文化財係事務吏員
高塚　啓介	多久市教育委員会社会教育課社会教育係事務吏員
船井　向洋	伊万里市教育委員会生涯学習課文化係事務吏員
荒谷　義喜	伊万里市教育委員会生涯学習課文化係事務吏員
加田　隆志	鹿島市教育委員会生涯学習課事務職員
太田　　睦	中原町教育委員会社会教育課社会教育係主査
堤　　安信	千代田町教育委員会社会教育課主査
谷澤　　仁	大和町教育委員会社会教育課文化財保護主事
宗像　　剛	富士町教育委員会社会教育課主事
永田　稲男	三日月町教育委員会社会教育課主事
堀苑　嵩志	鎮西町教育委員会社会教育課主事
有光　宏之	玄海町教育委員会社会教育課主事
藤井　浩司	肥前町教育委員会社会教育課主事
中村　章郎	呼子町教育委員会社会教育課主事補

5．調査協力

佐賀市教育委員会	大和町教育委員会	呼子町教育委員会
鳥栖市教育委員会	富士町教育委員会	有田町教育委員会
唐津市教育委員会	三日月町教育委員会	西有田町教育委員会
多久市教育委員会	小城町教育委員会	山内町教育委員会
武雄市教育委員会	浜玉町教育委員会	北方町教育委員会
伊万里市教育委員会	七山村教育委員会	大町町教育委員会
鹿島市教育委員会	厳木町教育委員会	江北町教育委員会
中原町教育委員会	相知町教育委員会	有明町教育委員会
上峰町教育委員会	北波多村教育委員会	福富町教育委員会
千代田町教育委員会	鎮西町教育委員会	太良町教育委員会
東脊振村教育委員会	玄海町教育委員会	塩田町教育委員会
脊振村教育委員会	肥前町教育委員会	嬉野町教育委員会
三瀬村教育委員会		

九州農政局筑後川下流農業水利事業所

九州農政局伊万里開拓事業所

水資源開発公団筑後川下流用水建設所

佐賀県農地農村整備局農村計画課

佐賀県農地農村整備局農村整備課

佐賀県農地農村整備局農地保全課

佐賀県農地農村整備局林政課

佐賀県農地農村整備局森林整備課

佐賀県農林部佐賀中部農林事務所

佐賀県農林部鳥栖農林事務所

佐賀県農林部唐津農林事務所

佐賀県農林部武雄農林事務所

佐賀県農林部伊万里農林事務所

佐賀県農林部鹿島農林事務所

各市町村土地改良担当課・農林担当課

地元各位

6．調査指導

三溝　博之　　國学院大学助教授

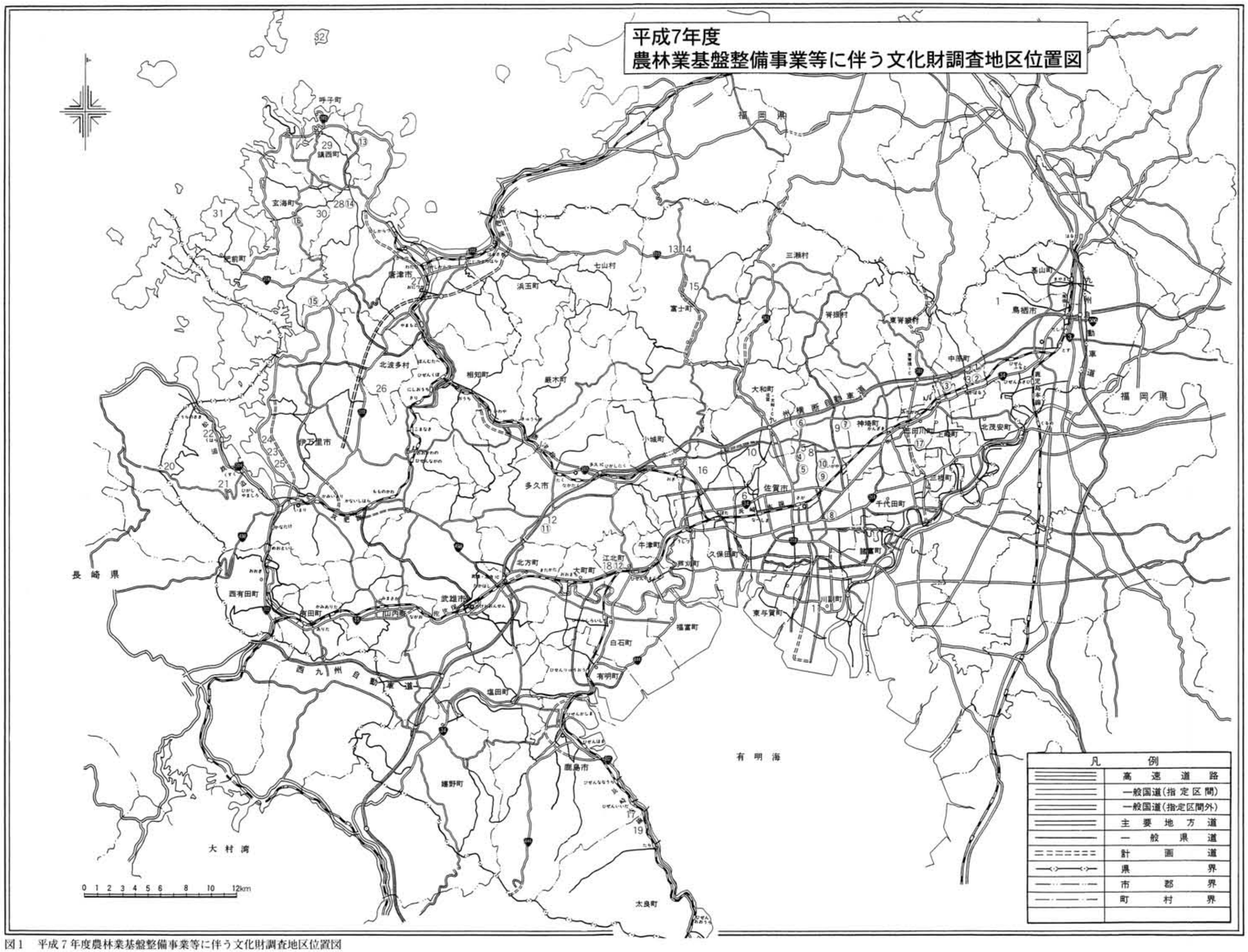


図1　平成７年度農林業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図

表1　農業基盤整備事業等に伴う文化財調査一覧（平成７年度実施）

確認調査			発掘調査		
地区	市町村名	工事地区名	市町村名	遺跡名	略号
佐賀東部地区	鳥栖市	1　九千部山横断	中原町	①　前田原遺跡	ＭＥＤ
	中原町	2　中原北部（蓑原）		②　野田遺跡	ＮＯＤ
		3　中原北部（綾部）	上峰町	③　堤六本松遺跡	ＴＴＲ
	千代田町	4　佐賀東部（千代田）	三田川町	⑰　下中杖遺跡	ＳＮＴ
佐賀西部地区	佐賀市	5　金立南部	佐賀市	④　西千布遺跡	ＮＣＦ
		6　鍋島		⑤　友貞遺跡	ＴＢＳ
		7　兵庫西部		⑥　金立遺跡	ＫＩＲ
		8　兵庫西部（東淵）		⑦　下和泉一本椎遺跡	ＳＩＳ4~9
		9　久保泉西部		⑧　牟田寄遺跡	ＭＴＹ
	大和町	10　佐賀西部導水		⑨　妙常寺北遺跡	ＮＪＫ
	川副町	11　晴分		⑩　妙常寺南遺跡	ＭＪＭ
	多久市	12　本多久	多久市	⑪　岡遺跡	ＯＫＡ
	富士町	13　富士北部			
		14　佐賀北部			
		15　農免農道（関屋）			
	三日月町	16　佐賀西部導水			
佐賀南部地区	鹿島市	17　飯田	江北町	⑫　焼石遺跡	ＹＫＳ1~5
	江北町	18　江北			
	太良町	19　伊福			
佐賀北部地区	伊万里市	20　滝野線	伊万里市	⑱　宮ノ前北遺跡	ＭＩＹ
		21　東分			
		22　久原			
		23　木須（里）団地			
		24　木須西団地			
		25　平山団地			
	北波多村	26　岸岳			
佐賀上場地区	唐津市	27　和多田（上場Ⅱ期）	唐津市	⑬　雲透遺跡	ＫＵＭ
		28　住志・枝去木（上場Ⅱ期）		⑭　八幡溜第Ⅱ遺跡	ＨＤＤⅡ
	鎮西町	29　塩鶴（上場）	肥前町	⑮　赤坂Ⅲ遺跡	ＡＫＡⅢ
	玄海町	30　山ノ田	玄海町	⑯　長倉遺跡	ＭＲＫ
	肥前町	31　納所			
	呼子町	32　小川島			

表２　農業基盤整備事業施工予定地区内文化財確認調査（平成７年度実施）

地　区	市町村名	工事地区名	所　在　地	確認調査対象面積(ha)	調　査　結　果	調査担当者	備　考
佐賀東部地区	鳥栖市	九千部山横断	鳥栖市河内町	延長　1,200m	中世城郭関連	石橋	勝尾城跡関連(ワカヤマノトリデ)
	中原町	中原北部(養原)	中原町大字養原	11.9	奈良時代～中世集落跡,中世火葬墓	太田	野田遺跡
		中原北部(綾部)	中原町大字原古賀	1.8	縄文時代～中世集落跡	太田	拾徳遺跡
	千代田町	佐賀東部(千代田)	千代田町大字下板	10.0	遺跡は確認されなかった。	堤	藤ノ木東分遺跡
佐賀西部地区	佐賀市	金立南部	佐賀市金立町大字千布	7.0	弥生時代(中期)～中世集落跡	福田・松尾	東千布遺跡・久富遺跡
		鍋島	佐賀市鍋島大字森田	40.0	中世～近世集落跡	古賀	森田遺跡・江頭遺跡
		兵庫西部	佐賀市兵庫町大字下淵	40.0	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	福田・三代	(伝)長泉寺跡
		兵庫西部(東淵)	佐賀市兵庫町大字淵	35.0	中世集落跡	市川	淵川城跡
		久保泉西部	佐賀市久保泉町大字川久保字上分	0.17	古墳時代～奈良・平安時代集落跡	福田	川久保松原遺跡
	大和町	佐賀西部導水	大和町大字久留間字行者	1.1	弥生時代・奈良時代集落跡	谷沢	牟田遺跡
	川副町	咾分	川副町大字咾分	17.0	遺跡は確認されなかった。	市川	未周知
	多久市	本多久	多久市多久町	10.5	縄文時代(後期)集落跡	高塚	西の原西遺跡
	富士町	富士北部	富士町大字古場字大前田	6.3	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	宗像・西田	大前田遺跡
		佐賀北部	富士町大字古場字松葉	延長　400m	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	宗像・西田	古場遺跡
		農免農道(関屋)	富士町大字関屋字山口	延長　1,640m	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	宗像・西田	馬場野遺跡
	三日月町	佐賀西部導水	三日月町大字道辺字緑ほか	延長　1,700m	遺跡は確認されなかった。	永田	未周知
佐賀南部地区	鹿島市	飯田	鹿島市大字飯田	11.0	遺跡は確認されなかった。	加田	未周知
	江北町	江北	江北町大字上小田	19.4	弥生時代～近世集落跡	徳富・徳永	焼石遺跡・馬場北遺跡
	太良町	伊福	太良町大字伊福字立目	8.2	遺跡は確認されなかった。	徳永	未周知
佐賀北部地区	伊万里市	滝野線	伊万里市山代町日南郷	延長　1,500m	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	荒谷	日南郷遺跡・日南郷土塁
		東分	伊万里市山代町東分	4.2	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	荒谷	栗山遺跡・上松遺跡・七田遺跡・水除遺跡
		久原	伊万里市山代町久原	14.5	縄文時代(晩期)遺物包含層	荒谷	筒ノ原遺跡・城休遺跡、盛土保存
		木須(里)団地	伊万里市木須町字宮ノ前	8.0	縄文時代(晩期)包含層・古墳時代包含層・中世集落跡・中世貝塚	船井・荒谷	宮ノ前北遺跡
		木須西団地	伊万里市木須町字木須西	15.7	遺跡は確認されなかった。	荒谷	未周知
		平山団地	伊万里市脇田町平山	11.0	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	荒谷	未周知
	北波多村	岸岳	北波多村大字志気3619ほか	10.5	遺跡は確認されなかった。	徳永	未周知
佐賀上場地区	唐津市	和多田(上場Ⅱ期)	唐津市和多田本村	延長　710m	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	内田	本村遺跡
		佐志・枝去木 上場Ⅱ期)	唐津市枝去木・八ノ木・甚蔵山	延長　2,000m	遺構・遺物は確認されなかった。	内田	太閤道跡・馬部甚蔵山遺跡
	鎮西町	塩鶴(上場)	鎮西町大字塩鶴	13.2	弥生時代墓地・中世集落	堀苑	塩鶴遺跡
	玄海町	山ノ田	玄海町大字有浦上字猪爪	5.0	遺構はほとんど削平されていると考えられる。	有光	未周知
	肥前町	納所	肥前町大字納所字太田ほか	18.1	旧石器時代包含層	藤井	太田遺跡
	呼子町	小川島	呼子町小川島1563ほか	0.99	遺跡は確認されなかった。	中村	未周知

表３　平成７年度　農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表

地　区	市町村名	工事地区名	略　号	所　在　地	調査面積	調査主体者	調査担当者	遺　跡　の　内　容
佐賀東部地区	中原町	1　前田原遺跡	MED	三養基郡中原町大字養原字前田原	3,000㎡	中原町教育委員会	太田	縄文時代集落跡、奈良時代～平安時代集落跡
		2　野田遺跡	NOD	三養基郡中原町大字養原字野田	4,500㎡	〃	太田	奈良時代～平安時代集落跡、中世墓地
	上峰町	3　堤六本松遺跡	TTR	三養基郡上峰町大字堤一本柳	13,000㎡	上峰町教育委員会	鶴田	縄文時代・奈良時代～平安時代集落跡
佐賀西部地区	佐賀市	4　西千布遺跡	NCF	佐賀市金立町大字千布	8,500㎡	佐賀市教育委員会	楠本	弥生～近世集落跡
		5　友貞遺跡	TBS	佐賀市金立町大字千布	1,300㎡	〃	前田	弥生時代・平安時代～中世集落跡、中世館跡
		6　金立遺跡	KIR	佐賀市金立町大字大門	2,300㎡	〃	山口	弥生時代墓地、中世～近世集落跡
		7　下和泉一本椎遺跡	SIS　4~9	佐賀市久保泉町大字下和泉字一本椎	4,532㎡	〃	古賀	弥生時代～近世集落跡
		8　牟田寄遺跡	MTY	佐賀市兵庫町大字瓦町	2,647㎡	〃	角	弥生時代～近世集落跡
		9　妙常寺北遺跡	NJK	佐賀市兵庫町大字渕字下渕	2,300㎡	〃	山口	中世～近世集落跡
		10　妙常寺南遺跡	MJM	佐賀市兵庫町大字渕字下渕	2,300㎡	〃	山口	中世～近世集落跡
	多久市	11　岡遺跡	OKA	多久市多久町岡	7,695㎡	多久市教育委員会	岩永	縄文時代・中世集落跡
佐賀南部地区	江北町	12　焼石遺跡	YKS　1~5	杵島郡江北町大字上小田字権現・小路	3,276㎡	江北町教育委員会	徳永	弥生時代墓地、中世～近世城下集落跡
佐賀上場地区	唐津市	13　雲透遺跡	KUM	唐津市湊字雲透	3,100㎡	唐津市教育委員会	仁田坂	弥生時代集落・貝塚
		14　八幡溜第Ⅱ遺跡	HDDⅡ	唐津市佐志字浜町	500㎡	〃	内田	旧石器時代包含層、奈良時代～平安時代焼跡(?)
	肥前町	15　赤坂Ⅲ遺跡	AKA	東松浦郡肥前町大字赤坂字太田	560㎡	肥前町教育委員会	藤井	旧石器時代～弥生時代集落跡
	玄海町	16　長倉遺跡	MRK	東松浦郡玄海町大字長倉字鬼塚954	1,300㎡	玄海町教育委員会	有光	弥生時代墓地、中世石敷遺構
筑後川下流用水事業	三田川町	17　下中杖遺跡	SNT	神埼郡三田川町大字豆田	420㎡	佐賀県教育委員会	川副	弥生時代・中世集落
国営伊万里開拓事業	伊万里市	18　宮ノ前北遺跡	MIY	伊万里市木須町字宮ノ前	1,273㎡	伊万里市教育委員会	船井	縄文時代墓地・古墳時代墓地・中世集落跡

Ⅲ．平成７年度文化財確認調査の内容

1．佐賀東部地区の調査

図2　佐賀東部地区周辺地形図（Ｓ＝1:100,000）

1　鳥栖市（九千部山横断線）

2　中原町（中原北部地区蓑原工区）

3　中原町（中原北部地区綾部工区）

4　千代田町（佐賀東部地区千代田工区）

①前田原遺跡

②野田遺跡

③堤六本松遺跡

(1) 鳥栖市（九千部山横断線）

九千部山横断線（図3）は、平成8年度広域基幹林道九千部山横断線事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、鳥栖市河内町の約1.2ha（延長1,200ｍ）対象に行なった。

調査対象地区は、脊振山系東部の城山（標高501.3ｍ）の南側急傾斜地、標高370m前後に位置し、これより勝尾城下町遺跡全体を瞰観できる。

勝尾城下町遺跡は戦国時代（16世紀）に東肥前を中心に筑前・筑後まで勢力をふるった戦国大名「筑紫氏」の城下町遺跡である。勝尾城は『北肥戦史』によると応永30年（1423）少弐氏によって太宰府を追われた鎮西探題渋川義俊によって築城されたとされ、その後、筑紫氏の居城となっており、天正14年（1586）島津氏によって落とされた後、廃城となったらしい。

近年の調査で、勝尾城下町遺跡の様相が次第に明らかになりつつあり、平成元年度に圃場整備事業に伴い実施した山浦新町遺跡の調査では城下町の遺構と思われる町屋跡を検出している。

勝尾城の基本的構成は城山南麓の四阿川に沿って谷の最も奥から「館」・「寺社」・「武敷」・「町屋」の順に城下が形成され、これら城下を防備するため、南北の山稜に本城（勝尾城）を中心に五つの支城が配置される。この東西に狭長な谷内部が城下であり、周囲の山稜にはこの城下中枢を防御するための城郭群が配置され山城を構えている。城下中枢域は谷内部を遮断する大規模な空堀と土塁によって区切られ、それぞれ特色のある４つの空間を形成している。これらの遺構群は典型的な戦国時代の城下町の姿を示すものとして注目されている。

また、対象地区の南側には、古代以来の古社である四阿屋神社が所在している。さらに、勝尾城の支城としては、葛籠城・鷹取城・鏡城などがあり、堀切及び曲輪など遺構の遺存状況も良好である。

九千部山横断線2−1工区では、幅2ｍのトレンチを6ケ所設定して行なった。標高250ｍの地点で人力による確認調査を実施し、記録作成後、埋め戻しを行ない、旧状に復した。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。しかしながら、調査対象地に隣接して弘法大師信仰の荒谷薬師堂がある。ここには、貞和2年銘の板碑があり、また、数段からなる平坦部から土師器片、石鍋片の散布があり、室町期の寺院の可能性があるため林道工事に際しては注意を要する。

九千部山横断線2−2工区では幅2ｍのトレンチを7ケ所設定して行なった。工事対象地区一帯は、城山（勝尾城）を中心とする戦国時代の城及びその城下町として周知されており今回の調査対象地区は、勝尾城二の丸から200ｍほど下った南側斜面に位置し、勝尾城と「ワカヤマノトリデ」との中間に位置している。急傾斜地のため人力による確認調査を実施し、記録作成後、埋戻しを行ない旧状に復した。

調査の結果、第3トレンチで遺構及び遺物を確認したが、その他のトレンチでは遺構・遺物ともに確認できなかった。確認した遺構としては、列石遺構および焼土・炭化物があり、列石遺構の下から土師器小皿1点が出土した。第3トレンチ周辺はやや谷地形になった地点であり、確認した列石遺構は、焼土および土師器小皿の検出状態から祭祀関連の特殊な遺構とも考えられるが、今回の確認調査では立木の関係でトレンチの拡張ができなかったため、遺構の広がり及びその性格は明らかにし得なかった。

現状では遺構の広がりは、さしてないものと考えられるが勝尾城に関連する遺構と捉えられるため、その性格を把握するための調査が必要である。

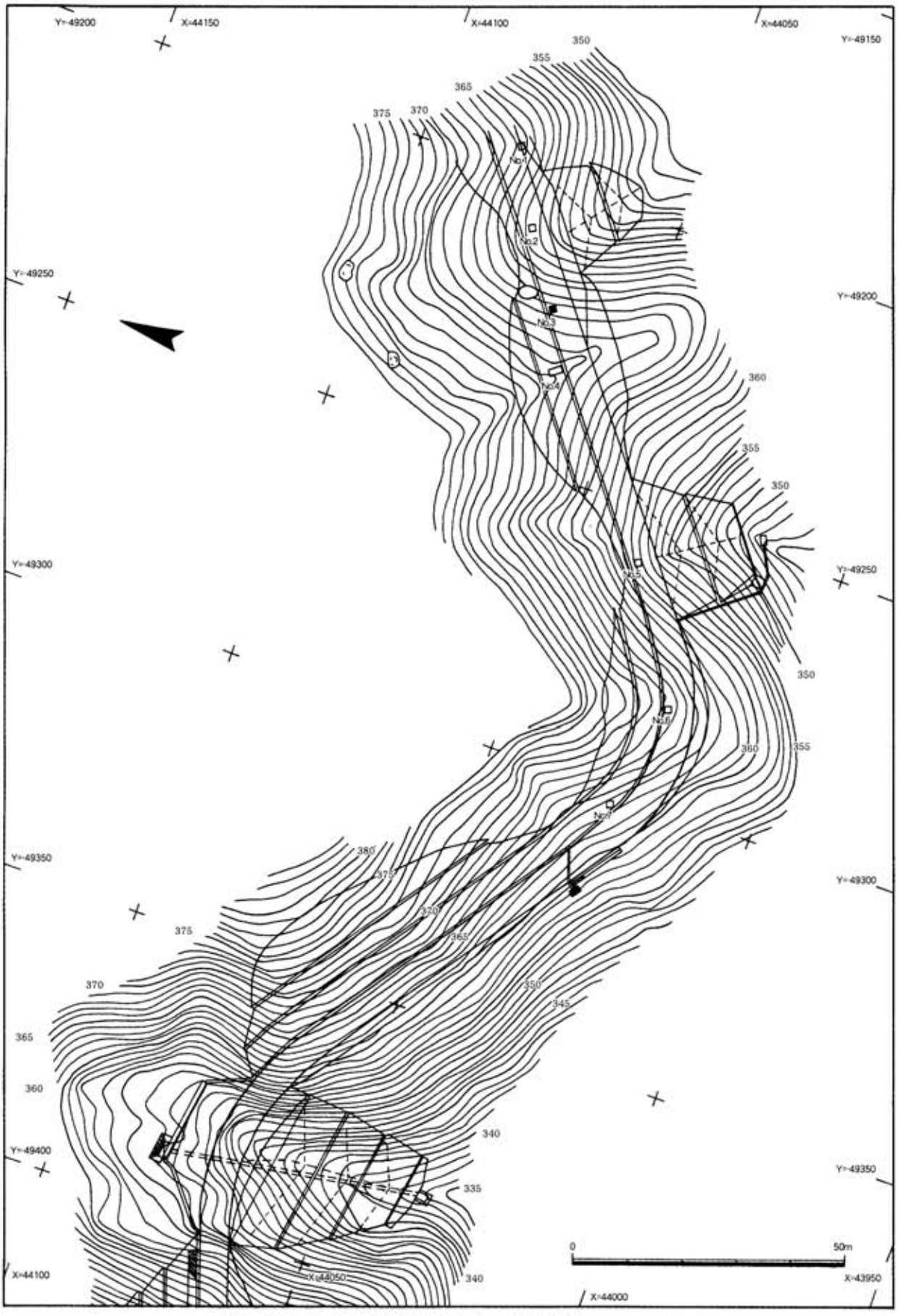


図3　鳥栖市九千部山横断線トレンチ配置図(S＝1：1,000)

(2) 中原町（中原北部地区蓑原工区・中原北部地区綾部工区）

中原北部地区蓑原工区（図4）は、三養基郡中原町大字蓑原の約10haを対象に行なった。

調査対象地区は、脊振山系から南に延びる台地の東側縁辺部及び谷底平野である。調査地は、標高35～45ｍを計る水田部・畑地である。対象地区は、弥生時代～古墳時代の散布地として周知されている野田遺跡（中原町2014・3016）の範囲に含まれている。今回の調査対象の北側では、平成7年度に本調査実施しており、8世紀代の溝および戦国時代の火葬墓などが検出されている。また、対象地区の北側には前田原遺跡（中原町1002・2005・3006）が、西側には植松遺跡（中原町2014・3016）があり、特に前田原遺跡からは、古墳1基、古墳時代前期の住居跡および平安時代の土壙などが検出されている。調査は、対象地のうち遺構が存在する可能性が高い約12,000㎡について、11ケ所のトレンチを設定し、掘削機および人力で行なった。その結果、確認した遺構としては、溝および小穴があり、土器片が出土したが量的には若干である。

今回の確認調査の結果および調査対象区北側の状況から総合して考えると、当該地区には、奈良時代～戦国時代にかけての遺跡が存在することが明らかになった。なお、調査区北側で検出された溝跡については性格、規模について今回は十分な把握ができなかったが今後、検討を要する。

中原北部地区綾部工区（図5）は、三養基郡中原町大字原古賀の約1.8haを対象に行なった。

調査対象地区は、脊振山系から南に延びる台地の東側縁辺部に位置し、東側には寒水川が流れている。調査地は、標高33～43ｍを計る。 対象地区は、縄文時代～中世の散布地として周知されている拾徳遺跡（中原町1017・2029・3042・4010・5015）の範囲に含まれている。特に、宮山の南側にあたるため中世の館跡などが存在する可能性がある。対象地区の北側の丘陵上には、縄文時代～中世の遺物散布地である綾部七本松遺跡（中原町1015・2029・3042・4008・5014）、松谷遺跡（中原町1016・2027・3034・4009・5013）があり、また、寒水川をはさんで東側には弥生時代～古墳時代の散布地である本村遺跡が存在する。調査は、28本のトレンチを設定し、人力により行なった。調査の結果、確認した遺構としては、竪穴住居跡・小穴がある。また、出土遺物としては、縄文土器・黒曜石サヌカイトの剥片・土師器・須恵器などあるが、いずれも磨滅が著しいので西側の台地上から流れ込んできたものと推定される。

今回の確認調査により、当該地区の一部に遺跡が存在することが確認された。しかしながら、遺跡の存在する地点は台地の縁辺部にあたり、寒水川の氾濫や後世の削平などにより遺構の密度は極めて薄い様相を呈している。また、出土した遺物も流れ込んできた状況を示しており、遺構に伴う遺物はほとんどなかった。

(3) 千代田町（佐賀東部地区千代田工区）

佐賀東部地区千代田工区は、神埼郡千代田町大字下坂の約10haを対象に行なった。

調査対象地区は、千代田町の東部、三根町との境に位置する。田手川の右岸に位置する沖積平野で、平均標高3.2ｍ の平坦地であるが、地区内には数箇所の微高地が存在していた。対象地区内には、弥生時代～中世の散布地として周知されている藤ノ木東分遺跡があり、西方には藤ノ木西分遺跡、南方には柳島遺跡が存在する。調査は、掘削機を使用した。掘削を受ける水路予定地に10本のトレンチを設定し、また、2箇所の島状の地形については全面の表土を剥ぎ、遺跡の有無を確認した。調査の結果、地山は黄白褐色の非常に締まった良好な土質であったが、遺構は確認されなかった。なお、出土遺物としては、土師器片を微量採集した。

図4　中原町中原北部（蓑原）トレンチ配置図(S=1：3,000)

図5　中原北部（綾部）トレンチ配置図(S=1：2,000)

2. 佐賀西部地区の調査

図6　佐賀西部地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1	佐賀市（金立南部地区）	7	川副町（晴分地区）	①西千布遺跡	⑤牟田寄遺跡
2	佐賀市（鍋島地区）	8	多久市（本多久地区）	②友貞遺跡	⑥妙常寺北遺跡
3	佐賀市（兵庫西部地区）	9	富士町（佐賀北部）	③金立遺跡	⑦妙常寺南遺跡
4	佐賀市（兵庫西部(東潤)地区）	10	富士町（富士北部）	④下和泉一本椎遺跡	⑧岡遺跡
5	佐賀市（久保泉西部地区）	11	富士町（農免道路関谷地区）		
6	大和町（西部導水地区）	12	三日月町（西部導水地区）		

(1) 佐賀市（金立南部地区・鍋島地区・兵庫西部地区・久保泉西部地区）

金立南部地区（図7）は、平成8年度県営圃場整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市金立町大字千布の約7haを対象に行なった。

調査対象地区は、金立山麓から南に派生する舌状低丘陵上にあって、標高は6～7ｍを測る。対象地区の多くが畑地であり、周辺の水田との比高差は0.6～0.7ｍ程度である。調査対象地区はすべて周知の埋蔵文化財包蔵地である東千布遺跡（2063･3081･4023･5043）、久富遺跡（2062･4022･5042）に含まれている。

調査対象地周辺は、昭和58年以来、発掘調査件数が増加している。これらの調査に伴い、東千布遺跡1区では甕棺墓群、2区では中世の集落跡、久富遺跡では弥生時代中期及び古墳時代の集落跡、友貞遺跡では弥生時代および中世の集落跡を確認している。

調査は、高畑部分を中心に40のトレンチを設定し、掘削機により表土剥ぎを行ない、人力で精査した。試掘状況の写真撮影、平面図・土層略図等の記録作成後、埋戻しを行ない旧状に復した。

調査の結果、ほとんどのトレンチで遺構および遺物を確認した。いずれのトレンチでも高畑部分にしては遺構検出面まで浅く、表土から－0.2～0.3ｍ程度であった。確認した遺構としては、溝・土壙・柱穴・小穴などがあり、弥生時代、古墳時代、中世の遺構と考えられる。特に、No4～6トレンチでは東西に走る中世の溝、No15トレンチでは弥生時代中期の遺物を大量に含む溝などを検出し、比較的遺構密度が高い状況が確認された。

出土した遺物には、黒曜石剥片・弥生土器（壺・甕・鉢・高坏・大型甕など）、土師器（壺・甕・坏・皿・甑など）、須恵器（甕など）、陶器、磁器などがある。

今回の確認調査では、作物等の関係で一部分については確認調査が実施できなかった地点があったが、調査対象地区のほぼ全域で弥生時代から中世にかけての遺構・遺物を確認した。調査区北側では、遺構検出面まで表土から0.15～ 0.2ｍと比較的浅いところもある。さらに、畑地部分では特に遺構密度が濃厚であり、また、水田部においても溝、小穴などが遺存している可能性が高いと推定される。

鍋島地区（図8）は、平成8年度県営圃場整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市鍋島町大字森田の約40haを対象に行なった。

調査対象地区は、佐賀市の西部に位置する圃場である。標高約3～4ｍの低平な平野部で、対象地の西側には嘉瀬川が南北に流路をとっている。対象地の北半分は周知の埋蔵文化財包蔵地（森田遺跡）として知られているが南半分は未周知となっていた。

調査対象地周辺は、近年の圃場整備の進展に伴い、遺跡の新発見が相次いでいる。対象地の南側には、12世紀後半を中心とした時期の屋敷地の一部が確認された大西遺跡や袋田遺跡がある。調査は、水路・道路予定地を中心に127箇所のトレンチを設定し、掘削機による表土剥ぎを行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。

調査の結果、No10・37・46・48・113・114・116・118・120 トレンチで遺構を検出し、対象地の北東側と南東側に遺跡の広がりを確認した。確認した遺構は、中世から近世にかけての溝・土壙・小穴などであり、遺跡の性格としては集落跡と推定される。

出土した遺物には、中世から近世にかけての土師器・陶磁器が出土している。

今回の確認調査では、対象地の北東部と南東部において約33,000㎡に及ぶ遺跡の広がりを確認した。これにより、掘削される水路などについては発掘調査（本調査）の必要があると判断され、平成8～9年度に発掘調査を実

施することで調整を行なっている。

また、今回確認した遺跡の範囲のうち、南東部のものについては新発見の遺跡であったので、遺跡の発見の手続きを取り、「江頭遺跡」（佐賀市鍋島町大字森田887-1外）で佐賀県遺跡地図に登録した。

兵庫西部地区（図9）は、平成8年度県営圃場整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市兵庫町大字下淵の約40haを対象に行なった。調査対象地区は、佐賀市の東部に位置する圃場である。標高約3.3ｍを測る低平な平野部で、周辺にはクリークが縦横に走っている。対象地の大部分が、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていないが、地区内には「長泉寺跡」と伝承がある墓地が存在する。また、対象地周辺には淵川城（5073）が所在する。

調査対象地周辺の大部分は、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていないが平成6年度の確認調査で2地点で新たに遺跡が発見され、翌平成7年度に発掘調査を実施し、中世末から近世の遺物。遺構が確認されている。

調査は、水路・道路予定地を中心に50箇所のトレンチを設定し、掘削機による表土剥ぎを行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。これらの記録作成後、埋め戻しを行ない旧状に復した。

調査の結果、No28トレンチで小穴1基を検出した。出土した遺物はまったく無かった。

今回の確認調査では、（伝）長泉寺跡は、墓地が圃場の中に狭い範囲で残っているが、寺域の大半は削平を受けていることが明らかになった。また、対象地は遺構密度が極めて薄いことが確認され、圃場整備事業施行について支障はないと判断された。

兵庫西部東淵地区（図9）は、平成8年度県営圃場整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市兵庫町大字淵の約35haを対象に行なった。

調査対象地区は、佐賀市の東部に位置する圃場で、標高約3.5～4.0ｍの平坦低地に位置し、対象地区の北から東にかけて巨勢川が大きく蛇行する。

調査対象地周辺には、南側に淵川城跡（5073）が位置するとされるが、平成6年度の確認調査では遺構は確認されていない。また、南方400ｍ、東方600ｍには平成7年度調査の妙常寺北遺跡・妙常寺南遺跡の発掘調査が行なわれており、古墳時代（5世紀）、平安時代～中世の遺構・遺物が検出されている。

調査は、掘削機により、2ｍ×2ｍ基本としてトレンチを掘削し、状況に応じて長さ6ｍまで広げて遺構・遺物の有無を確認した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。これらの記録作成後、埋め戻しを行ない旧状に復した。

調査の結果、No18トレンチで中世（鎌倉時代：13世紀後半）の井戸・土壙並びに溝状の遺構が検出された。その他のトレンチでは遺構は確認されなかった。

出土遺物は、上記以外では、表土・床土・クリークの埋土より中世から近世の土師器・青磁・陶器、古代の須恵器などが出土した。今回の確認調査では、遺構を検出したNo18トレンチ付近はクリークによって囲まれる島状の地形を成しており、現在、これと県道を挟んだ東側No32，33トレンチではNo18トレンチと同の灰褐色粘土を地山としており、周辺部の粘性の強い暗褐色粘土とは状況が異なる。おそらく、県道を挟んだ現集落付近が微高地となっており、遺跡が存在している可能性が高い。なお、その他のトレンチでは遺構は確認されておらず、湿地性の地形、あるいは巨勢川の氾濫原であったと考えられる。

図7　佐賀市金立南部トレンチ配置図(S=1：3,000)

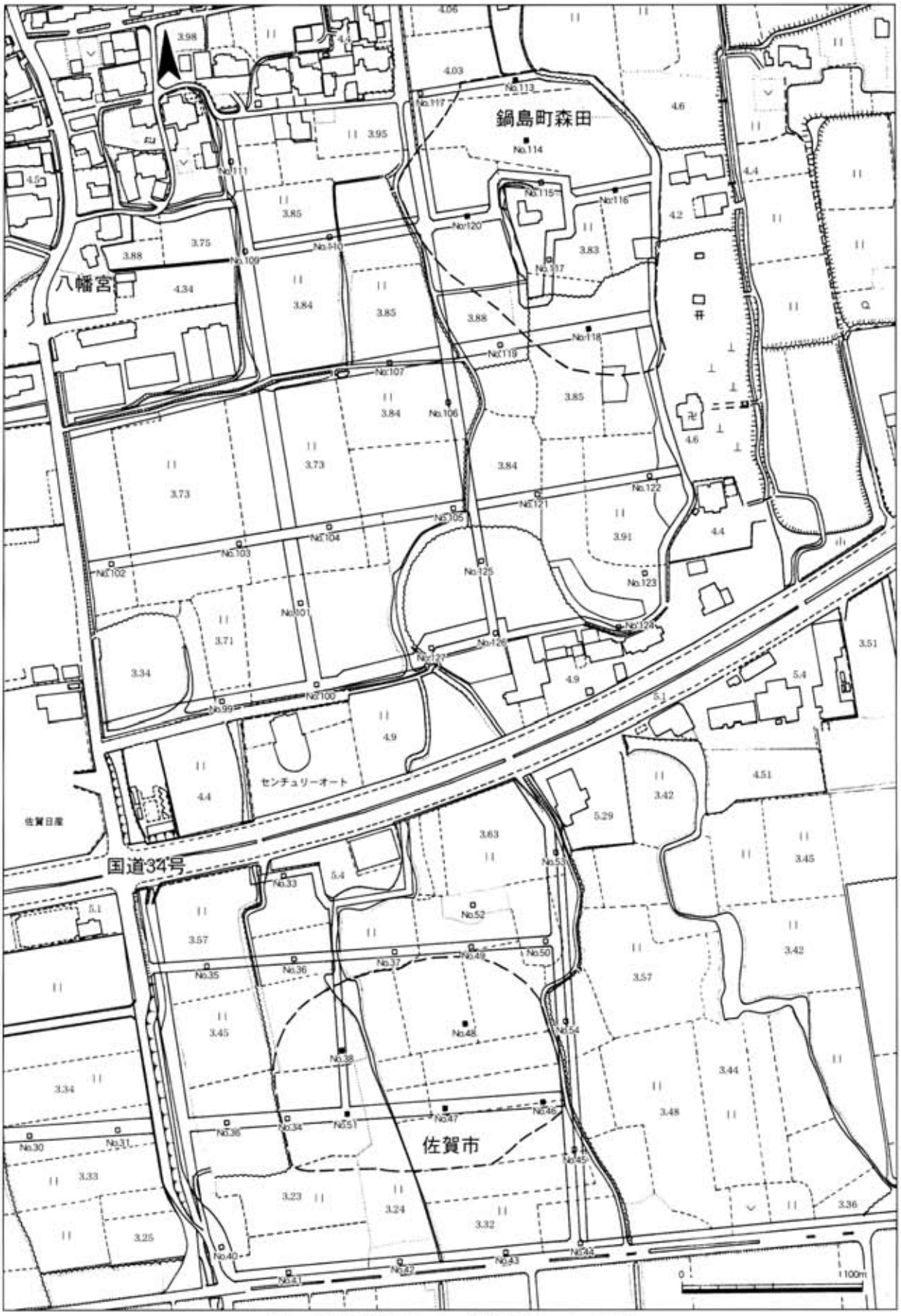


図8　佐賀市鍋島トレンチ配置図(S=1：3,000)

3. 佐賀南部地区の調査

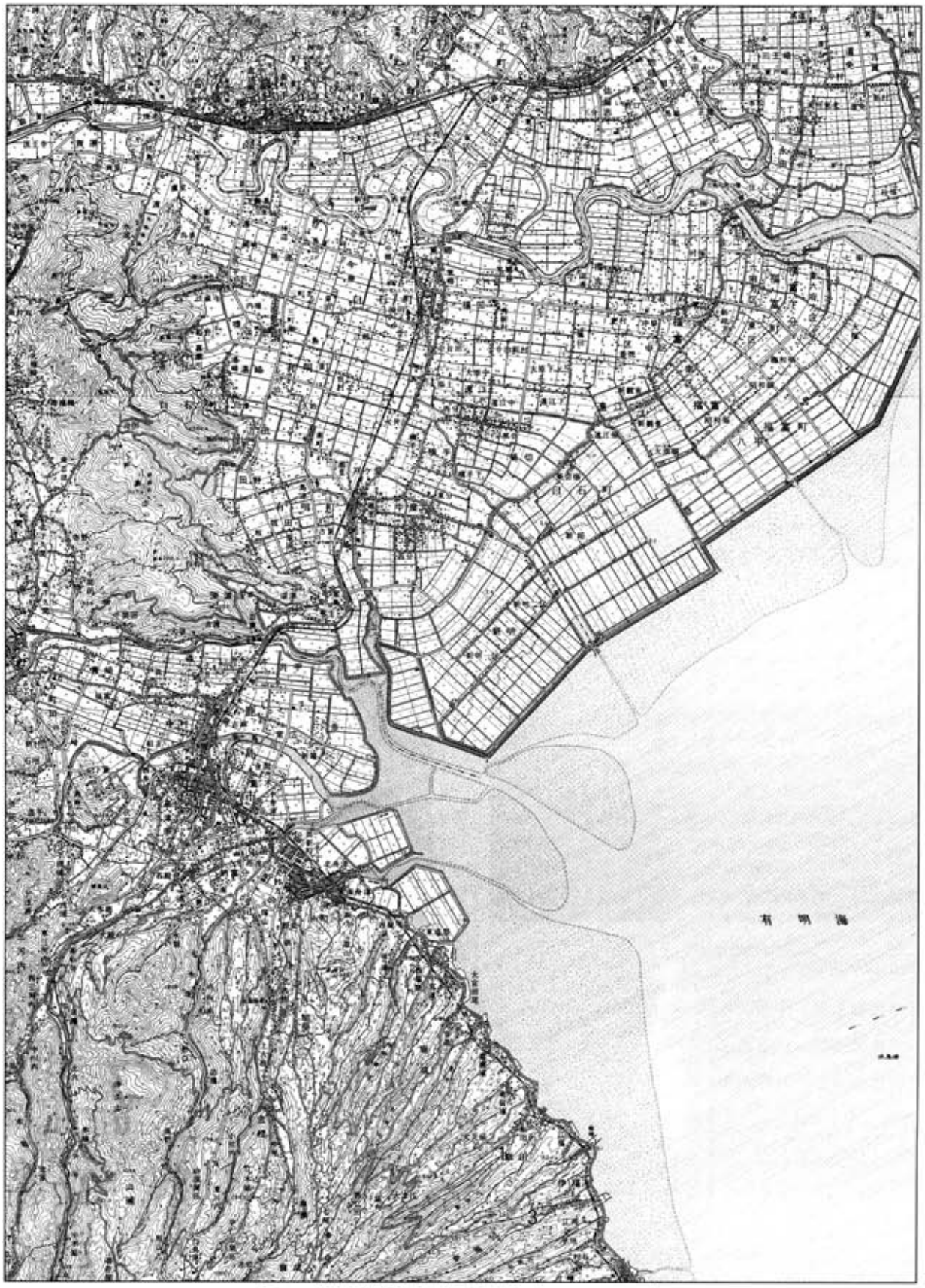


図14　佐賀南部地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1. 鹿島市（飯田地区）　2. 江北町（江北地区）　3. 太良町（伊福地区）　①焼石遺跡

図9　佐賀市兵庫西部（東淵）トレンチ配置図(S=1：3,000)

図10　佐賀市久保泉西部トレンチ配置図(S＝1：2,000)

(1) 鹿島市（飯田地区）

飯田地区は県営圃場整備事業に伴って確認調査を実施した。

当該地は大良岳火山の造山運動によって作られた谷である。谷の両岸は造山当時の山の傾斜を残し、緩やかにまっすぐ海の方向に傾斜している。谷は、当該地から急に広がり、末端では2つの谷が合流して300ｍほどの幅になっている。

七浦地区で同様な立地上にある遺跡として西塩屋貝塚、西塩屋古墳がある。これらの遺跡は丘陵の末端部のほぼ海岸沿いに立地している。

掘削機（バックフォー）により89箇所の調査坑を設定した。

調査の結果、遺構は検出されなかった。また、遺物も確認されなかった。

当該地は飯田日当川および飯田川の氾濫原と考えられ、基盤層である褐色礫混じり粘質土の崩壊土および流失土を中心とする堆積が広がっている。また、部分的には旧河道と考えられる礫層などもみられる。良好な包含層は確認できず遺構・遺物も検出されなかった。したがって、当該地には遺跡は残存しないと考えられる。

(2) 江北町（江北地区地区）

江北地区（図15・16）は、平成7～9年度中山間地域農村活性化総合事業江北地区（上区・観音下圃場整備工区）に伴い確認調査を実施した。

調査は、杵島郡江北町大上小田の19.4haを対象に行なった。

調査対象地区は、六角川の支流祇園川が作る扇状地一帯に広がる水田部である。標高は8.5～30ｍである。地区西部から北部にかけて近代に栄えた炭坑関係の施設・ボタ山等が存在する。対象地区内には、弥生時代～中世の遺物散布地である馬場北遺跡が含まれるほか、周辺には縄文時代～中世の遺物散布地が多数存在する。

調査は、掘削機により1.5ｍ×3ｍを原則とするトレンチ150箇所を設け、遺跡の有無・性格等を詳査した。

調査の結果、旧河川・谷部を除くほぼ全域で小穴・土壙・井戸状遺構等を確認した。

遺構の時期は、出土した遺物より弥生時代中期、および中世を中心とするもので、一部近世の遺構も認められる。また、遺跡の周辺には、遺物包含層が確認できた。

トレンチから出土した遺物としては、弥生土器、土師器、須恵質土器、黒曜石片、輸入磁器、近世陶磁器等が多数出土した。一部古墳時代～古代のものと思われる遺物も含まれる。なお、各トレンチより安山岩片が出土するが周辺の基盤が同石であるため、石器剥片とは認めにくい。

今回の確認調査により、調査対象区のほぼ全域に、弥生時代～中世（一部近世）の集落が広がっているものと考えられる。

(3) 太良町　（伊福地区）

伊福地区は団体営圃場整備事業（平成7年度施工3.8ha、平成８年度施工4.4ha　合計8.2ha）に伴い確認調査を実施した。調査対象地区は、伊福川に開析された標高5～30ｍの谷底平野である。対象地区の北東側丘陵上に椎木遺跡（4001古代、散布地）が離れてあるのみで地区内および隣接地に遺跡の存在を知られていない。

調査は、掘削機により試掘坑（トレンチ）10箇所を設け、遺跡有無・性格等を試掘した。調査の結果、いずれの試掘坑においても河川による堆積と思われる礫層であり、遺構・遺物は認めらなかった。

地区内には埋蔵文化財は所在しないと考えられる。

久保泉西部地区（図10）は、平成8年度県営圃場整備事業（追加編入分）に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市久保泉町大字川久保字上分の約0.17haを対象に行なった。

調査対象地区は、佐賀市の北部に位置する圃場である。周辺の大半は農業基盤整備事業が終了している。トレンチ設定部分は巨勢川の河岸段丘上にあり、現状は畑となっている。地区内には、周知の埋蔵文化財包蔵地（川久保松原遺跡）が所在している。

平成4年度に川久保遺跡・川久保松原遺跡・御手水遺跡の発掘調査を実施し、古墳時代から奈良・平安時代の集落跡を確認した。検出した遺構には、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土壙などがあり、出土遺物としては土師器（壺・甕・鉢・坏・高坏）、須恵器（坏など）がある。

調査は、基盤整備編入圃場（畑）に3箇所のトレンチを設定し、掘削機による表土剥ぎを行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。これらの記録作成後、埋め戻しを行ない旧状に復した。

調査の結果、No1・2・3トレンチで溝、小穴を検出した。

出土した遺物は土師器細片が微量出土した。

今回の確認調査では、（伝）長泉寺跡は、墓地が圃場の中に狭い範囲で残っているが、寺域の大半は削平を受けていることが明らかになった。また、対象地は遺構密度が極めて薄いことが確認され、圃場整備事業施行について支障はないと判断された。

(2) 多久市（本多久地区）

本多久地区（図11）は、平成8年度県営圃場整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、多久市多久町本多久の10.5haを対象に行なった。

調査対象地区は、鬼の鼻山系北麓から東流する牛津川まで緩やかに傾斜する丘陵地の中ほどに位置する水田地帯である。調査区内南端を2本の川が流れ、ほどなく合流し古野川となり牛津川へと流れ込んでいる。

調査対象地周辺は、農道を挟んで西側には、平成7年度に本調査を実施し、小穴や溝から縄文時代後期の土器が大量に出土した岡遺跡が所在している。また､500ｍほど南の林の中には唐人古場窯跡があり、窯道具や特殊な焼物が出土していおり、朝鮮人の陶工が築いた窯と推定されている。

調査は、掘削機による表土剥ぎおよび試掘を行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。調査状況の写真撮影、平面図・土層略図等の記録作成後、埋戻しを行ない旧状に復した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。これらの記録作成後、埋め戻しを行ない、掘削機が通過した地点の畦畔等の補修を行なった。

調査の結果、調査区南側から中央部にかけて遺構が検出された。確認された遺構は、直径約15cm～25cmの小穴群が主で、その他数箇所のトレンチで溝状遺構および土壙を検出した。また、西側の岡遺跡寄りにも小穴群を確認した。

出土した遺物は、縄文時代後期の土器片が主で、その他黒耀石・サヌカイトの剥片が数点出土した。

今回の確認調査は、対象地が岡遺跡に近いことから、遺構の存在が予想されていた。調査の結果、約15,000㎡の広範囲にわたり小穴群・溝状遺構が検出され、また、出土遺物も岡遺跡と同時代の縄文時代後期の土器片が出土しており、岡遺跡に関連する遺跡であると推定される。以上のことから、調査区南側から中央部にかけての部分と岡遺跡寄りの一部については本調査が必要と考えられる。

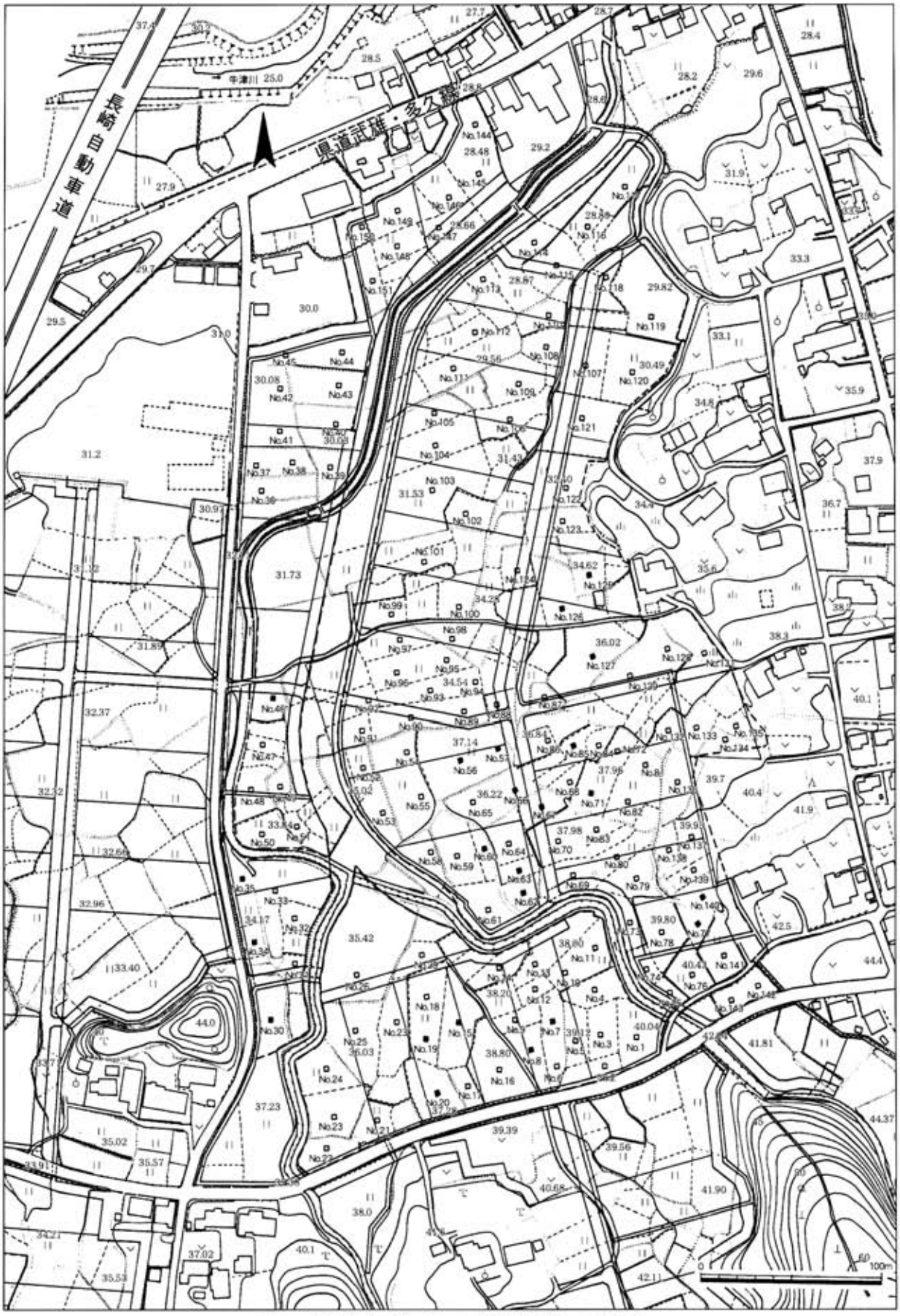


図11　多久市本多久トレンチ配置図(S=1：3,000)

図15　江北町江北トレンチ配置図（1）（S=1：3,000）

(3) 大和町（西部導水川上南部第1地区）

西部導水川上南部第１地区（図12）は平成9年度西部導水事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀郡大和町大字久留間字行者2377−2ほかを対象に行なった。

調査対象地区は、大和町の西南部、平川の東の水田地帯に位置する。調査区の東南約2kmにある嘉瀬川の氾濫原の微高地上には弥生時代の甕棺墓等を検出した池上二本松Ｂ遺跡や久留間遺跡、楢田三本松遺跡等の弥生時代の遺跡や風楽寺古墳などの前方後円墳がある。また、北には川上小学校改築に伴い調査された弥生時代後期〜古墳時代初頭にかけての環壕集落を確認した榎木遺跡がある。

調査は、開発区に沿って約20ｍ間隔で、2ｍ×2ｍのトレンチを入れ遺構の有無を確認した。トレンチの位置を平面図に記録し、土層断面図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。これらの記録作成後、転圧機（タンパ）を併用し、埋め戻しを行ない旧状に復した。

調査の結果、第2トレンチで耕作土下40cmの明褐色粘質土層上で径60cmの土壙を検出した。また、第8トレンチでは、旧河川と思われる砂層が堆積し、その他のトレンチでは、暗灰色・黒色粘土が厚く堆積していたことから、調査区周辺は、かつて幾つかの小さな谷部が入り込んだ複雑な地形をしていたと考えられる。

出土した遺物は、第2トレンチ周辺の各トレンチで谷部、旧河川の埋土中より流れ込みと思われる弥生土器、奈良時代の土師器細片が少量出土している。

今回の確認調査では、調査対象地西端の一部で遺構・遺物が確認された。その他の地域は、谷部などの湿地であったと考えられ、遺構・遺物は確認されなかった。

(4) 三日月町（西部導水　戊工区）

西部導水戊工区（図13）は平成8年度西部導水事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、小城郡三日月町大字長長田1157外13筆の2,500㎡を対象に行なった。

調査対象地区は、天山山系から流下する祇園川の堆積作用により形成された扇状地上に位置する。現状は農道であるため、隣接する農地（水田）を借用して調査を行なった。当該地は戊遺跡の約100ｍ南側、佐織遺跡の約500ｍ西側に位置する。

調査は、人力と掘削機によるトレンチ調査を実施した。工事予定地区の大半が現農道にあたるため、隣接する農地を借用して、その部分の確認調査を行なった。借用した土地内にトレンチを計14箇所設定した。トレンチの規模は2ｍ×2ｍを基本としたがその限りでないものもある。

調査の結果、第7・8トレンチで遺構を検出した。第7トレンチでは小穴2基を検出した。このうち、Ｐ1では柱痕が一部遺存しており、また、埋土中（黒色土）からは底部糸切りの土師器小皿底部小破片が出土した。第8トレンチでは溝状遺構を検出した。西側の落ち際のみ検出し、東西方向に延長する。埋土は褐色砂礫土でやや硬質である。遺物は、土師器小破片が1点のみ出土しているが、詳細な時期は不明である。その他、第10トレンチの第3層中から土師器小破片が3点出土しているが、土層の堆積状況から河川氾濫等による流れ込みと考えられる。

今回の確認調査では、調査区西側（第6トレンチ以西）は河川氾濫によると考えられる厚い土砂の堆積や湿地と考えられる黒灰色系粘質土の堆積があり、遺構は存在しない。

遺構の検出される基盤層は明黄褐色・明黄褐色粘質土系で第6・7・8トレンチで確認した。第6トレンチでは遺構は検出していないが、湿地への落ち際と思われる落ち込みを検出した。第9トレンチより東側では基盤層は検出していない。

以上より、遺構の存在する範囲は、第6～8・9トレンチ間の範囲にある程度限定し得るものと考えられる。また、第7・8トレンチで小穴2基、溝状遺構1条の遺構を検出しているが、遺構密度は10%以下の低いものと考えられる。

西部導水緑地区・佐織・三ケ島工区は平成8年度西部導水事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、小城郡三日月町大字道辺字緑、大字長神田字佐織の8,345㎡を対象に行なった。

調査対象地区は、天山山系から流下する祇園川の堆積作用により形成された扇状地上に立地し、標高9～12ｍの水田部に位置している。周辺の遺跡としては調査対象地南端付近は佐織遺跡が所在し、さらにその西方には戊遺跡がある。

調査は、人力と掘削機によるトレンチ調査を実施した。工事予定地が現農道にあたるため、隣接する農地を借用して、調査を行なった。借用した土地内にトレンチを計32箇所設定した。トレンチの規模は2ｍ×2ｍを基本とした。

調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認できなかった。

出土遺物としては唯一第22トレンチ内より数点の中世土師器片を確認したが土層を観察すると圃場整備時の客土（第2'層）よりの出土であり、他地区から搬入された物と考えられる。

今回の試掘調査では、遺跡は確認されなかった。祇園川に近接する地区では地表下100ｍ前後で砂質土や砂礫が確認され流水の方向等も確認できることから河川であったことが推測できる。南部から南西部にかけて灰黒色～暗青灰色粘質土の基盤層が確認され湿地の様相を呈するようになるが部分的には砂質土が検出されることから祇園川の小支流などが存在したものと考えられる。

(5) 川副町（唸分地区）

唸分地区は、平成7年度団体営農村基盤整備総合整備事業に伴い、確認調査を実施した。

調査は、佐賀郡川副町大字唸分の17haを対象に行なった。

調査対象地区は、標高1.8～1.9ｍの冲積平野であり、現況は水田である。調査対象地区の北東約1.5kmには、中世の館跡である鹿ノ江遺跡、鹿ノ江城（館）跡がある。

調査は、掘削機によって1.1ｍ×3～4ｍのトレンチを29箇所設定・掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査の結果、遺構、遺物ともに確認できなかった。調査を行なったほぼ全面で褐色粘土～青灰色粘土の堆積が認められた。遺構が存在する可能性として、南側の集落付近を考えていたが、調査を行なった範囲内では、堆積状況は同一であった。また、東側の一部については、掘削機の進入が困難であったため、調査の対象から除外したが、周辺部の試掘の結果からみて、遺跡は存在しないものと考えられる。

(6) 富士町（富士北部地区・佐賀北部地区・関屋地区）

富士北部地区は平成8年度県営中山間地域総合整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀郡富士町大字古湯字大前田の6.3haを対象に行なった。

調査対象地区は、標高500ｍ前後の山々によって形成された標高300ｍ～400ｍの谷に伸びる尾根の舌状台地先端に位置する。現況は台地を若干削って整地し、水田となっている。縄文時代の散布地として周知されている大前田遺跡（富士町1004）に含まれている。調査は、人力によるトレンチ調査を実施した。トレンチの規模は1.5ｍ×1.5ｍで2箇所設定した。

図16　江北町江北トレンチ配置図（2）(S＝1：3,000)

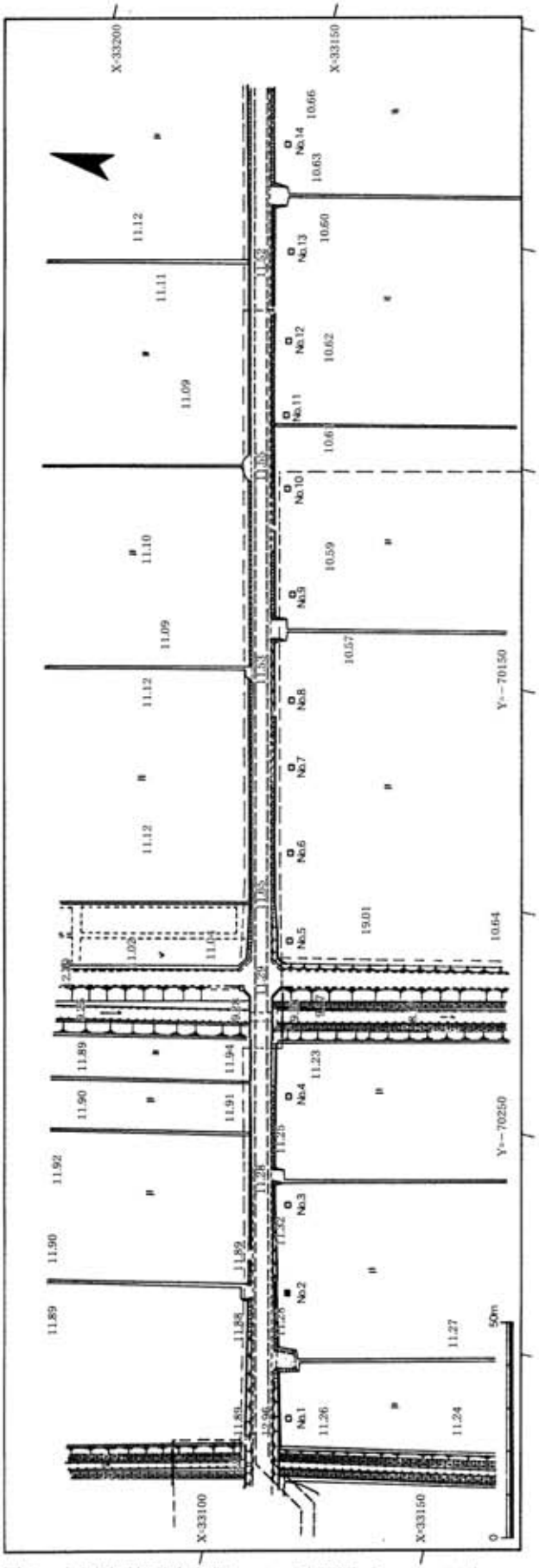


図12　大和町西部導水事業トレンチ配置図（S=1：1,000）

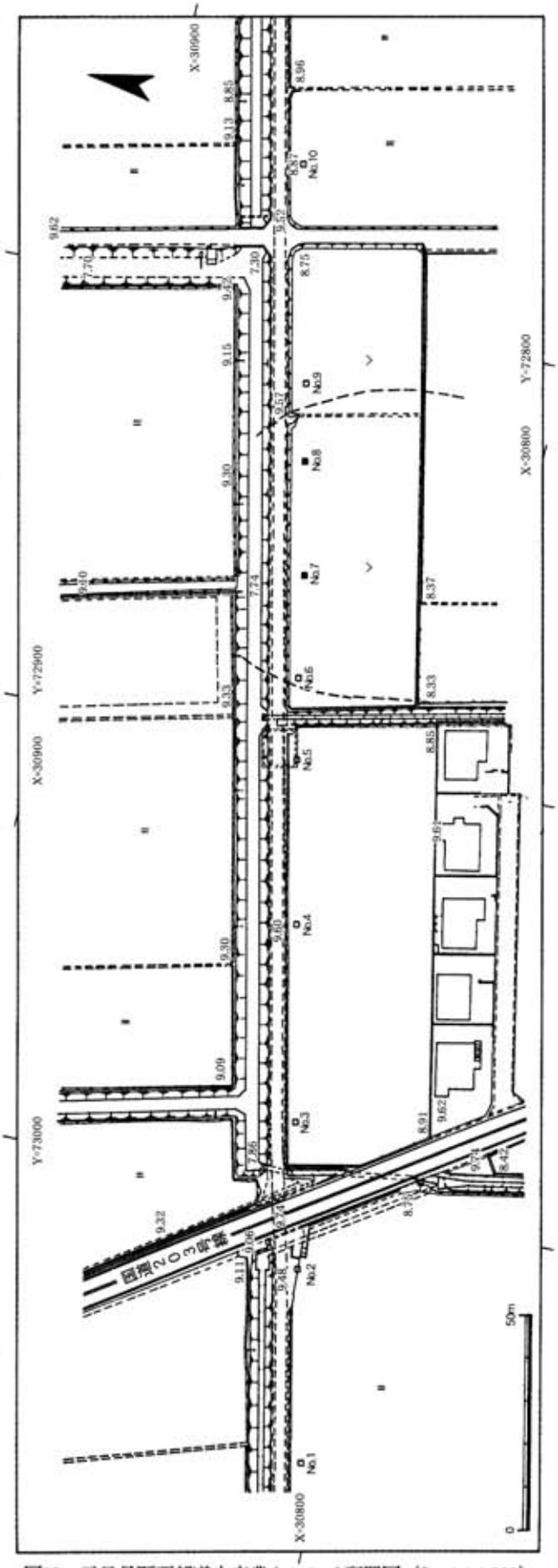


図13　三日月町西部導水事業トレンチ配置図（S=1：1,000）

調査の結果、削平されていたため、遺構・遺物ともに確認されなかった。

佐賀北部地区は平成8年度広域営農団地農道整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀郡富士町大字古湯字松葉の延長400ｍを対象に行なった。

調査対象地区は、東方から伸びた標高380ｍの台地と、北側の標高370ｍ前後の谷からなる起伏に富んだ地形である。現況は若干削って整地造成されて谷部は水田、台地には畑が形成されている。調査対象地は縄文時代の散布地として周知されている古場遺跡（富士町1003）に含まれている。調査は、人力によるトレンチ調査を実施した。トレンチの規模は1.5ｍ×1.5ｍで2箇所設定した。調査の結果、耕作土中より流れ込みと思われる摩耗した土器片1点を検出したが遺構は確認されなかった。

関屋地区は、平成７年度農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀郡富士町大字関屋字山口2200－3の延長1,640ｍを対象に行なった。

調査対象地区は、標高430ｍの山に東西を挟まれた標高350ｍ平坦地であり、西側は天神地区への谷道が通じている。現況は、水田となっている。縄文時代の散布地として周知されている馬場野遺跡（富士町1016）に含まれている。調査は、人力によるトレンチ調査を実施した。トレンチの規模は1.5ｍ×1.5ｍで1箇所設定した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

1

2

3

1　Ⅰ佐賀東部　中原

2　Ⅱ佐賀西部　兵庫西部

3　Ⅲ佐賀西部　兵庫西部

図版1　確認調査状況（佐賀東部地区・西部地区）

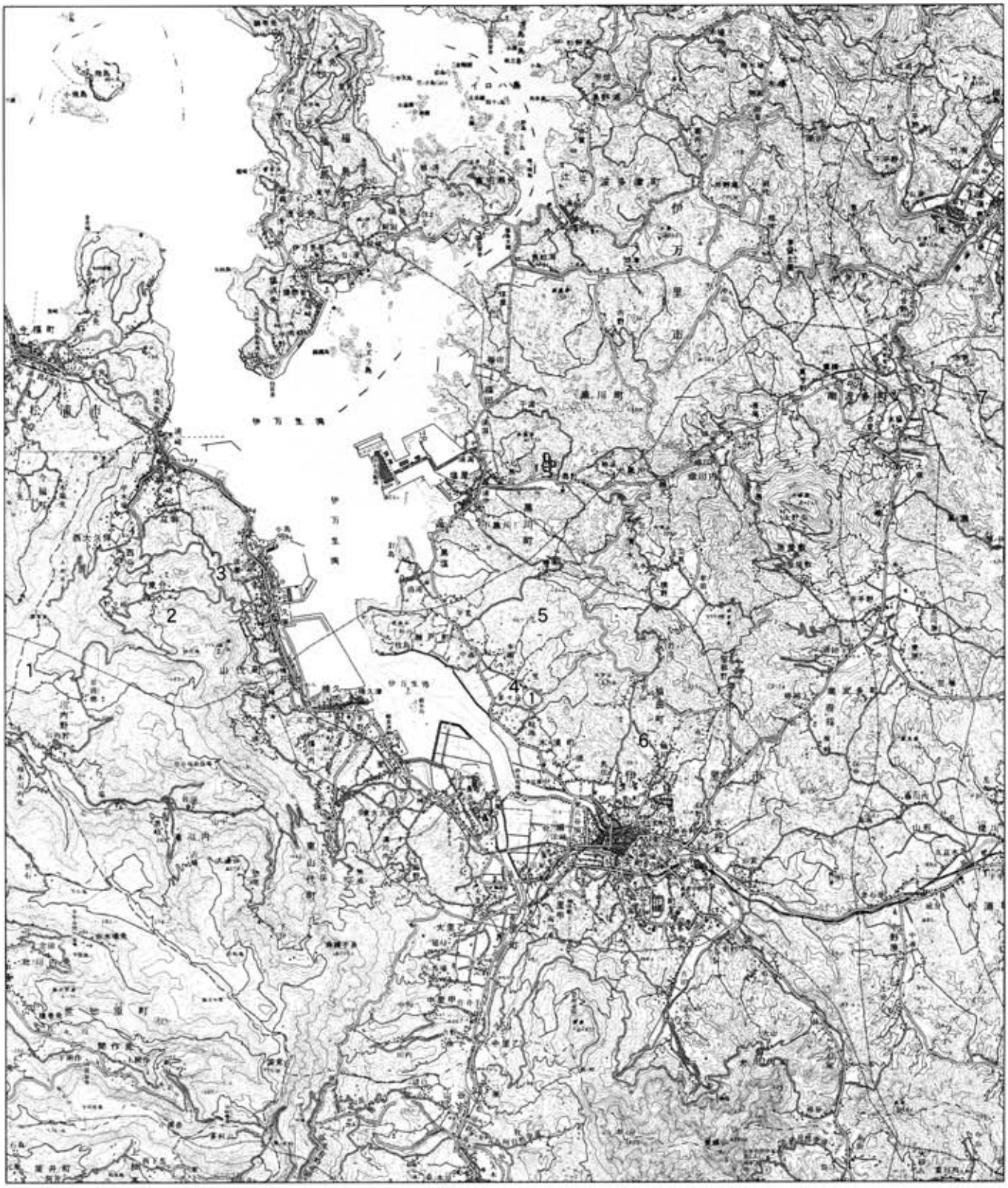


図17　佐賀北部地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1　伊万里市（滝野線）　　5　伊万里市（木須西団地）　①　宮ノ前北遺跡

2　伊万里市（東分）　　6　伊万里市（平山団地）

3　伊万里市（久原）　　7　北波多村（岸岳）

4　伊万里市（木須里団地）

(1) 伊万里市（国営総合農地開発　木須団地里・木須西団地・平山団地、滝野線・東分地区・久原地区）

伊万里市では、国営伊万里地区総合農地開発事業に伴い、木須団地里・木須西団地・平山団地、普通林道事業に伴い滝野線、鉱害復旧事業に伴い東分地区・久原地区の確認調査を実施した。

木須団地里工区は、国営総合農地開発に伴い伊万里市木須町字宮ノ前の10.2haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、木須川によって形成された扇状地上に位置する。扇状地は大きく北西方向に開けており、標高4～7ｍを測る。丘陵上を中心に、鳥越遺跡（伊万里市1086）、宮ノ前遺跡（1086）、駄道遺跡（1083）、木須崎遺跡（1082）など縄文時代の散布地、包含層が確認されている。特に、平成6年度の確認調査により縄文時代、古墳時代の包含層、および中世の柱穴群を確認し、縄文時代～中世の遺跡として周知化を行なった宮ノ前北遺跡（1355・2064・3031・5076）では、平成7年度工事予定箇所については本調査を実施している。

調査は、掘削機及び人力により、2×2ｍのトレンチを基本に108箇所の試掘を行なった。

調査の結果、No23トレンチで土壙、No24トレンチで溝、No21・25・37・45・52トレンチで柱穴を確認した。また、No23トレンチでは積石塚で五輪塔の一部（空風輪）が奉られていた。さらに、No20～24・29・36～38・53トレンチで遺物包含層を確認した。

出土遺物は、包含層では縄文土器（縄文時代後期）、弥生土器（弥生時代前期）、石器（黒曜石）、土師器、瓦器、手捏ね土器などが出土したが、遺構に明確に伴う遺物は今回の確認調査では出土しなかった。

今回の確認調査では、No20～25・29・36～38・45・52・53トレンチで遺物包含層および遺構を確認した。遺構は柱穴が主体であり、遺物包含層はかなりの混入が見られる。

他のトレンチでも土器片、石器片などが出土していることから、かなり広い範囲で遺跡が存在していたと思われるが後世の水田開発によって削平を受けたと考えられる。

伊万里市内では、縄文土器および弥生時代前期の土器の出土例が少なく、今回確認された遺跡は貴重である。確認された遺跡の範囲は約4,100㎡である。

また、No47トレンチでで積石塚で五輪塔の一部が（空風輪）が奉られている。積石の石は拳大からその半分程度の大きさで、平面プランは歪んだ方形である。腰石などの設置は確認されなかった。時期は不明であるが約23㎡の遺跡の広がりを確認した。

なお、平成7年度工事予定地内で工事中に獣骨などが発見されたため、緊急的に現地で協議を行ない確認調査を実施した。

調査の結果、中世の貝塚が約12㎡に広がっていること確認したので、貝塚の実測および遺物の採集などを実施した。貝塚はカキ・アカガイが主体となって形成されていたが、その他の出土遺物としては、糸切り底の土師器皿片、黒曜石片・獣骨片を確認した。調査終了後、現場渡しを行なった。

木須西団地は、伊万里市木須町木須西地内の15.7haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、伊万里湾の東側、大平山からへ派生する丘陵の縁辺部に位置している。標高28～93ｍを測り、現状は果樹園、水田、山林および荒蕪地となっており、調査区の南側には観音屋敷跡（5018）・宮ノ前北遺跡がある。調査は、9箇所のトレンチを設定し、掘削機による試掘を行なったが遺構・遺物ともに確認されなかった。

平山団地は、伊万里市脇田町平山地内の11haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、伊万里市街地の北方を南北に流れる脇田川東岸の河岸段丘に立地し、標高19～40ｍの水田部である。調査区の東側には、瓶屋窯跡（6006）・脇田韓人墓（6007）・古瓶屋窯跡（6008）があり、北側には平山遺跡がある。

調査は、9箇所のトレンチを設定し、掘削機による試掘を行なったが遺構・遺物ともに確認されなかった。

滝野線は、伊万里市東山代町日南郷地内の1.5haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、国見山系から東に派生した丘陵の縁辺部に位置している。標高338～435ｍを測り、現状は道路・森林および畑地で、日南郷遺跡（1529）、日南郷石塁（5064）が開発予定地に含まれている。

調査は、16箇所のトレンチを設定し、人力による試掘を行なったが遺構・遺物ともに確認されなかった。

東分地区は、伊万里市山代町東分地内の4.22haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、国見山系から北東に派生した丘陵から分岐して北西に派生した丘陵に立地している。標高174～230ｍの水田、畑地および荒蕪地である。

調査は、19箇所のトレンチを設定し、人力による試掘を行なったが遺構・遺物ともに確認されなかった。

久原地区（図18）は、伊万里市山代町久原地内の14.5haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、国見山系から東方に派生した丘陵に立地している。標高11～180ｍの水田および畑地であり、筒ノ原遺跡（1278・2048・3019）・城休遺跡（1289・3024）が開発予定地区に含まれている。また、東側では目代屋敷跡（6069）に隣接している。

調査は、42箇所のトレンチを設定し、人力による試掘を行なった。調査の結果、No22・24・26トレンチで遺物包含層を確認したが、他の地点からは、遺構・遺物ともに確認されなかった。

出土遺物は、縄文時代土器（晩期）や土師器片など10数点と黒曜石片70数点出土したが、土器片はすべて摩耗しており2次堆積と思われる。

この調査により、鉱害復旧事業８工区の南から北へ派生する丘陵の鞍部に2次堆積の包含層が約 1,300㎡の範囲に遺存していることが確認されたが、協議の結果、工事の設計変更（盛土対応）による保存を行ない、工事を施工することになった。

(2) 北波多村（岸岳地区）

北波多地区は、県営中山間地域農村活性化総合事業に伴い、東松浦郡北波多村大字志気3619ほかの6.3haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、標高90～100ｍの丘陵地、西側半分は徳須恵川支流の志気川水系の小河川によって開析された谷であったものが、鉱害復旧事業により埋め立て造成されて平坦地となったもので、東側半分は丘陵の縁で、今回の調査よって丘陵地を削平して水田を造成していることが判明した。　対象地区北方のやや離れた地点に縄文時代散布地の芋木遺跡・川頭遺跡が所在している。調査は、4箇所のトレンチを設定し、掘削機および人力による試掘を行なったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

今回の調査により、耕作土・床土の直下は岩盤および岩盤上部の風化部分で水田自体が既に旧地形を大幅に改変して造成されたものであることが判明した。遺物の散布も認められず、対象地区内には遺跡は存在しないと考えられる。

図18　伊万里市久原トレンチ配置図（S=1：2,000）

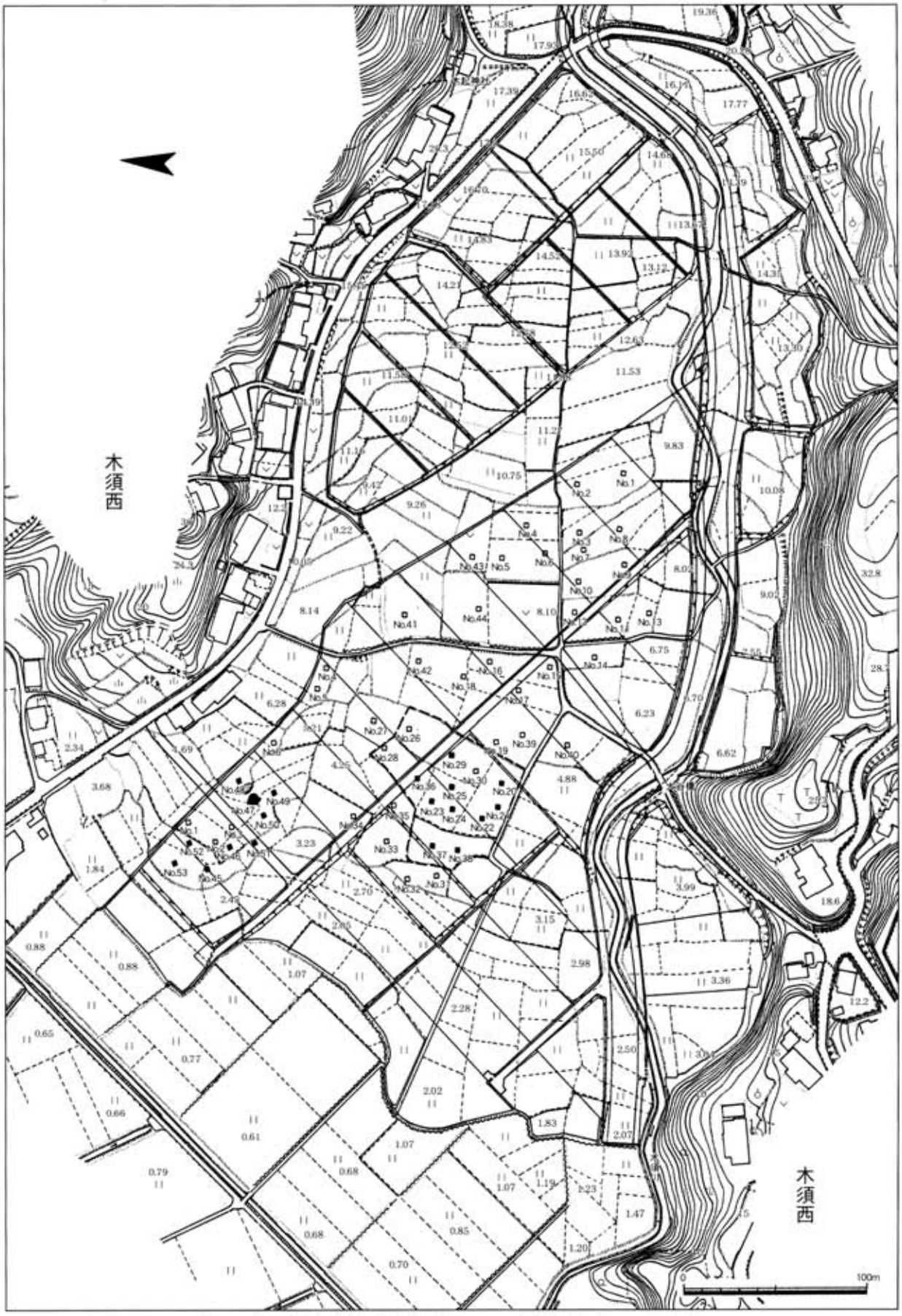


図19　伊万里市木須（里）団地トレンチ配置図（S=1：3,000）

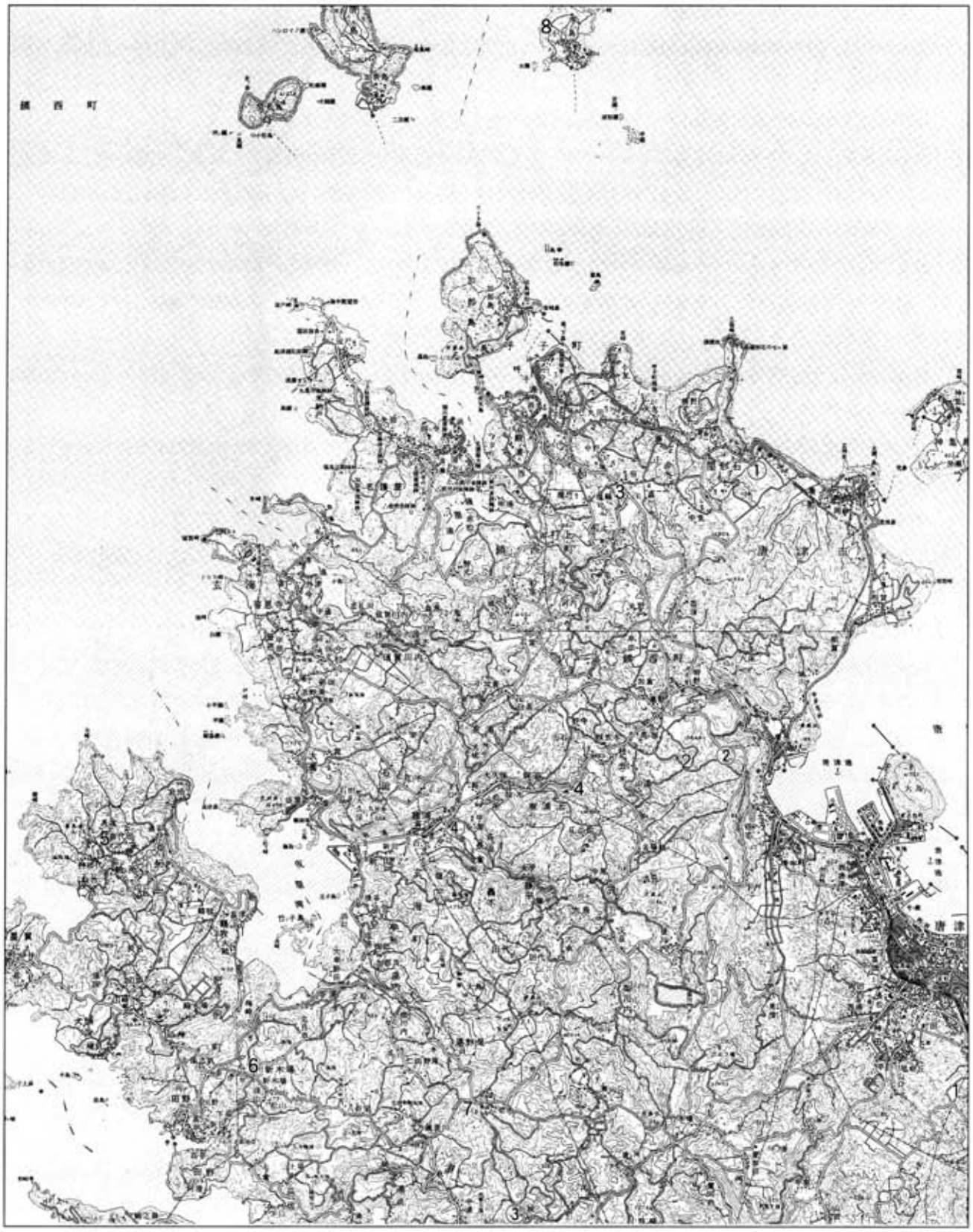


図20　佐賀上場地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1　唐津市（上場Ⅱ期～和多田地区）
2　唐津市（上場Ⅱ期～支線道路4号八幡～馬部線）
3　鎮西町（上場～塩鶴地区）
4　玄海町（上場Ⅳ期～山ノ田地区）
5　肥前町（上場Ⅲ期～納所地区）
6　肥前町（上場Ⅲ期～新木場地区）
7　肥前町（上場Ⅲ期～万賀里川地区）
8　呼子町（防風林造成～小川島地区）

①　唐津市　雲透遺跡
②　唐津市　八幡溜第Ⅱ遺跡
③　肥前町　赤坂Ⅲ遺跡
④　玄海町　長倉遺跡

(1) 唐津市（上場Ⅱ期～和多田地区，支線道路4号八幡～馬部線）

唐津市では、県営畑地帯総合土地改良事業に伴い、上場Ⅱ期地区の和多田地区、支線道路4号八幡～馬部線の確認調査を実施した。

和多田地区は、唐津市和多田本村の農道路線延長710ｍを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、唐津市の中央部よりやや南、南北を流れる松浦川の西側に位置し、通称”上場台地”と呼ばれる台地へと続いていく低山の最も西にあたる。調査地区の周辺の丘陵端部には、権現山古墳群などの古墳群が、また、平野部には西山遺跡、谷間代遺跡、新道遺跡などが所在する。

調査は、2×2ｍのトレンチを基本に設定し、13箇所の試掘を行なった。掘り下げは人力で行ない、調査員が遺構・遺物の有無を確認し、写真撮影・略測後に埋め戻しを行なった。調査当初は、古墳時代を中心とする遺跡の存在が予想されたため、特に、丘陵の先端などを重点的に調査を行なった。

調査の結果、最も古墳の可能性が高い地点に，第4～6トレンチを設定し調査を行なったが、遺構・遺物は確認されなかった。

出土遺物は攪乱層から近世以降の陶磁器が出土したが、遺構に明確に伴う遺物は今回の確認調査では出土しなかった。

今回の確認調査により、当該地は昭和30年代に蜜柑畑の造成、それに伴う取り付け農道の整備などが行なわれており、各トレンチでは遺構および遺物包含層は確認されていないことから本調査の必要はないと判断された。

支線道路4号（八幡～馬部線）は、唐津市枝去木・八ノ尾・甚蔵山を対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、唐津市西部に位置し、通称”上場台地”と呼ばれる台地上にある。今回の調査地は、文禄・慶長の役に際し造られた”太閤道”の古道や馬部甚蔵山遺跡の一部を通過する路線にあたる。調査地区周辺の上場台地には、多くの旧石器～縄文時代の遺跡が点在している。調査地区内には、八幡溜遺跡、黒能遺跡がある。また、近年調査を実施した草履作遺跡、枝去木山中遺跡、馬部甚蔵山遺跡、笹ノ尾遺跡群などが所在している。さらに、佐志地区の下場では、縄文時代中期からの空白期を埋める徳蔵谷遺跡などがある。

調査は、2×2ｍのトレンチを基本に設定し、8箇所の試掘を行なった。掘り下げは人力で行ない、調査員が遺構・遺物の有無を確認し、写真撮影・略測後に埋め戻しを行なった。調査箇所は、現有道路の拡張がほとんどで調査対象トレンチ設定には制約を受けた。

今回の調査地は、立地的には良好な地点も多く、遺構・遺物の存在が予想されたが、道路拡張の比較的狭い範囲内では、遺構・遺物は確認されなかった。既に、造成による削平や盛土が行なわれており、本調査は必要ないと判断された。しかし、第6トレンチより標高が高い地点では石器が表採され、遺跡の存在が予察されるため、今後の開発には留意する必要がある。

(2) 鎮西町（上場地区～塩鶴地区）

塩鶴地区（図21）は、県営県営畑地帯総合土地改良事業（上場地区）に伴い、東松浦郡鎮西町大字塩鶴の13.2haを対象に調査を行なった。

調査対象地区は、低丘陵から開析された谷部に位置する。従来、調査区周辺では、遺跡は確認されていなかった。

調査は、3ｍ×3ｍのトレンチを基本に丘陵部の尾根上およびその下方に広がる田園に22箇所トレンチを設

図21　鎮西町塩鶴（上場）トレンチ配置図（S=1：3,000）

定し、人力により遺構面まで掘り下げた。写真撮影・平面略図・土層図など記録作成の後、人力で埋め戻し、旧状に復した。

調査の結果、遺構の存在が確認されたので、更に遺構の範囲および性格を掴むため追加確認調査を実施した。その結果、第13トレンチで石列、第16トレンチで小穴群、第17トレンチで配石を検出した。

出土遺物は、第16トレンチで小穴から弥生時代の土器片を検出したほか、第11トレンチより南の、下方に広がる田園から多量の弥生土器を確認した。また、若干の輸入陶磁器片が出土した。

今回の調査により、弥生時代、中世の集落跡を確認したので、新たに「塩鶴遺跡」として佐賀県遺跡台帳に登録し、周知を図った。

(3) 玄海町（上場Ⅳ期～山ノ田地区）

山ノ田地区は、県営県営畑地帯総合土地改良事業（上場Ⅳ期地区）に伴い、東松浦郡玄海町大字有浦上字狐爪7－1ほか7筆の5.0haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、標高70ｍ前後の丘陵部で、山林および畑地であった。対象地周辺の遺跡としては、日の出松遺跡が南側に所在する。

調査は、2ｍ×2ｍのトレンチを基本に　工事で掘削を受ける部分を中心に12箇所設定し、人力により実施した。人力により遺構面まで掘り下げた。写真撮影・平面略図・土層図など記録作成の後、人力で埋め戻し、旧状に復した。

調査の結果、遺構は確認されなかった。また、出土遺物は第2トレンチの客土より石鏃を1点確認したのみである。今回の調査により、遺構および遺物包含層は確認されなかった。調査対象地区は、畑地に開墾する際に整地されており、遺跡は存在しないと考えられる。

（4）肥前町（上場Ⅲ期地区～納所地区・新木場地区・万賀里川地区）

肥前町では、県営畑地帯総合土地改良事業（上場Ⅲ期地区）に伴い、納所地区・新木場地区・万賀里川地区の確認調査を実施した。

納所地区（図22）は、東松浦郡肥前町大字納所字太田ほかの18.1haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、標高100ｍ前後の丘陵地で、河川はないが低湿地を利用した水田が広がっている。調査対象地区の周辺の丘陵地には、旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く分布しているおり、荒崎遺跡・池ノ田Ⅰ遺跡・押川遺跡が発掘調査されている。

調査は、2ｍ×2ｍのトレンチを基本に工事で掘削を受ける部分を中心に39箇所設定し、低地の一部に掘削機を使用したが、他は人力のみで行なった。写真撮影・平面略図・土層図など記録作成の後、埋め戻し、旧状に復した。

調査の結果、昭和40年代の圃場整備で自然層はかなり攪乱されていたことが明らかになり、遺構は確認されなかった。しかしながら、第35トレンチで黒曜石製剥片5点、第36トレンチでは黒曜石製ナイフ形石器を含む14点の遺物が出土したため、遺跡の存在を確認した。

出土遺物は、ナイフ形石器・剥片尖頭器・石鏃・磨石・敲石および近世陶磁器がある。

今回の調査では、遺構の検出はできなかったが、縄文時代の遺物包含層を確認し、肥前町大字納所辛45－1の740㎡を新たに「太田遺跡」として佐賀県遺跡台帳に登録した。

図22　肥前町納所トレンチ配置図（S=1：4,000）

(4) 呼子町

小川島地区では、防風林造成事業に伴い、東松浦郡呼子町大字小川島1563他30筆の0.99haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、小川島西部丘陵の海に面した標高10m程度の西向きの緩やかな斜面上にあり、加唐島や遠く壱岐島も一望できる。また、調査区は、以前畑として使用されていたが現在は全面にわたって葦が生い茂っている状態である。

調査区の周辺は、黒曜石をはじめ石器などの存在が確認されている小川島遺跡があり、島南の入り江には縄文時代前期末から古墳時代に至るまでの遺物や出土した小川島貝塚がある。(「小川島貝塚」1977 唐津原始研究会)また、近世以降、捕鯨捕鯨基地として栄えた島であり、県指定を受けた鯨見張所が残っている。

調査は、人力を用いたトレンチによる調査を実施した。2m×2mのトレンチを10箇所設定し、40㎡を発掘調査した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できなった。

小川島においては、島南および島中央にかけて遺跡が周知されている。今回の調査区である島西部は、小川島遺跡の隣接地の調査であったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。調査区は北西からの風が強くあたり、風のあたらない島中央部から南側にかけての範囲が遺跡の中心であると推定される。

6. 筑後川下流用水事業に係る調査

水資源開発公団(筑後川下流用水建設所)による筑後川下流用水事業に係る文化財確認調査は、佐賀東部導水路の千栗第3・第4工区、北茂安中部2−2工区、中原東部工区、西島下田分水工、大島分水工(北茂安町)、三田川東部第3・第4工区、三田川分水工(三田川分水工)、中原西部分水工(上峰町)及び大詫間幹線水路為重第4工区(諸富町)について行った。

(1) 佐賀東部導水路(城原川以西)・大詫間幹線水路

為重第4工区(佐賀郡諸富町大字為重:確認調査面積 1.089㎡)は早津江川の北、標高約2〜3mの沖積平野(干拓地帯)にある。周辺には太田本村遺跡・土師本村遺跡・小杭村中遺跡等が存在する。調査は9箇所の試掘坑を設けて行った。平成2年度に行った北側の確認調査では、一部貝層が確認されているが、今回の調査では遺構・遺物ともに検出できなかった。

(2) 佐賀東部導水路(城原川以東)

千栗第3工区・第4工区(三養基郡北茂安町大字白壁・大字江口:調査対象面積6,532㎡)は筑後川の支流古川の西岸、標高10〜11mにある。調査対象地区内は千栗土居(江戸時代・防災遺跡)を含んでいた。周辺には六の幡遺跡・石貝遺跡・千栗神社鳥居等が存在する。調査は15箇所の試掘坑を設けて行った。その結果、千栗土居内であったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

三田川東部第3工区・第4工区(神埼郡三田川町大字豆田・大字立野:調査対象面積6,660㎡)は脊振山地南麓からの延びる吉野ケ里丘陵南東部の標高7.5m〜8.2m、田手川の約1kmの平野部に位置する。第3工区(図23)は17箇所、第4工区は15箇所の試掘を行った。その結果、第3工区のNo9〜13トレンチ、No9〜13, No16トレンチでは溝・土壙・小穴を検出しており、同じトレンチ内から土器片、黒曜石が出土している。当該地は平成4年度に調査を行った下中杖遺跡の続きの部分あたり、今回も対象地区内413㎡の調査を行った。

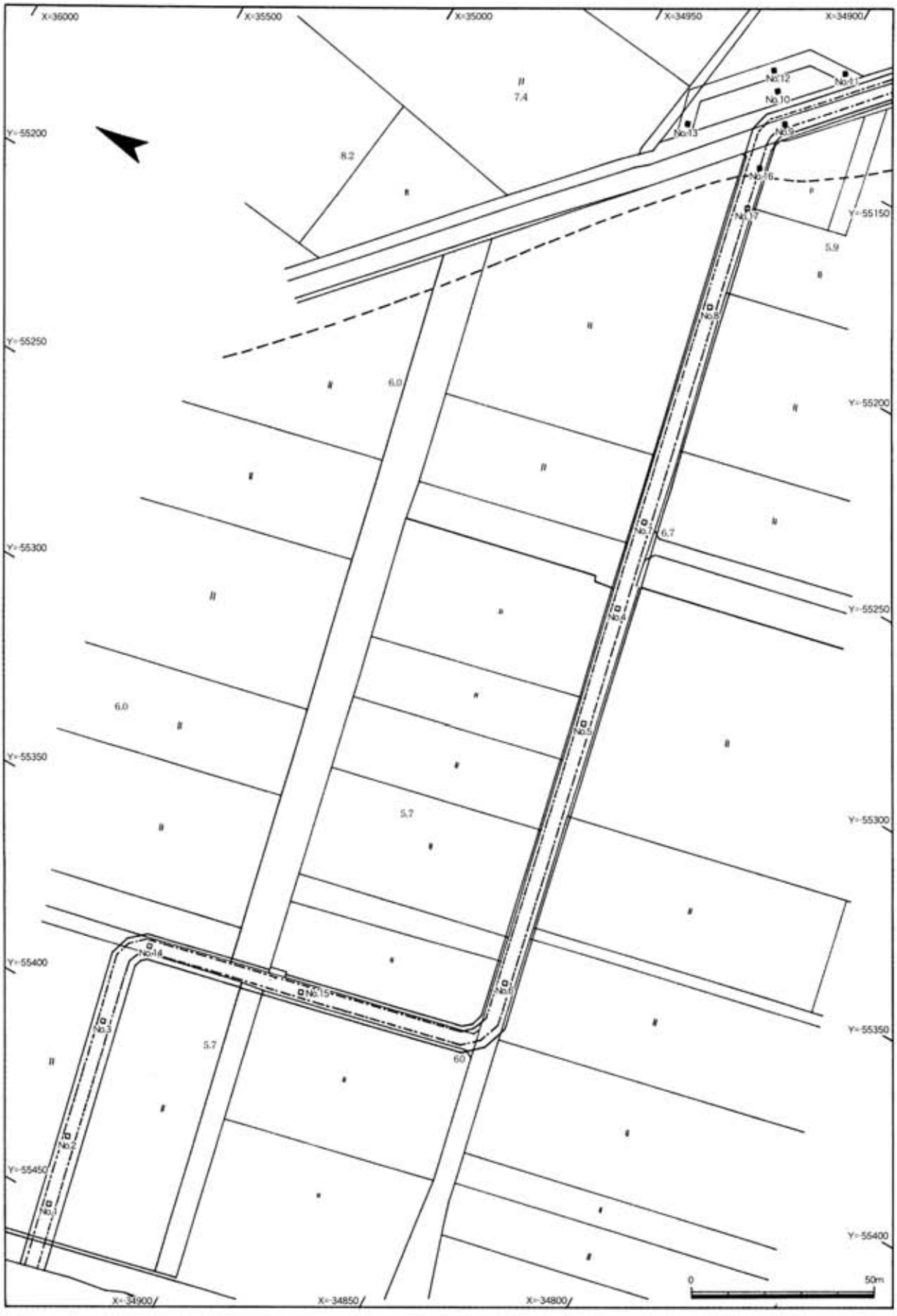


図23　三田川町下中杖トレンチ配置図（S=1：1,500）

3　11区竪穴住居群

4　11区土壙群

図版6　堤六本谷遺跡（2）

1　Ⅱ佐賀西部　多久

2　Ⅱ佐賀西部　大和

3　Ⅲ佐賀南部　江北

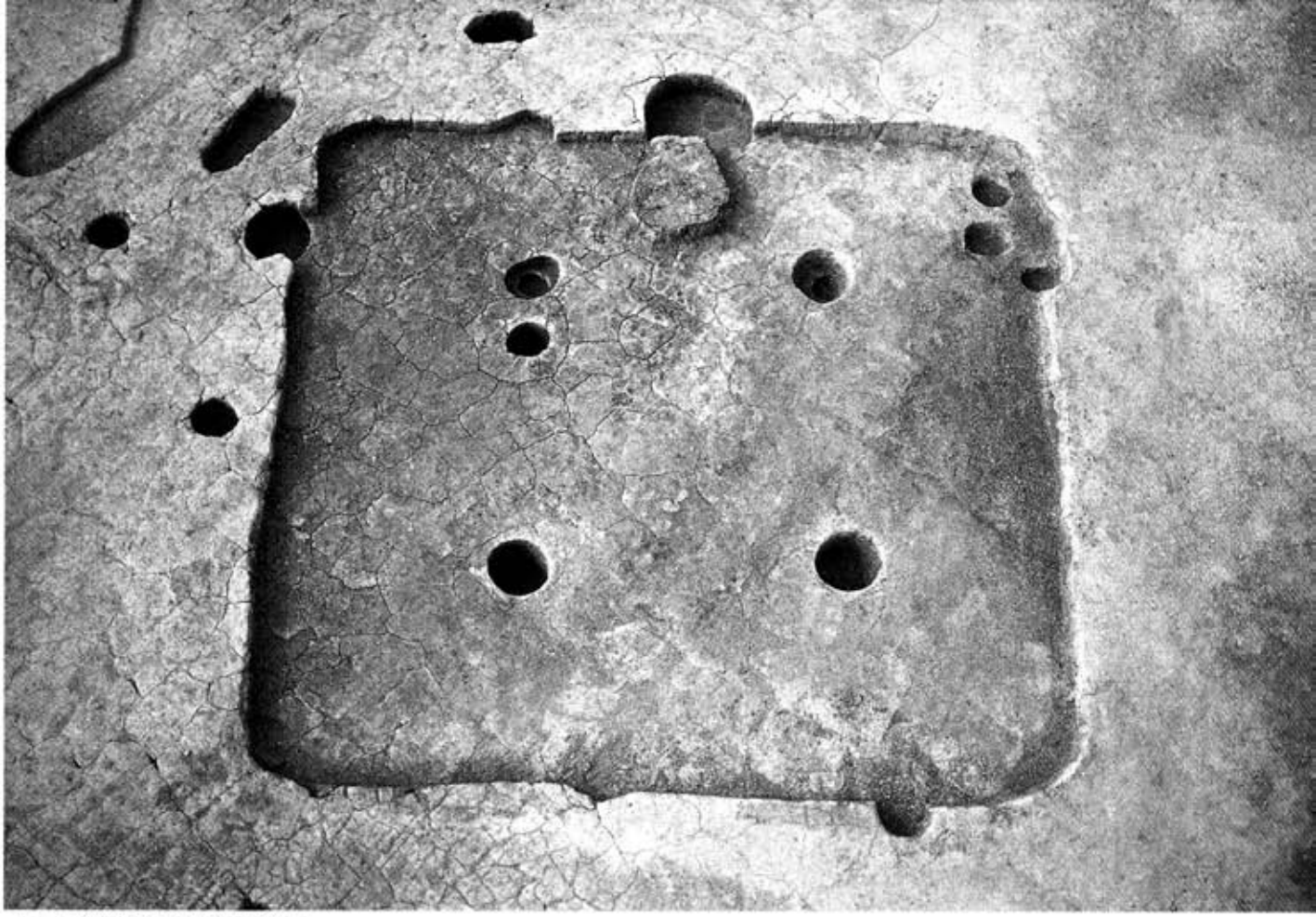
4　Ⅳ佐賀北部　伊万里木須

5　V佐賀上場　玄海町山ノ田

6　V佐賀上場　小川島

図版2　確認調査状況（佐賀西部・南部・北部・上場）

Ⅳ.平成７年度　発掘調査の概要



5　11区竪穴住居跡検出状況

6　11区土壙検出状況

図版7　堤六本谷遺跡（3）

1　前田原遺跡　（略号：ＭＤＢ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字養原字前田原

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成7年6月～平成7年12月

調査面積

5,500㎡

図24　前田原遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

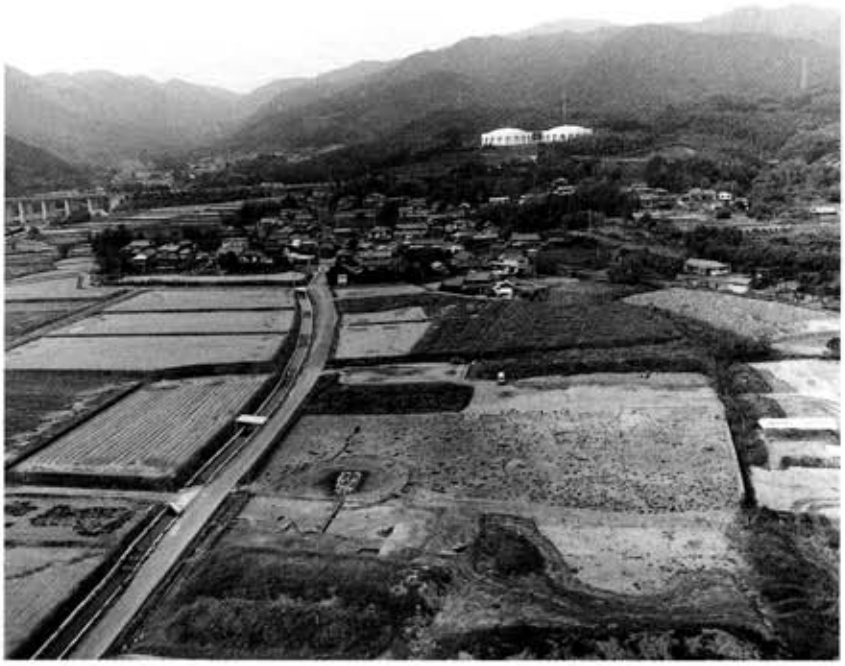
前田原遺跡は東を山内川、西を寒水川に挟まれた南に伸びる台地上に位置し、標高約50ｍを測る。山内川の東側は笛吹山丘陵で、遺跡のある地点は佐賀平野の東端にあたる。本遺跡の周辺には木の本遺跡、本村遺跡、鳥巣遺跡、野田遺跡、植松遺跡などが密集して存在しており、このあたり一帯はほぼ全域が周知の遺跡となっている。

調査は削平を受ける部分及び水路により掘削を受ける部分について実施した。調査区は２区に分かれており、Ⅰ区は3,000㎡、Ⅱ区は2,500㎡の調査を行なった。

Ⅰ区の調査で検出された遺構は、古墳1基、竪穴住居跡、掘立柱建物、土壙、溝、ピットがある。古墳は直径18ｍほどの円墳で、周囲には幅2ｍほどの周溝が回っている。墳丘盛土および石室の天井部は削平され残っていなかったが、腰石以下及び墓道部分の遺存状態は良好であった。主体部は全長4ｍ、幅2ｍの複室の横穴式石室で、玄室から前室まで直線的に作った後に独立した袖石を立てるという特異な構造である。出土遺物は耳環、ガラス玉、土玉等の装身具や鉄刀、鉄鉾、鉄鏃、馬具などの大量の鉄製品、完形の須恵器の壺がある。また、南に伸びる墓道内から須恵器や土師器がまとまって出土した。築造時期は墓道出土の土器から見ると6世紀後半ごろで、石室出土の土器から7世紀前半まで追葬が行われている。また、石室埋土中から中世の皿、鉄製刀子、水晶などが検出されたことから墓として再利用されたものと思われる。竪穴住居跡は古墳時代前半のもので、布留式土器が出土した。掘立柱建物は時期は決めがたいが、切り合い等から古代のものと思われる。土壙からは8世紀代の須恵器や土師器が出土した。古墳の南側には幅3ｍ、深さ1ｍの断面逆台形の大溝が東西に走っている。時期は7世紀～8世紀にかけてのものである。この他の出土遺物は縄文土器・石器がある。

Ⅱ区の調査で検出された遺構は、土壙、溝、ピットがある。土壙には縄文土器（後期）の甕を据えた埋甕状のものが1基ある。この他には縄文時代晩期のものと8世紀のものがある。溝はⅠ区の続きと見られる幅3ｍ、深さ2ｍの大溝があり、東側の谷に向かってだんだん深くなっている。溝内からは8世紀の須恵器や土師器が小量出土した。

今回の調査では縄文時代、古墳時代前期および古代の集落、古墳1基が検出された。縄文時代や古墳時代前期の遺跡は町内での検出例がまだ少なく貴重な発見となった。古墳については町内において円墳としては雌塚、雄塚に次ぐ規模のもので、大量の副葬品はもとより石室の構築技法が佐賀平野でも西部地方に見られる特殊なものであることから当時の豪族の関係を探る上で重要な資料となった。



前田原遺跡Ⅰ区遠景（南から）

前田原遺跡Ⅰ区全景（北から）

図版3　前田原遺跡

4　西千布遺跡（略号：ＮＣＦ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成7年7月～平成7年12月

調査面積

8,500㎡

図27　西千布遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

西千布遺跡は脊振山地南麓の洪積台地から複合扇状地へと移行する部分に立地し、標高約7ｍを測る。遺跡の西側は才漏川を境界として佐賀郡大和町と接している。本遺跡の周辺には、東千布遺跡、友貞遺跡などが分布している。東千布遺跡では、弥生時代の方形周溝墓、甕棺墓、古墳時代～近世の集落、友貞遺跡では、弥生時代～近世の集落を検出した。また、東千布遺跡、友貞遺跡は戦国時代の国人である神代氏の拠点「千布城」「土生島砦」推定地を包括している。西千布遺跡では平成6年度に1区の調査を実施している。奈良時代・平安時代の集落を検出し、土壙から転用硯が出土した。また、1区に隣接する友貞遺跡８区においても奈良・平安時代の集落を検出し、井戸、溝から墨書土器が出土した。これらのことから、当該調査区周辺に識字層が存在した可能性が指摘されている。調査は、面工事で削平される部分と水路工事で削平される部分（2～7区）について実施した。

2区の調査では、9世紀後半～10世紀初頭の周溝墓１基検出した。周溝墓は方形に巡る周溝に囲まれた部分に木棺を納めた主体部が存在し、主体部から越州窯系青磁皿、灰釉陶器壺、黒色土器A類椀・皿が完形で出土した。調査区の南半分は谷地形であり、埋没終了時期は近世である。

3区の調査では、古墳時代前期の竪穴住居、土壙、平安時代の前半の掘立柱建物、井戸、土壙、鎌倉・室町時代の溝を検出した。主体は平安時代前半の集落であり、出土遺物には越州窯系青磁等の初期貿易陶磁、平安京周辺で生産された緑釉陶器が含まれている。

4区の調査では、掘立柱建物1棟、竪穴住居1軒、土壙、小穴を検出した。竪穴住居は古墳時代前期の所産で、方形４本柱である。調査区の南約3分の2は谷地形であり、埋没開始時期は中世、終了時期は近世で、後述する6区の西側及び中央の谷地形に繋がる。

5区の調査では、弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居25軒、土壙、溝、小穴、平安時代の土壙、溝を検出した。主体は弥生時代後期～古墳時代後期の集落であり、竪穴住居の中には方形に巡る区画溝に囲まれた大型のものが存在する。

6区の調査では、弥生時代中期～近世の掘立柱建物、竪穴住居、周溝墓、土器棺墓、井戸、土壙、溝、小穴を検出した。主体は古墳時代前期、古代、中世の集落であり、古墳時代前期の集落では居住域と墓域の区分が見られる。調査区の西側、中央部、南端部には谷地形が存在する。

7区の調査では、古墳時代後期の井戸1基、古代、中世の掘立柱建物、井戸、土壙、溝、小穴、近世の土壙、溝を検出した。井戸が多いことが特徴的で、その中には底面に曲物を据えたと考えられるものがみられる。

2　野田遺跡（のだいせき）　（略号：ＮＤＡ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字簑原字野田

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成7年10月～平成8年2月

調査面積

4,500㎡

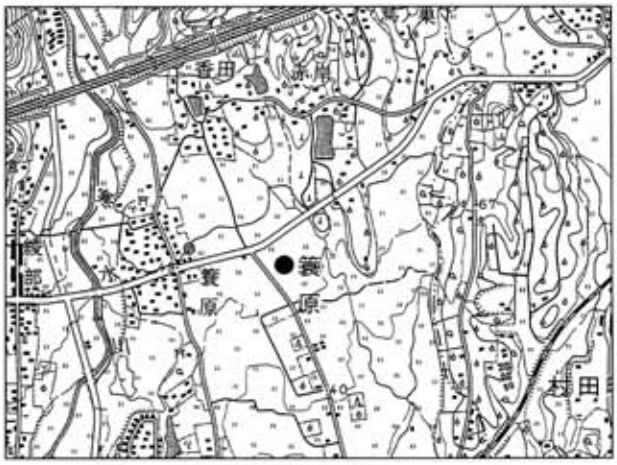


図25　野田遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

野田遺跡は東を山内川、西を寒水川に挟まれた南に延びる台地上の前田原遺跡の南側に位置し、標高約45～47ｍを計る。本遺跡の周辺には木の本遺跡、本村遺跡、鳥巣遺跡、前田原遺跡、植松遺跡などが密集して存在しており、このあたり一帯はほぼ全域が周知の遺跡となっている。

調査は削平を受ける部分および水路により掘削を受ける部分4,500㎡について実施した。

野田遺跡で検出された遺構は竪穴住居跡、溝、土壙、ピット、火葬墓がある。溝は西側の台地を取り囲むようにほぼ直線的に全長180ｍ以上にわたって南北に伸びている。断面は逆台形で幅2ｍ～3ｍ、深さは平均して0.5mくらいである。中世に一度掘直されていると見られ、底部付近から8世紀～9世紀の須恵器や土師器が上面から12世紀～13世紀の土師器や青磁椀が出土している。また溝内から刻印をした9世紀の須恵器の蓋が1点出土しているが、刻印の内容は不明である。溝の内側の台地上はほとんどが調査区外であるが、調査した範囲内では検出されたのは竪穴住居のみで官衙的な性格を持つような掘立柱建物等は検出されなかった。竪穴住居跡は8世紀のもので、竈付近から土師器の甕、坏、蓋等が出土した。土壙は8世紀のもので、須恵器や土師器が出土している。火葬墓は長さ1.0m～1.5m、幅0.6m～0.8mの方形および長方形の土壙で、中からは焼土、炭化物と共に骨片が出土した。骨の量が少ないことや大きな破片がないこと、土壙の周囲が焼けていないことなどから火葬した後、大きな骨などは別の地点に埋葬し、残った骨片や焼土、炭化物などを埋めたものと見られる。時期は土壙内から出土した土師の皿から15世紀と推定される。この他の遺物としては五輪等の頂部が出土している。

今回の調査では古代の大溝や戦国時代の火葬墓など新しい発見があった。古代の溝の性格がもう一つはっきりしないが集落の区画溝であったことは間違いない。溝が掘削された時期は原古賀六本黒木遺跡で官衙的建物が建てられた時代と重なっており、前田原遺跡で検出された大溝と合わせてこの時期に町内において大規模な開発が行われていたことを示す重要な証拠となった。

また、戦国時代の中原町は九州探題の渋川氏が綾部の山城を本拠としていた時代であり、この付近でも度々合戦が行われている。今回見つかった火葬墓がこれらの合戦における戦死者を埋葬した可能性もあり、歴史の新たな一面が見いだされた。町内では戦国時代の肥前の中心となっていたにしては山城や館といった遺跡の調査例がほとんどないため実態不明の点が多く、今後の調査の進展が待たれる。

野田遺跡　全景（北から）

野田遺跡　南側（上から）

図版4　野田遺跡

1　2区周溝墓（東から）

2　3区全景（西から）

図版8　西千布遺跡（1）

3　堤六本谷遺跡（つつみろくほんだにいせき）　（略号：ＴＴＲ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町堤字一本柳

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成7年4月～平成8年1月

調査面積

13,000㎡

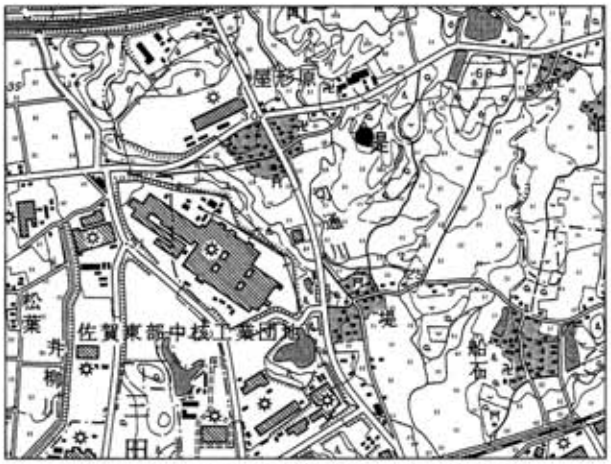


図26　堤六本谷遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

堤六本谷遺跡は上峰町の北部、脊振山系から派生する標高32～36ｍの低位段丘上に位置する。この低位段丘は、西の二塚山丘陵と東の八藤丘陵のほぼ中間に位置し、切通川の東岸にあたる。遺跡周辺は水田および畑として利用されている。

本遺跡の周辺には北方の山麓部に青柳、新立、谷渡、鎮西山南麓古墳群が分布し、古墳時代後期の小円墳が点在する。東方は縄文時代から奈良時代にわたる集落を中心とした複合遺跡である八藤遺跡、西方に切通川を挟んでさらにその南方には弥生時代の集落と墓地を中心とした船石遺跡、船石南遺跡が所在する。本遺跡の調査では、平成2年度に南端と東南部、平成６年度に北端が調査されており、弥生時代から奈良時代の集落を検出している。また、遺跡の東南部から近世の遺構・遺物が検出されたことから、近世にあったとされる「大鳥居」あるいは「大土井」（ううどい）集落に比定されている。

調査は、「県営圃場整備事業上峰北部地区」に伴い、面工事で削平される部分13,300㎡を10区（3,250㎡）と11区（9,750㎡）の小区に分けて実施した。

10区の調査では、奈良時代の遺構、遺物が検出された。主な遺構は竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡2棟、土壙10基である。

11区の調査では、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡23軒、掘立柱建物跡４棟、土壙多数、その他小穴群が検出された。この小穴の中には建物跡の柱穴も含まれているが、数が多いため正確な棟数は不明である。また、調査によって奈良時代から平安時代の遺構、遺物が検出され、貴重な資料を得ることができた。さらには堤土塁の周辺遺跡の発掘調査がほぼ終了したことにより、これらの資料が土塁の性格付けの上で大きな一助となることを今後の研究で期待したい。また、全体像を明らかにすることができなかったが、縄文時代後期の遺構・遺物が検出されたことから、この地域において比較的希薄であった縄文時代の集落の解明や集落の変遷を考察する上で貴重な資料といえる。

1　10区全景（西から）

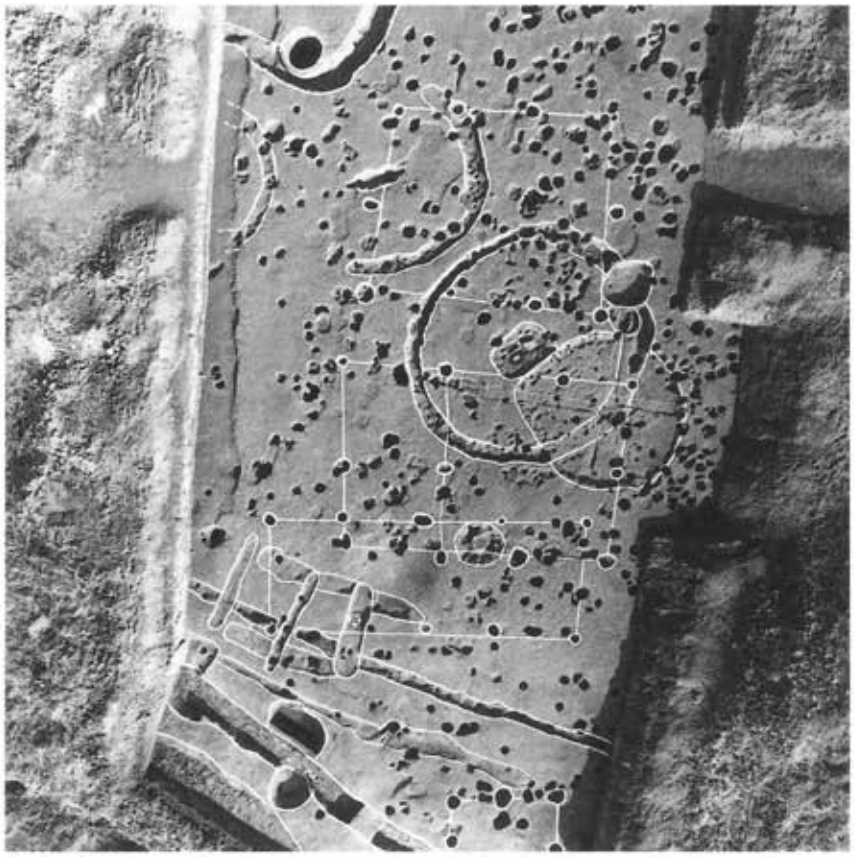
2　11区全景（西から）

図版5　堤六本谷遺跡（1）

1　5区全景（東から）

2　6区全景（南から）

図版9　西千布遺跡（2）



1　6区周溝墓（上から）

2　7区井戸群（東から）

図版10　西千布遺跡（3）

5　友貞遺跡　（略号：ＴＢＳ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布字友貞

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成7年11月～平成7年12月

調査面積

1,306㎡

図28　友貞遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

友貞遺跡は北の脊振山麓から派生した標高6～7ｍ前後の洪積台地（低位段丘面）上に立地するが、現状では段丘崖は田面に埋没し平坦な水田が広がる景観となっていて、埋没した旧河道により遺構の分布範囲は有機的に区切られている。この周辺は戦国期の有力国人層であった神代氏の佐賀平野方面の根拠地とされているが、水田面に小高く残る高畑は中世後半から近世初頭の館跡である可能性が高いものが多い。

本遺跡の周辺には東千布遺跡・西千布遺跡・千布二本黒木遺跡・久富遺跡などが分布し、本遺跡を含めて弥生時代中期の甕棺墓地・集落、古墳時代の方形周溝墓・集落、平安時代前半期の墓地・集落、平安時代末～鎌倉時代の集落、戦国期～近世初頭の土塁・堀を有する館跡の調査が行われている。

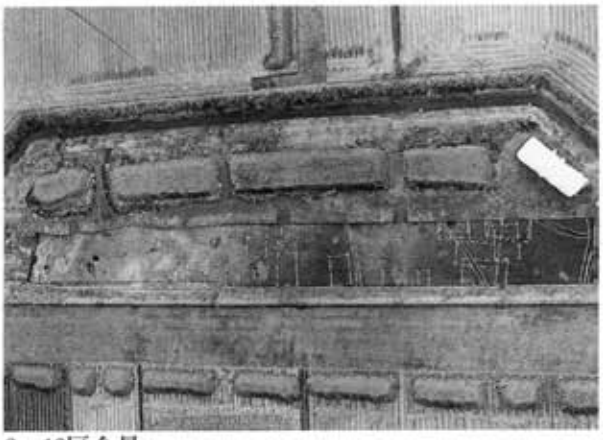
発掘調査は、現存する土塁を削平する7区と水路掘削部分にあたる12区、の合わせて1,306㎡について実施した。

7区は「はふしま」と呼称される高畑の北半にあたり、南半分は平成5年度に発掘調査を実施しているので、その調査区名を踏襲して7区とした。今回は西・北・東の三方にかけて「コ」の字状に残存する土塁のみが調査対象であり、土塁の8箇所に調査区を設定し、土塁の土層断面と土塁下部の遺構の調査を行った。

土塁はしっかりした版築ではなく土をそのまま掻き上げたもので、土塁下部からは堀・土壙・柱穴を検出した。発掘調査の結果、①土塁の基底面は整地層上面から立ち上がり土塁下部に連続する遺構群より確実に新しい。②西から北西部分では土塁線をトレースする形の堀が土塁下部に存在する。③土塁からは年代決定に足る遺物を検出していないが土塁下部の遺構群は15世紀後半～16世紀前半の年代が与えられる。という成果を得ることができた。「はふしま」という地名呼称と神代長良寄進状（1571年）からこの現況で土塁を伴った館跡が神代氏と関連するものとの指摘があるが、少なくとも土塁の構築年代が17世紀を遡る可能性はないものと思われ、土塁下部で検出された遺構群は16世紀前半までの年代を示すことから、この現況で土塁を伴った館跡が16世紀後半の神代氏のものとする直接の根拠はない。

12区では、弥生時代中期の土壙、平安時代前半期の土壙・井戸・平安時代末～鎌倉時代の土壙・井戸・溝、室町時代後半期の溝を検出した。少なくとも14棟を現地で確認した掘立柱建物は、真北からやや西偏する方位を示すものとより西偏するものに二分され、それぞれ平安時代前半期と平安時代末～鎌倉時代の時期に対応するものと考えられる。弥生時代中期では廃棄土壙から良好な一括遺物が出土している。平安時代前半期の井戸からは大形で2枚組丸木刳り抜きの井戸枠が出土した。

1　12区遠景



2　12区全景

3　7区　土塁遠景

4　7区土塁セクション

5　7区土塁全景

図版11　友貞遺跡

6　金立遺跡　（略号：ＫＩＲ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字金立字大門

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成7年8月～平成7年10月

調査面積

2,300㎡

図29　金立遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

金立遺跡は脊振山系から南へ派生する標高14ｍ～20ｍの舌上丘陵上に立地する。本遺跡の周辺には、北に大門遺跡が、東に黒土原遺跡・来迎寺遺跡が、南に銚子塚古墳・大野原遺跡が、西方の丘陵上に権現原遺跡・西隈古墳などが、それぞれ分布している。

調査は、面工事で削平される部分と水路工事で削平される部分とについて実施した。（1～3区）

1区の調査では、弥生時代中期の残りのよい3基の甕棺を含む8基分の甕棺と土壙・小穴を検出した。ここは大門地区の南端で家々があるところから一段低くなる地点で、東側は遺構検出面より低いところに田面がある。南と西は丘陵が緩やかに続いている。（西側は平成8年度圃場整備地区内）土壙からは、高坏・甕・袋状口縁壺などの破片がぎっしりと大量に出土した。

2区の調査では、明確な遺構は確認できなかった。ここは1区の南西約300ｍ、丘陵の西南端に位置するが、後世の開墾により削平を受けており、残存状況は極めて悪い。

3区の調査では、井戸および溝・土壙・掘立柱建物を検出した。ここは2区の東100ｍの丘陵上にある幅5ｍ、全長約200ｍの水路の予定地の調査であるため、5棟分の掘立柱建物をはじめ多くの溝、土壙が調査区外に延びており全容は不明な点が多い。その中でも調査区北端に位置する1基の井戸からは、破棄された大量の遺物が出土した。それらは、中世から近世にかけての土師器・染付を中心とした碗・皿・壺・鉢・鍋などで3区を代表する遺物である。

今回の調査において、1区は北の大門遺跡の、2・3区は中世から近世にかけての集落跡の、それぞれ縁辺に相当することが判明した。しかし、1区は狭すぎ、3区は細長すぎて概要は掴みにくいものであった。

1　1区土壙出土遺物

2　1区作業風景（左上に金刀比羅神社）

3　3区井戸

4　3区作業風景

5　3区北端部全景

図版12　金立遺跡

7　下和泉一本椎遺跡　（略号：ＳＩＳ－4~9）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉字一本椎

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成7年7月～平成7年11月

調査面積

4,532㎡

図30　下和泉一本椎遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

下和泉一本椎遺跡は佐賀市北部の久保泉町に所在し、脊振山系南麓から派生する洪積台地の先端標高5～6ｍの部分に立地する。遺跡の周辺は開墾により平坦な水田地帯が広がっているが、本来遺跡が立地していた地形は部分的に点在する高畑にその名残を看ることができる。実際、遺構はこの高畑を中心に検出されており、水田部分は削平が激しく残存状況は非常に悪かった。

下和泉一本椎遺跡はとしては平成6年度に1～3区の調査をしており、弥生時代中期～中世の集落跡を検出している。今回の調査は調査区が1～3区に近接しており、同様に弥生時代中期～近世に至る遺構・遺物を検出した。但し、検出した遺構・遺物から遺跡の主体となるものは弥生時代中期～奈良・平安時代のものであった。

弥生時代の遺構としては、掘立柱建物・土壙・溝等がある。特に掘立柱建物については調査区全域について検出できた。掘立柱建物の規格には1×1間、1×2間、2×2間、2×3間のものがあり、その中には梁行に庇状のものを付設するものや入口施設に関連するような遺構を付設するものも検出された。また、掘立柱建物の周辺から弥生土器を一括投棄した土壙も検出できた。

古墳時代の遺構には竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土壙等がある。竪穴住居は平面形が正方形基調のものと長方形基調のものが確認できた。ただ、前年度確認されたような周囲に溝を巡らせるものや竈を付設する時期のものは確認できなかった。掘立柱建物は、1×2間、2×2間のものが主体を占めるものであったが、3×4間の比較的大型の建物も検出された。井戸は全て素堀のもので、埋土中より大量の遺物が出土している。また、土壙からも一括投棄された遺物が出土しており、その中にはいわゆる吉備系土器の影響を受けたものも数点含まれていた。

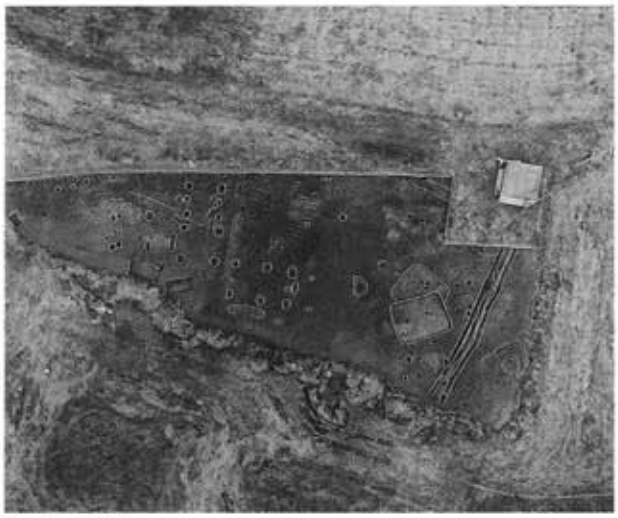
奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物・井戸・畑状遺構等である。掘立柱建物は、2×3間のものであった。井戸は素掘りのもので埋土中より土師器・黒色土器A類等が数点出土した。畑状遺構は掘立柱建物周辺の数地点で確認した。

その他に中世の畑状遺構・区画溝、近世の区画溝を検出した。

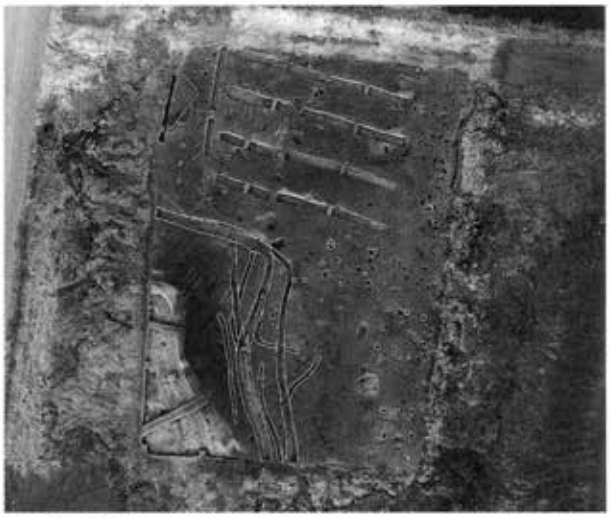
今回の調査により、当該地が弥生時代中期～近世にかけての集落跡であることが明らかになった。特に弥生時代中期の集落は調査区全地区で検出されたことから、この地域に大規模な集落が存在していた可能性が考えられる。また、弥生土器の編年を考える上での好資料や弥生時期の建物構造を考える上で興味深い資料も得ることができた。

1　全景

2　4区全景

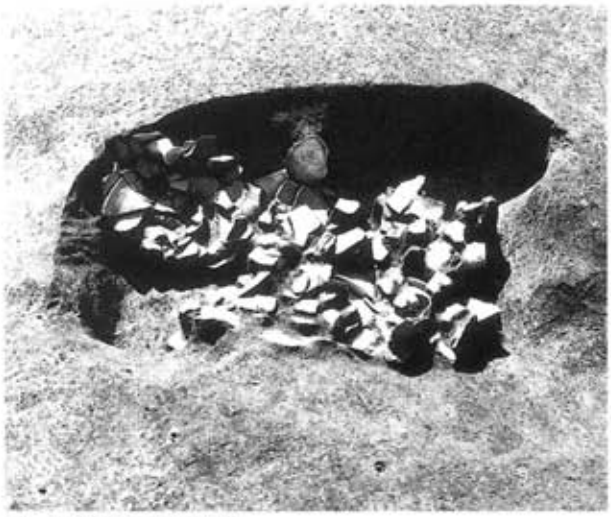


3　5区全景



4　6区全景

5　掘立柱建物跡



6　土壙遺物出土状況

図版13　下和泉一本椎遺跡

12　焼石遺跡1～5区　（略号：ＹＫＳ 1~5）

遺跡の所在地

杵島郡江北町大字上小田字権現・小路

調査主体者

江北町教育委員会

調査期間

平成7年1月～平成8年3月

調査面積

3,276㎡

図35　焼石遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

焼石遺跡は、江北町西部の聖岳山系南東麓にあたる標高10～20ｍの扇状地に位置する。遺跡の所在する上小田地区の山麓部は弥生～古墳時代を中心に多くの遺跡が存在しているが、過去に発掘調査が行われたものはなく、その実態は不明であった。今回の調査では、弥生時代の墓葬と戦国時代から桃山時代の城下集落と思われる複数の屋敷地を検出し、その他に奈良時代と鎌倉時代の遺構・遺物を若干確認した。

弥生時代の墓はいずれも土器棺墓で、1Ａ区で3基、1Ｂ区で1基、2Ａ区で2基、3Ｂ区で1基と散在的に分布していた。1Ｂ区のSJ104が中型棺である以外は、いずれも小児と思われる小型棺で、時期は6基が中期前半から中頃、1基が後期のものである。形態は石蓋の単棺（甕）・合口（甕＋甕・甕＋広口壺）と多様である。土器棺墓以外に、いわゆる祭祀土壙の可能性のある中期の土壙数基を検出した。戦国時代から桃山時代の集落はいくぶん間隔をおいて位置する屋敷地の集合体で、平成7年度調査では3箇所でまとまった遺構群がみられた。屋敷地の内部にはやや大型の掘立柱建物跡を中心として土壙・小穴等の遺構が濃密に分布しており、建物の様相が比較的明らかな1Ｂ区では、9棟の掘立柱建物のうち2×4間のものが2棟、2×3間のものが2棟、2×4間以上のものが1棟、2×2間以上のものが2棟、規模不明のものが2棟であった。出土遺物は量的には多くないが、種類は多様で、在地系土器（坏・小皿・擂鉢・茶釜・火鉢）の他、初期の唐津焼（椀・皿・向付・甕・擂鉢・徳利）、中国産の染付（香炉・椀・皿）・青磁（香炉・椀・皿）・白磁（皿・坏）、李氏朝鮮王朝産の白磁椀・陶器皿、石臼、茶臼、砥石、石塔、中国銭（開元通宝・政和通寶・至道元寶）、碁石状の貝製品等がある。

注目すべき遺物としては、犬形と亀形の土製品や志野角形向付がある。桃山期の手びねりの犬形土製品は全国的に類例が知られており、県内でも唐津市草履作遺跡・唐津城跡埋門南遺跡、佐賀市東高木遺跡（高木城周辺）、神埼郡城原三本谷北遺跡（勢福寺城下町）等で出土している。亀形土製品は中空で背中と頭の部分に穴が空いており、形態からは水滴に最も近いが素焼きであるので断定し難い。志野は県内では初めて確認されたものであるが、焼石遺跡では平成8年度に調査された6区から2個体（角形向付と向付ないし鉢）が出土していて、今後の注意により他の遺跡でも出土例の増加が予想される。

こうした遺物の内容や建物の規模等から一般農村とは考えにくく、屋敷の主体者として中上級武士ないし豪農層が想定できる。遺跡西方の乙宮山には中世山城が構築されており、この城は単郭ながら内枡形虎口を有し、おそらく天正年間以降に織豊系城郭の影響を受けて改築されたことが推定できる。焼石遺跡の近世初期の遺構群はこの城跡と一体のものとして評価する必要があるだろう。

8　牟田寄遺跡　（略号：ＭＴＹ）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字瓦町

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成7年8月～平成7年12月

調査面積

2,647㎡

図31　牟田寄遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

牟田寄遺跡は、佐賀市東南部の兵庫町に所在する。遺跡範囲内には焼原川が南北に流れ、今回の調査区はその西岸、標高約3ｍを測る低平な沖積平野に位置する。本遺跡周辺は佐賀独特のクリークが縦横に走り、大部分は農地として利用されており、宅地化はあまり進んでいない。

周辺には瓦町遺跡、千住遺跡、忠兵衛屋敷遺跡、修理田遺跡などが分布しており、これまでの調査で弥生時代から近世の遺構・遺物が発見されている。牟田寄遺跡においては、平成元年～4年度に調査を実施し、弥生時代終末期を主体とする集落跡が確認されている。

調査は、水路工事で削平される2,647㎡（9A区）について実施した。

9A区の調査では、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世所産の掘立柱建物10棟・井戸70基・土壙57基・溝15条等の遺構を検出した。この中で主体を占めるのは弥生時代の遺構である。

弥生時代の主な遺構は、後期末所産の掘立柱建物・井戸・土壙がある。掘立柱建物は2×1間、1×1間の規模を有する建物を10棟確認することができた。これらの建物の柱穴は、平面形が隅丸の方形及び長方形を呈し、底面には樹皮や木の枝を敷き詰め、横木を置いた上に柱を立てており、この地域の軟弱な地盤を意識した特徴的な構造を呈している。井戸は比較的多く、明確なものだけで30基以上検出した。いずれも素堀のもので、平面形は長軸1.5ｍ程度の楕円形を呈し、深さは2ｍ程を測る。土壙は20基ほど検出した。いずれも廃棄土壙である。出土遺物は多量の甕・壺・鉢・高坏・器台などの土器のほか、木製品がある。また、ほとんどの井戸の底面からは、完形状態の甕・壺等の土器が数個体まとまって出土しており、井戸に関する祭祀行為が考えられるのである。

古墳時代の遺構は検出数が少なく、明確なものは6世紀の所産と考えられる井戸2基のみである。いずれも素掘で、平面形は直径1.5ｍ程の円形、深さ2ｍ程を測る。出土遺物には土師器（甕）、須恵器（蓋・坏・高坏・提瓶）等がある。奈良・平安時代、中世の主な遺構は、井戸・溝等がある。井戸は明確なもので25基を検出した。平面形は直径2ｍの円形、深さは2ｍを測る。溝は検出したほとんどが調査区外に展開していたため機能については明確でない。遺物は土師器（皿・坏）、須恵器（甕・坏）、瓦器（椀）、白磁（椀）、青磁（皿・椀）等が出土した。

今回の調査によって、周辺で確認されていた弥生時代終末期の集落の広がり、さらに古墳時代から中世に営まれた集落の変遷を知る上で貴重な成果を得ることができた。

1　掘立柱建物群

2　掘立柱建物跡

3　土壙　遺物出土状況

4　井戸　遺物出土状況

5　柱穴検出状況

図版14　牟田寄遺跡

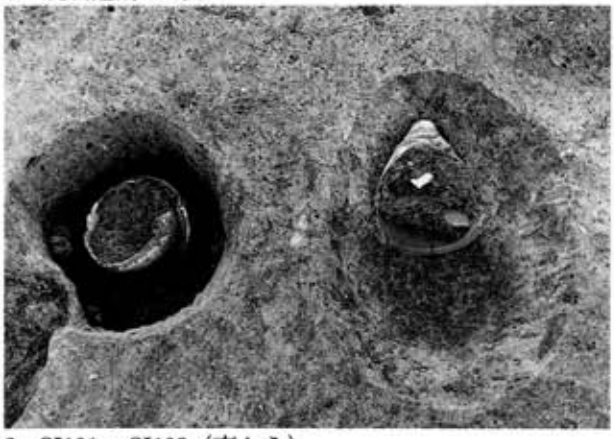
1　焼石遺跡から乙宮山跡を望む（東から）

2　焼石遺跡から大平山を望む

3　焼石遺跡1B区

4　焼石遺跡2A区

5　SB105・SB106（東から）



6　SJ101・SJ102（東から）

7　SJ104（東から）

8 調査状況

図版18　焼石遺跡

9　妙常寺北遺跡　（略号：ＭＪＫ）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字渕字下渕

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成7年11月～平成8年2月

調査面積

2,300㎡

図32　妙常寺北遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

妙常寺北遺跡は、脊振山系から派生する標高5ｍ前後の沖積平野上に位置する。本遺跡の周辺は遺跡の分布は希薄で、半径2kmの円内に入るのは、調査期間が同じである妙常寺南遺跡を別として、淵川城・東淵遺跡・淵道跡、東名遺跡・ウー屋敷遺跡・コマガリ遺跡である。このうち淵川城を除く遺跡は圃場整備事業や大規模開発に伴う事前の確認調査で発見されたものばかりであり、面的広がりも極めて小さい。これら点在する遺跡がある兵庫町の北半分は、これらの開発の波によって新しい遺跡が発見される可能性も高い。本遺跡の名前の由来にもなった古刹・妙常寺や龍造寺隆信時代の武将・空閑（くが）三河守の屋敷跡という伝承ののこる淵川城周辺などの存在からも窺える。

調査は、水路工事で掘削される部分について実施した。(1・2区)

1区の調査では、溝・土壙・掘立柱建物を検出した。溝は、2区の壕・溝と同様だが、周辺のクリークとの方向や深さで整合性がないので、現代との間に大規模な開発がすでに行われていたものと推測する。遺物としては土師器や陶器を中心とした椀・皿・壺・鉢・鍋などが出土した。

2区の調査では、壕・溝・土壙・掘立柱建物を検出した。壕は一度埋められたあと、南側に少しずらして再び掘られたらしく、北半分の方には掘立柱建物のひとつが建てられている。遺物としては、破棄された大量の遺物が出土した。それらは、中世から近世にかけての土師器・染付を中心とした碗・皿・壺・鉢・鍋などのほかに石製品・木製品が出土した。

今回の調査において、中世から近世の集落跡の縁辺部に相当することが判明したが、まだ不明な点が多い。妙常寺と淵川城跡との間に位置する本遺跡は、両者と何らかの関連があることは疑いない。しかし、調査区が水路予定地区と面的に限定されていて、全容が掴みにくい。これらの調査を踏まえたうえで考察する必要がある。

1　妙常寺北遺跡2区から北を望む（北の集落は淵川城跡）

2　妙常寺北遺跡1・2区

3　妙常寺北遺跡２区　小穴の遺物出土状況

図版15　妙常寺北遺跡

13　雲透遺跡（略号：ＫＵＭ）

遺跡の所在地

　唐津市湊字雲透

調査主体者

　唐津市教育委員会

調査期間

　平成7年9月～平成8年3月

調査面積

　3,100㎡

図36　雲透遺跡跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

雲透遺跡は唐津市の地形の特色のひとつとなっている準高原状の上場台地の北端、海に突き出た丘陵上の先端部にあたる。標高は約60ｍに位置する。この遺跡の南側にある緩斜面に縄文時代晩期から古墳時代までの集落・墓地が断続的に営まれた鼓遺跡がある。またこの雲透遺跡が立地する湊地区は旧石器時代からの十蓮遺跡、弥生時代の高地性集落の湊中野遺跡、中世期の湊松本遺跡が点在する。

遺跡は厚く堆積した耕作土中に埋没していた。

主体となる時期は弥生時代中期初頭と考えられる。また検出した遺構はかなりの面積で削平を受けていたが、円形住居を1軒確認した。地形的にはもう数軒あったものと考えられる。

また、この時期のゴミ捨て場である貝塚を検出した。貝塚はこの地域特有の酸性の強い土壌のため、土壌に接した面の貝は溶解し、原型を留めていなかったが厚さ40cmの貝層中にはサザエ・アワビ等の岩礁性の貝類、沿岸部では捕獲できないが外洋性の回遊魚であるマグロ類の脊椎骨、フグのアゴなどの魚骨、イノシシ・シカなどの獣類のアゴ骨、魚を捕獲するためシカの骨で製作したヤスなどの漁撈具を含む自然遺物を多数検出した。この検出した遺物群のなかで特筆すべき遺物として南海産イモガイの貝輪（腕輪）がある。あえて手に入りにくい南海産の貝で製作したのは身分の象徴のためと考えられると同時に、海を介した広範囲に及ぶ交易がこの時代に存在したことが想像できる。

出土した土器は弥生中期初頭に比定される城ノ越式、須玖Ⅰ式が確認され、この２形式以外に弥生土器は出土しなかった。このことよりこの雲透遺跡が極めて短期間に形成、廃絶したことが理解される。

今回発見された貝塚は外洋性・岩礁性の魚類・貝類を含み、市内はもとより県下でも貴重な発見例となった。また時代的にみて弥生期の貝塚は稀であるが、この時代の貝塚がこの唐津の上場地方で発見されたことに意義がある。魏志倭人伝の記載されている「末盧国」には潜水漁法のことを記述しているが、岩礁性の貝の多くは潜水漁法で捕獲するため、このことより魏志倭人伝の記述を裏付けることとなった。

また、貝塚は当時の食生活、生活環境の復元がかなり細かい部分まで可能であり、この時期を解明するうえで有力な資料を提示してくれたと言える。

10　妙常寺南遺跡（みょうじょうじみなみ）　（略号：ＭＪＫ）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字渕字下渕

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成7年11月～平成8年2月

調査面積

2,300㎡

図33　妙常寺南遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

妙常寺南遺跡は、脊振山から派生する標高5ｍ前後の沖積平野上に立地する。本遺跡の周辺は遺跡の分布は希薄で、半径2kmの円内に入るのは、調査期間が同じである妙常寺北遺跡を別として、淵川城跡・東淵遺跡・淵遺跡・東名遺跡・ウー屋敷遺跡・コマガリ遺跡である。このうち淵川城跡を除く遺跡は最近の圃場整備や大型の開発に伴う事前の確認調査で発見されたものばかりであり、面的広がりも極めて小さい。これら点在する遺跡がある兵庫町の北半分は、これらの開発の波によって新しい遺跡が発見される可能性も高い。本遺跡の名前の由来となった古刹・妙常寺や龍造寺隆信時代の武将・空閑（くが）入道の屋敷跡という伝承の残る淵川城跡周辺などの存在からも窺える。

調査は、水路工事で掘削される部分について実施した。(1区)

1区の調査では、壕・溝・井戸・土壙・掘立柱建物を検出した。

遺跡の中央を東西に走る壕は、妙常寺北遺跡のそれとは違い、調査区外の東西に延びるクリークと方向が一致する。(現在は両者ともより深く掘削され1本の水路となっている。) ここからは土師器をはじめとする青磁・白磁・染付を中心とした椀・皿・壺・鉢・鍋などのほかに石製品・木製品などの遺物が出土した。

今回の調査において、中世から近世の集落跡の縁辺部に相当することが判明したが、まだ不明な点が多い。妙常寺の南東部に位置する本遺跡は、妙常寺北遺跡とともに妙常寺と何らかの関連性があることは疑えない。また北方約500ｍに位置する淵川城跡とも関連性があるだろう。しかし調査区が水路予定地区と面的に限定されていて、全容が掴みにくい。これからの調査を踏まえた上で考察する必要がある。

1　妙常寺南遺跡2区

2　作業状況（木立の向こうに妙常寺を遠望）

3　井戸トレンチ状況

4　1区　溝の土層断面

5　遺物出土状況（1区溝）

図版16　妙常寺南遺跡

1　調査区全景（奥は玄界灘）

2　貝塚全景

3　貝層出土貝輪（イモガイ）

4　作業状況

5　貝層出土マグロ脊椎骨

6　貝層出土　イノシシアゴ骨

図版19　雲透遺跡

11　岡遺跡（おかいせき）　（略号：ＭＪＫ）

遺跡の所在地

多久市多久町字岡

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成7年11月～平成8年2月

調査面積

2,300㎡

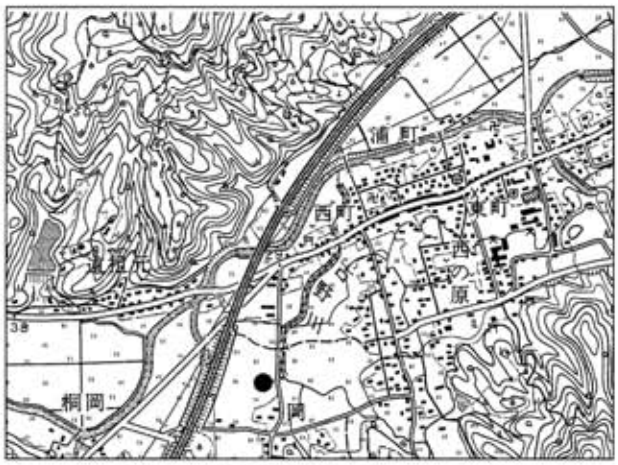


図34　岡遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

岡遺跡は、多久市多久町字岡に位置する。岡地区は茶園原遺跡報告書（1980）で、多久市内では阿蘇４の火砕流の代表的な露頭が観察されるとされた所である。遺跡の南側の切通しには阿蘇4の堆積が観察できる。遺跡は扇状地上に立地する。基本土層は耕作土・床土・灰色の砂質土（10～20cm・遺物包含層）・橙色砂壌土（遺構確認面）・レキ層の順である。遺構の埋土は灰色の砂壌土と黒褐色の砂壌土の2種類である。

遺跡の周辺には、旧石器時代の台形石器等が出土した山王遺跡が分布する。岡遺跡周辺も黒曜石の剥片が散布しており周知の遺跡として佐賀県遺跡地図に登録されていた。北、1.3㎞には考古学史上有名な三年山遺跡がある。調査は、工事で削平される部分について実施し、便宜上、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区に区分した。

Ⅰ区の調査では溝・土壙・小穴群が発見された。また、旧流路と考えられるものも発見されている。出土した遺物は縄文時代のものが大半を占める。その他は、中世の土師器と青磁椀が数点出土した。縄文時代の遺物は縄文時代後期後半（三万田式）のものが主に出土した。土器は、注口土器（注口部のみ1点）・深鉢（波状紋を持つ）・浅鉢、石器は十時形石器・剥片鏃・つまみ形石器・石核等が出土した。

Ⅱ区の調査では、ピットと掘立柱建物跡が1棟発見された。掘立柱建物跡は柱間は約2ｍである。一部調査区外にかかるので全体は不明である。遺物は縄文土器の細片が数点出土したのみであった。また、井戸と思われる遺構からは木製品（鉈の柄・椀）2点が出土した。

Ⅲ区の調査では小穴が検出された。遺物は縄文土器の細片のほか、土師器皿の小片等が出土し、中世の遺構が広がっていた。

今回の調査で縄文時代後期のまとまった資料を得ることができた。三万田式の土器や十字形石器は、多久市では初めて得られた資料であり、縄文時代後期後半の遺物の組成が明らかになる。ただし遺物の組成は、遺跡の立地条件と遺跡で展開された行為の違いによって変わってくることが指摘されており、今回の成果の解釈は他の遺跡との比較検討を踏まえて行わなければならないだろう。特に、多久市はサヌカイトの原産地という地理的条件があり他地域とは違った遺物の組成を示すことが予想される。

多久市内では牛津川の河川沿いで、平成5年に倉富遺跡で縄文晩期初頭のまとまった資料が調査されており、今回は縄文時代の一時期のまとまった資料を得たという点では2例目になる。このような遺跡の発見が蓄積されれば、縄文時代草創期とされる多久尖頭器群も含め多久地区の縄文時代の様相が次第に明らかになると思われる。

1　調査区Ⅰ区

2　調査区Ⅲ区

3　調査状況

4　井戸堆積状況

5　井戸完掘状況

6　縄文土器出土状況

図版17　岡遺跡

14　八幡溜第Ⅱ遺跡（略号：ＨＭＤⅡ）

図37　八幡溜第Ⅱ遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の所在地

　唐津市佐志字浜町

調査主体者

　唐津市教育委員会

調査期間

　平成7年6月～平成7年7月

調査面積

　500㎡

遺跡の概要

八幡溜第Ⅱ遺跡は唐津市の西部に準平原状に広がる東松浦玄武岩台地の東側端部のほぼ中央部に立地する。この一帯は玄武岩の風化土壌で標高約130～200ｍの台地（通称上場台地）である。

本遺跡周辺の西側には、笹ノ尾遺跡、草履作遺跡、枝去木山中遺跡、原遺跡、馬部甚蔵山遺跡、中尾ツ枝遺跡等の旧石器時代～縄文時代の遺跡が数多く点在する。遺跡の東側は、急激な傾斜で佐志地区の平野へと続いている。この下場（上場に対する）には、縄文時代中期以降の硬玉製大珠や石錘、多数の石鋸が出土した徳蔵谷遺跡、中国・朝鮮半島からの多量の輸入陶磁器が出土し、道状の遺構が検出された鎌倉～室町時代が中心となる佐志中通遺跡、松浦党佐志氏の館浜田城跡等多くの遺跡が分布している。また、名護屋城へ至る通称太閤道は下場の佐志を通過して八幡溜第Ⅱ遺跡の周辺を通っていたものと考えられている。

調査は、道路の拡幅工事の中では遺跡が残されている可能性が高く、また、特に広く削平される500㎡について実施した。今回の調査では、焼土壙とピットと溝状の遺構を検出した。

焼土壙は全部で3基検出し、東側のSK02とした焼土壙が最も残りが良好で、上部は削平を受けているものの平面の形状は隅丸の台形状をしており、立ち上がりも明瞭であった。SK02は炭化物などの層が幾重にも分かれており、壁面・床面ともに黒褐色から赤褐色をしており堅く焼き締まっていた。他の2基の焼土壙も同様に焼き締まっていた。2基の焼土壙は東西に延びる溝状遺構に切られており、特に、東側に位置する1基は上部を大きく削られており平面の形状は不明瞭である。溝状の遺構西側に位置する焼土壙は北側が削られていて大きさは明瞭でないが形状はSK02に近いものと考えられる。ピットは調査区の中央南寄りで検出した。1基だけの検出であった。埋土には炭化物が混入していたが、他に遺物などは見られず時期は不明である。溝状の遺構は調査区の北側を東西に延びる遺構である。遺構の西側は削平もあり自然に消滅しており、東側は道などによって壊されている。調査区全域で上部は耕作を受けており、北側の一部には現在の道路を改良した痕跡が見られ、破壊を受けていた。

遺物は包含層から黒曜石製の細石刃や剥片、土師Ⅲ等が出土している。三綾尖頭器が2点出土しているが表土からであった。

今回の調査によって、上場地区（特に佐志地区）における旧石器時代の遺跡の広がりを知る上で大変重要な地点であることがわかった。また、焼土壙は奈良末～平安時代の烽（とぶひ）の可能性もあり交通や通信の要所であったことが判明し、貴重な資料を得た。

1　遺跡全景（南から）

2　遺構完掘状況（西から）

3　遺物出土状況（東から）

図版20　八幡溜第Ⅱ遺跡

15　赤坂Ⅲ遺跡（略号：ＡＫＡ－Ⅲ）

遺跡の所在地

東松浦郡肥前町大字赤坂字太田

調査主体者

肥前町教育委員会

調査期間

平成7年7月～平成7年10月

調査面積

700㎡

図38　赤坂Ⅲ遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

赤坂Ⅲ遺跡は、伊万里市に接する東松浦半島の南部標高185ｍの南西向きの低丘陵に位置している。この一帯は、第三紀の堆積層を突き破り流失した溶岩によって形成された玄武岩台地である。現在、遺跡の南西側には水田が営まれているが、以前は低湿地帯であったと考えられ、豊富な湧水もみられる。周辺には旧石器時代から縄文時代の遺跡が点在している。

調査区は南北、東西を主軸に2×2ｍのグリッドを設定し、発掘作業は手掘りで行い、出土遺物は各グリッド毎に出土地点を記録して取り上げた。

遺物包含層はⅠ～Ⅲ層に区分できるが、Ⅱ、Ⅲ層では旧石器時代～縄文時代の遺物が混在していた。遺物はナイフ形石器（4点）、細石刃、細石核（1点）、石鏃、安山岩製の削器、土器片などが出土した。他に弥生土器片、表土からは近世の陶磁器片が出土した。また、4基の土壙と2条の溝状遺構を検出した。

今回の調査では、各時代毎の資料が極めて少なく、一時的な生活の場であったと考えられるが、詳細については不明である。ただ、立地条件については極めて良好であり、調査区が遺跡の中心部をはずれている可能性もある。

また、陶磁器については、19世紀以後のもので、江戸時代から近年まで集落があったことが窺える。

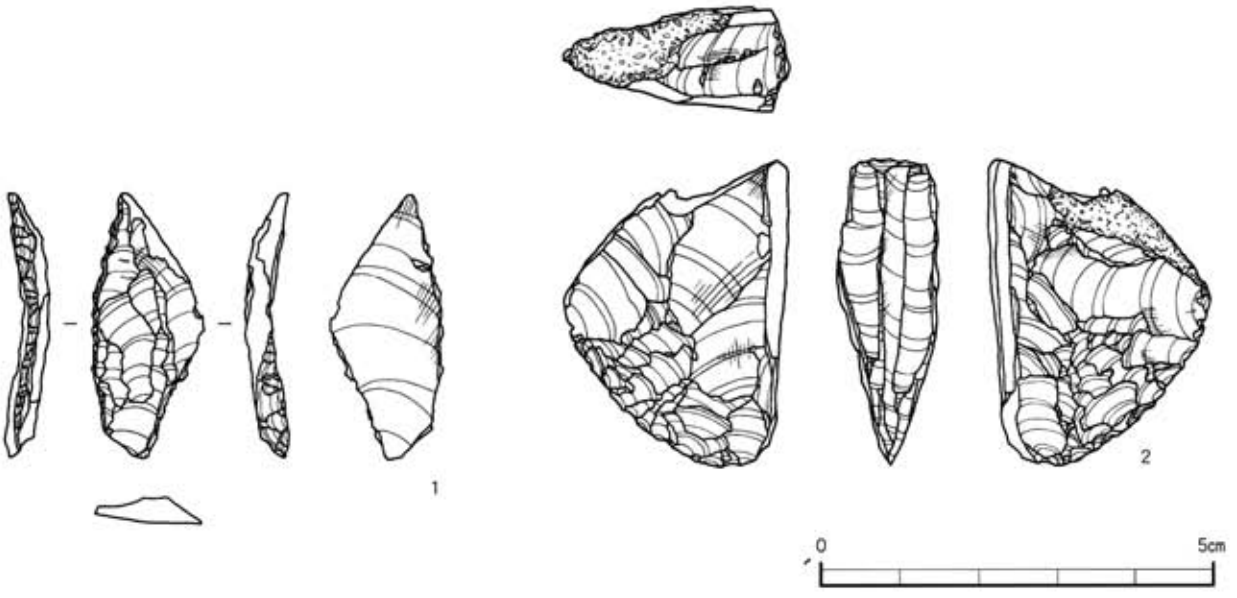


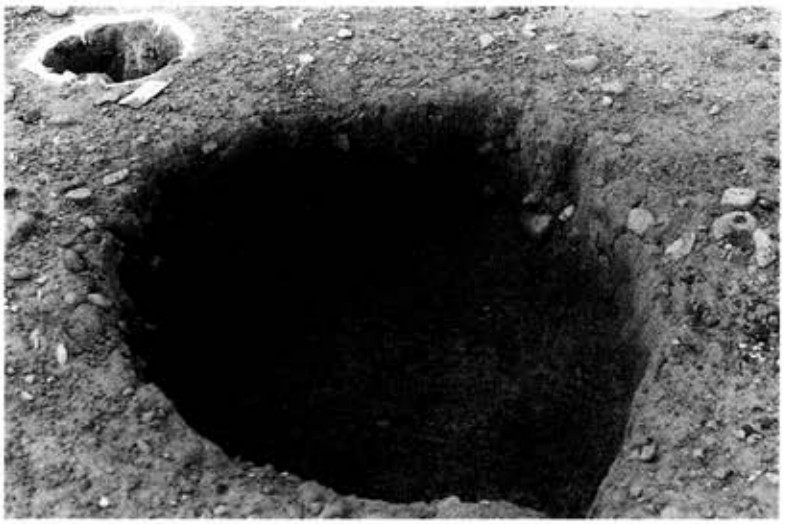
図39　赤坂Ⅲ遺跡出土遺物実測図（S＝2/3）

1　調査区遠景

2　調査区（Ⅰ区・Ⅱ区）

3　調査区（Ⅲ区）

4　掘立柱建物跡



5　土壙

8　調査風景

図版21　赤坂Ⅲ遺跡

16　長倉遺跡（略号：ＭＲＫ）

遺跡の所在地

東松浦郡玄海町大字長倉字鬼塚954

調査主体者

玄海町教育委員会

調査期間

平成7年6月～平成7年11月

調査面積

1,300㎡

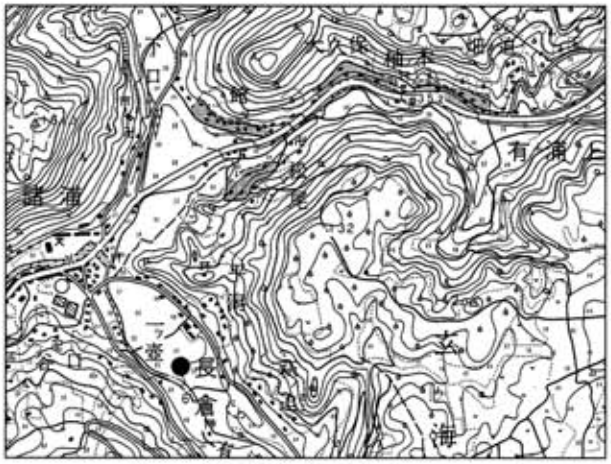


図40　長倉遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

本遺跡は、玄海町の中心部の長倉地区にあり、有浦川の開析によって形成された標高約8ｍ前後の平野部の畑地に位置している。遺跡の性格は、弥生時代中期から後期の墓地および鎌倉時代の不明遺構である。

検出された遺構は、弥生時代中期から後期の石棺墓3基と鎌倉時代の石敷遺構と砂利状道遺構で、特に、石敷遺構は、調査範囲の北東側に位置し、幅は東西約15ｍ、南北約10ｍの範囲に最も集中していた。整地面から平均高約10㎝以内に、大から小礫を敷き詰め石敷状態にしてあった。石の大きさは大礫で径45㎝×45㎝、中礫径30㎝×35㎝、小礫は拳大くらいであった。中には径50㎝×60㎝を越えるものも含まれていた。これらの石を組み合わせて遺構は成り立っており、ここの礫群の中には高さを一定高にするために大礫の上面部に調整を施した痕跡が見られるものが数個含まれていた。また、この石敷遺構の間を通る形で3～5㎝程度の小石を使用した幅1ｍ、長さ13ｍの砂利状の道遺構があった。

出土遺物は、弥生式土器、石鏃、甕棺など概数にして13,500点以上あった。石棺墓の副葬品として、硬玉製勾玉2個、碧玉製管玉5点、ガラス小玉400点以上あり、平安時代末期から鎌倉時代初頭に想定される八稜鏡と青白磁、高麗象嵌青磁皿、土師器、双耳壺片などが出土している。

検出された石敷遺構の性格については、この遺構以外の中世遺構が検出されなかったことと石敷遺構が多く例を見ないもので、特定するまでには至らなかった。今後の類例の増加で解明が進むことが望まれる。

1　調査区遠景（東から）

2　調査区　空中写真

図版22　長倉遺跡（1）

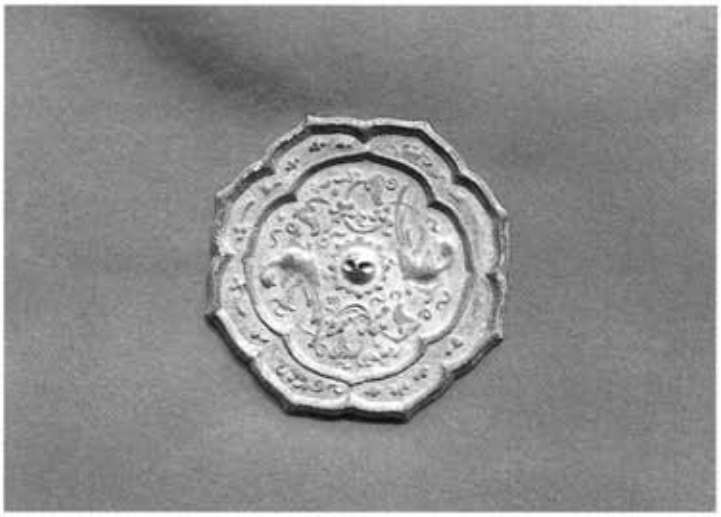
3　石敷遺構全景

4　SC02石棺検出状況

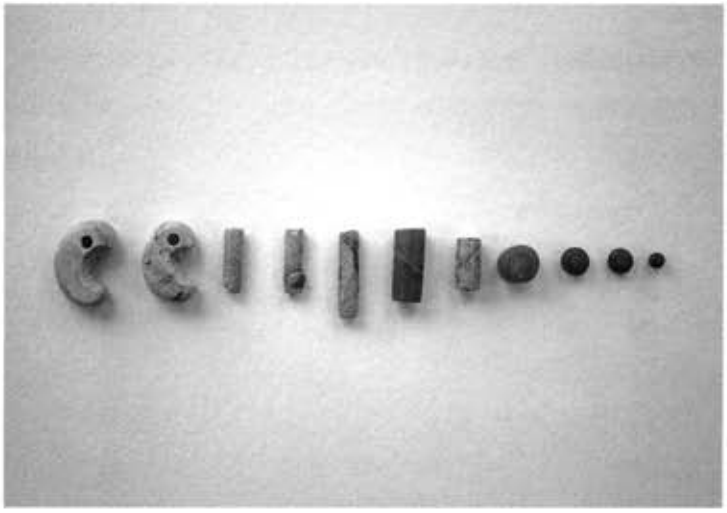
5　甕棺墓検出状況

図版23　長倉遺跡（2）

1　白磁碗出土状況



2　八綾鏡



3　SC02石棺内出土遺物

図版24　長倉遺跡（3）

17　下中杖遺跡（略号：ＳＮＴ）

遺跡の所在地

神埼郡三田川町大字豆田

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

平成7年9月～平成7年10月

調査面積

413㎡

図41　下中杖遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

下中杖遺跡は、脊振山系から延びる二塚山丘陵の縁辺部にあたり、井柳川と切通川に挟まれた標高6～7ｍの低位段丘上に立地する。調査地点は、現在町道および宅地となっている。本遺跡の周辺には、東に塔の塚廃寺跡・坊所三本松遺跡、北に目達原古墳群、西に吉野ケ里遺跡などが分布している。

調査は、導水管の埋設および仮設排水路によって削平を受ける道路・宅地部分413㎡について行った。

今回の調査では、土壙2基・井戸1基・柱穴等を検出したが、全体的に遺構の残りは悪い。土壙内からは弥生土器が出土しているが、ほとんどが小破片である。井戸は二段掘りで、最下層からは椀が1点出土している。柱穴についても残りが悪く、柱痕が残るものは1箇所のみであった。

調査区西側の水田部分は、圃場整備等により削平を受けており道路部分より1～2ｍ下がる。道路部分の遺構の状態から考えると、水田部分にも遺構が広がっていたものと思われる。また、掘立柱建物と考えられるものもあるが、ピット（小穴）が水田方向に向いていることや、水路による削平のため規模は不明である。

井戸については、上層において土器が出土しているが、ほとんどが小片である。下層から出土した椀は平安時代のものと思われ、口縁部を一部欠損している。全体に小破片がほとんどであり、時期を特定できるものは少ない。また、調査範囲が導水路幅・水路幅ということで狭い調査区であるため、掘立柱建物等については、規模の確定が難しい。

今回の調査は、平成4年度に調査を行った地区の続きにあたり、当初から遺構の存在が予想されていたが、調査区自体が遺跡の西端であり、遺跡の本体からも北西に外れた場所であるため、前回の調査地点よりも遺構の密度が薄く遺構の残りも悪かった。しかしながら、調査区自体が遺跡の縁辺部であることから、これまでの調査結果と合わせることにより下中杖遺跡の西側ラインがおおよそ確定できるものと考えられる。

1　本線部分全景（東から）

2　本線部分SE05（北から）

3　仮排水路部分（南から）

図版25　下中杖遺跡

17　宮ノ前北遺跡（略号：ＭＩＹ）

遺跡の所在地

伊万里市木須町字宮ノ前

調査主体者

伊万里市教育委員会

調査期間

平成7年7月～平成7年11月

調査面積

1,273㎡

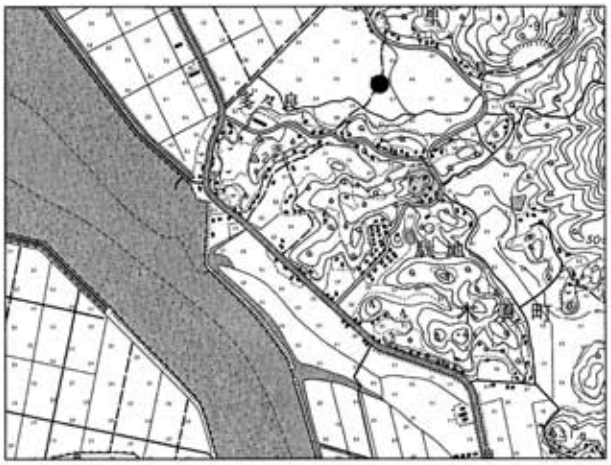


図42　宮ノ前北遺跡位置図（S＝1:25,000）

遺跡の概要

遺跡は、伊万里市街から北西方向に約3㎞に位置し、木須川によってできた扇状地上の微高地にあり北西方向に大きく開けている。調査地点は3箇所（A地点・B地点・C地点）である、現況は水田である。標高はA地点が約6ｍ、B・C地点が約4ｍである。

A地点では土壙墓3基、掘立柱建物と思われる柱穴群、貝塚を確認した。SK1は隅丸方形で長さ約1.6ｍ、幅約0.7ｍ、深さ約0.3ｍで内部から仰臥伸展葬の壮年女性と思われる人骨と刀子が出土した。SK2は隅丸方形？（削平を受けている）で長さ約0.95m、幅約0.9ｍ、深さ約0.08ｍで内部から仰臥伸展葬の男性？と思われる人骨と滑石製紡錘車が出土した。SK3は隅丸方形で長さ約1.4ｍ、幅約0.68ｍ、深さ0.6ｍで内部からは何も出土していない。土壙墓周辺からは4～6世紀の土師器、須恵器などが出土しており、土壙墓もその時期と思われる。

貝塚の貝層の厚さは最大0.2ｍ程度である。貝の種類はカキが大半を占めている。土師質皿、瓦器等が出土しており12世紀と思われる。貝層より上層の出土遺物で若干の時間差も見られるが、ほぼ同時期のものと思われ、貝殻は短期間に廃棄されたものと思われる。建物の柱穴と思われる柱穴群は白磁、青磁などの輸入陶磁器が出土しており、12世紀代と思われる。

B地点では、土壙墓2基と遺物を多量に含んだ包含層を確認した。SK1は楕円形で長さ約1.6ｍ、幅0.7ｍ、深さ約0.26ｍで内部から仰臥屈葬の壮年女性と思われる人骨が出土した。SK2は楕円形で長さ約0.92ｍ、幅0.65ｍ、深さ約0.25ｍで内部から仰臥屈葬の人骨（性別・年令不明）が出土した。主な遺物は、縄文土器（坂の下式・中津式）、石器（黒曜石、サヌカイト）、獣骨、鯨骨（脊椎骨の一部）などが出土している。土壙墓は縄文時代中期～後期初頭と思われる。

C地点では塚と思われる積石を確認したが当初から塚をつくるために石を積み上げたものではなく、農地からでてきた石を積み上げたのが塚のようになり、いつの間にか信仰の対象となったと思われる。塚上には五輪塔の一部（空風輪・台石）が据えられていた。主な出土遺物は肥前陶磁器である。

伊万里市内で縄文時代の人骨が出土したのは初めてである。県内でも縄文時代の人骨の出土例は少なく佐賀市の東名遺跡（縄文時代早期）についで2例目である。当時の埋葬習慣を知るための貴重な資料である。また、多量に出土した縄文土器は阿高系土器の坂の下式（坂の下遺跡　西有田町）が中心である。この土器の特徴は縄で施紋せず凹線文や凹点文で装飾し、滑石の粉末を混入している。特にこの時期の西北九州を代表とする土器で、縄文土器の研究において学術的価値の高いものである。

図43　伊万里市宮ノ前北遺跡周辺地形図（S＝1:2,000）

資料　3

確認調査実施要領（平成７年度）

① 確認調査

(1) 準備

1. 現地確認

調査員・工事担当課立会のうえ、工事範囲（調査範囲）・掘削機搬入路・その他の検討。

2. 発掘承諾書（別添1）

文化財課へ1遺跡1通。工事担当課窓口。発掘承諾については、承諾書のみではなく、調査対象地権者への、調査に対する承認を充分得ておく。

3. 98条の2第1項 別記2（別添2）

発掘調査予定地所在地、所有者、調査対象面積、遺跡の種類、地目、発掘担当者名、着手時期等を記載し、発掘担当者承諾書（別添3）を添付して文化財課に提出。

4. 掘削機・作業員の手配

人数の目安は、手掘りの場合　　15人／1日

掘削機使用の場合　3人／1日

※作業条件：作業時間　8:30～17:15,日当6,100円

※雇用予定発掘作業員の名簿（別添4）を作成し、事前に文化財課に提出。

5. その他用意するもの

小型カメラ・野帳・移植ゴテ・尺・工事計画図面・文化財課指定の日誌（別添5）・文化財課が用意するフィルム（35ミリ・カラーフィルム24枚撮り）等の調査記録類。なお、作業員には各自シャベルを用意してもらうこと。

(2) 調査

1. 原則として、20ｍ間隔で碁盤目状に試掘坑を設定。
2. 試掘坑は、2ｍ×2ｍを基準とする。

・耕作土と深土を区別する。

・土層、遺構面までの深さ、遺構・遺物の性格及び遺存状況等記録する。

・埋め戻しは、深土を先に戻して十分転圧した後、耕作土を戻して復旧する。

3. 工作物・道・水路等の取り扱いに注意し、また工事担当課が必ず立ち会うこと。

調査においては安全に充分心がけること。

② 調査記録の整理

1. 日誌　　・調査地区、試掘数、その他特筆すべきこと。

・作業員数（例：7.5人）、掘削機台数（例：1.5台）

・文化財課へは、印のある原紙（別添5）を提出すること。

2. 調査結果表（別添6）は調査区毎にまとめる。
3. 試掘坑土層図（別添7）、遺構が検出された場合は平面略図（別添8）を作成する。

1　A地点C区　貝層検出状況（北から）

4　B地点C区全景況（南西から）

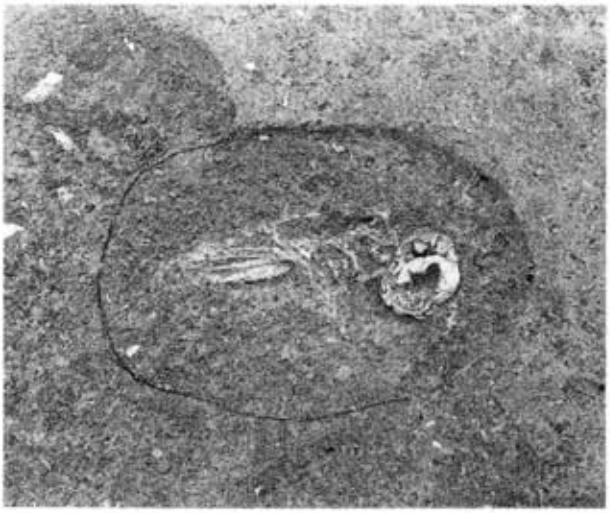
2　A地点C区　SK1　人骨検出状況（北東から）

5　B地点C区　SK1　検出状況

3　A地点C区　SK2　人骨検出状況（北東から）

6　B地点C区　SK1　人骨検出状況（北東から）

図版26　宮ノ前北遺跡（1）



7　B地点C区　SK2　人骨検出状況（北東から）

10　C地点遠景（西から）

8　B地点C区　鯨骨（脊椎骨一部）

11　C地点　積石塚状遺構（東から）

9　B地点C区　鯨骨検出状況

12　C地点　セクション（南東から）

図版27　宮ノ前北遺跡（2）

4. 図面　試掘坑の位置・番号・遺構面までの深さ（－45ｃｍ）・遺跡の範囲等を配布した図面に記入する。

5. 写真　フィルム（35ミリ・カラーフィルム24枚撮り）は文化財課で現像するので、確認調査後直ちに未現像のまま文化財課に提出。

プリントしたものを至急、市町村に返送しますので写真の説明をつけて調査結果表と併せて提出。（重機使用及び作業員の作業状況を必ず複数枚撮影すること。）

※以上の記録類はすべて、調査後文化財課に提出する。

※確認調査結果表・図面等の記録類は平成8年度刊行の「佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書15」の原稿に使用します。

③ その他の手続き

(1) 掘削機借り上げ

1. 運搬等の効率上、地元業者3業者の見積合せによる単価契約を行なう。
2. 上記業者は、見積書（別添9）を提出し、決定があれば所定の契約書（別添10）2部を速やかに文化財課に提出する。
3. 掘削機使用にあたっては、日時・場所等を事前に業者と充分打ち合わせ、かつ安全を期すこと。調査終了後、速やかに掘削機の作業実績簿（別添11）を文化財課に提出する。

(2) 調査依頼および旅費

・文化財課が調査を依頼した市町村調査員については旅費を支給するので、次の書類を文化財課に提出されたい。

・確認調査承諾書（別添12）・旅費請求委任状（別添13）

・就業確認書　（別添14）　・口座振替申出書（別添15）

(3) 就労調書

1. 必ず所定の様式（別添16）を使用する。
2. 調査後、作業員の押印、日数を早急に文化財課に提出する。（10月下旬または11月下旬等に確認調査を実施した場合も、月末締めなので当該月末までに文化財課に必着とします。やむを得ず提出が遅れる場合は、ＦＡＸで送信も可。）
3. 市町村調査員が調査にあたる場合は、市町村教育長・担当者の証明印を必要とする。

(4) 賃金支払い

1. 発掘作業員の賃金は県から支給する。
2. 賃金支払い日は、翌月に日時を指定する。（概ね翌月の10日～15日）
3. 現金で支給するので、支払い場所、連絡担当者等についてあらかじめ決めておき、文化財課に連絡をする。
4. 賃金支払い当日は、就労調書と同一の印鑑で、領収の押印を行なうので発掘作業員には支払い場所・日時について十分周知させる。なお、支払い時には担当者の立会を必要とする。

※※　資料1～3は平成7年10月11日および12月15日に開催した「平成8年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護の協議会」で使用した資料である。

V．まとめ

平成7年度の農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査を佐賀東部地区の鳥栖市、佐賀西部地区の佐賀市をはじめ県内5市12町1村32地区で実施し、筑後川下流用水事業に係る確認調査を三田川町など9地区で実施した。

また、平成6年度の確認調査の結果の協議に基づき平成7年度に実施した発掘調査（本調査）は、中原町・上峰町・佐賀市・多久市・江北町・唐津市・肥前町・玄海町の16遺跡と筑後川下流用水事業地区内1遺跡、国営伊万里開拓事業地区内１遺跡の計18遺跡である。

以下、平成7年度の確認調査について、まとめてみたい。

佐賀東部地区では、鳥栖市九千部山横断線地区で試掘調査を行なったが、今回は「若山砦（ワカヤマノトリデ）」関連の遺構を確認した。当該地区は、勝尾城二の丸から200ｍほど下がった地点で列石遺構、焼土・炭化物等を検出した。勝尾城下町遺跡は戦国時代（16世紀）に東肥前を中心に筑前・筑後まで勢力をふるった戦国大名「筑紫氏」の城下町遺跡であり今後、広域基幹林道建設事業の進展のなかで、当該城下町遺跡の保護と開発計画との調整がさらに必要になってくると思われる。

また、佐賀東部地区では、面的な圃場整備が最終段階を迎え、この地区の中原町北部地区簑原・綾部工区の確認調査では、縄文時代から奈良時代・中世の集落跡の存在を確認した。野田遺跡・拾徳遺跡では7,000㎡の、原古賀一本遺跡では2,000㎡の遺跡の広がりを確認した。

佐賀西部地区では、佐賀市金立南部地区、鍋島地区、兵庫西部地区、久保泉西部地区、多久市本多久地区、大和町西部導水川上南部地区、三日月町佐賀西部導水戊地区で遺跡の存在が確認された。

調査の結果、金立南部地区は、対象地７haに対し、全域で溝・柱穴などを検出し、弥生時代中期～中世の集落跡と考えられる70,000㎡の遺跡の広がりを確認した。鍋島地区は、対象地40haに対し、その北東部と南東部で溝・小穴などを検出し、その遺構から土師器・陶磁器などが出土し、中世～近世の集落跡と考えられる33,000㎡の遺跡の広がりを確認した。特に南東部では新発見の遺跡であったため、「江頭遺跡」として周知化を図った。

兵庫西部地区、久保泉西部地区は、中近世の遺物は出土したが、大半は削平されており、遺構密度は極めて薄いことが明らかになり、また、兵庫西部東漏地区は巨勢川の氾濫原や湿地帯であったと考えられる所見が得られるなど、この地区の近世集落の様相を示す貴重な資料が得られた。

多久市本多久地区は、新規事業の対象地10.5haに対し、15,000㎡の遺跡を確認した。調査対象地区の南側から中央部にかけて小穴・溝状遺構などが確認されたが、調査区全域に縄文時代のサヌカイトの剥片が認められ、縄文時代後期の土器の出土から、近くに立地する岡遺跡同様、縄文時代後期の遺構の存在を予察させる。今後、多久地区周辺の開発の際しては十分な確認調査と調整が必要になってくる。

大和町西部導水川上南部地区では、調査対象地区の西側、三日月町よりで弥生時代、奈良時代の遺構を確認した。三日月町佐賀西部導水地区は、対象地2,500㎡に対し、祇園川の氾濫原を確認したほか、調査区の一部で小穴、溝状遺構を確認したが遺構密度は低いと考えられる所見を得た。また、今後、西に伸びる導水事業では、弥生時代の環壕集落である土生遺跡（国史跡）の隣接地を導水管が通る計画があるため、文化財の保護について事前の十分な調整が必要となってくる。

佐賀西部地区は、農業基盤整備事業が後発であったこともあり、近年開発事業が集中している。特に佐賀市の場合、現在の集落近くでの開発計画が多く、遺構密度の高い遺跡が集中して確認されており、農林担当部局との調整には時

間を要した。設計変更や事業計画箇所の繰り延べなど農林担当部局内での調整、特に佐賀市教育委員会による最大限以上の本調査対応など関係各機関および調査担当者には改めて感謝したい。

佐賀南部地区では、鹿島市、江北町、太良町の３地区で確認調査を行なった。江北町江北地区では、中山間地域農村活性化総合事業に伴い確認調査を行なった結果、旧河川・谷部を除くほぼ全域194,000㎡で小穴・土壙・井戸状遺構等を検出した。弥生土器・土師器・須恵質土器・輸入磁器・近世陶磁器等が出土し、当該期の集落が広がっていると考えられる。江北町小田地区は、江戸時代には小田宿として栄えた場所であり、背後にそびえる乙宮山の山城跡とともに小田領主であった馬場氏との関連が注目される遺跡である。関係機関との調整の結果、やむを得ず遺構の保存が難しい範囲については江北町教育委員会が調査主体となり平成7年度から平成9年度までの3ケ年において発掘調査による記録保存を実施することになった。平成7年度施工地区の発掘調査は町に文化財専門職員が未配置であったため、県文化課の調査支援を受けて実施し、平成8・9年度については町に採用された嘱託職員により発掘調査を実施することとなった。

佐賀北部地区では、国営伊万里地区総合農地開発事業木須団地里工区では、対象地10.2haに対し、4,100㎡の遺跡を確認した。伊万里市内では縄文土器および弥生時代前期の土器の出土例が少なく今回発見された遺跡は貴重である。なお、木須団地工区で工事中に獣骨が発見されたため、中世の貝塚約12㎡については緊急的に調査を行い、カキ、アカガイ主体の貝塚が広がっていること確認し、その中から土師器や獣骨片を検出した。また、久原地区では対象地14.5haに対し、約1,300㎡の範囲に2次堆積による遺物の包含層が確認されたため、協議を行ない、その結果盛土対応による設計変更で保存を行い、工事を施工した。

なお、平成７年度に実施した宮ノ前北遺跡の本調査では、縄文時代の土壙墓から人骨が出土し、当時の埋葬を考える上で貴重な資料であった。また、多量に出土した縄文時代中期から後期初頭の土器の中には、滑石の粉末を混入したものも認められ、西北九州の縄文土器を研究する上で貴重な資料を提供した。

佐賀上場地区は、鎮西町の県営畑地帯総合土地改良事業上場地区（塩鶴地区）、肥前町上場Ⅲ期（納所地区）で遺跡が確認された。

塩鶴地区は、調査対象地13.2haに対して調査を行った結果、12,000㎡の範囲において石列・配石・小穴を検出し、小穴等から弥生時代の土器片を検出したほか、追加確認調査では多量の弥生土器や若干の輸入陶磁器が出土したので、「塩鶴遺跡」として佐賀県遺跡地図に登録し周知を図った。

納所地区は18.1haを調査対象とし、740㎡の縄文時代の遺物包含層を確認した。試掘調査による出土遺物は黒曜石製ナイフ形石器・剥片尖頭器・石鏃・磨石・敲石など14点が出土し、「太田遺跡」として新たに佐賀県遺跡地図に登録した。今後上場台地における縄文時代の様相解明の貴重な資料の一つとなる。

平成7・8年度の農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査および調査結果に基づく協議に際しては、多くの方々に手を煩わし、また、ご迷惑をおかけしている。しかし、農林担当部局、土地改良区、市町村教育委員会、地元関係者ほかの協力によりほぼ順調に文化財の保護と開発との調整を行なうことができた。ここで改めて関係者各位に感謝をいたしたい。

資料　4

○農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項

昭和53年4月1日　佐賀県教育委員会教育長
佐賀県農林部長
昭和59年4月1日　改正

農業基盤整備事業等（以下「事業」という）埋蔵文化財保護の調査（以下「調査」という）との関係の調整については文化財保護法第57条並びに文化財保護法の一部改正に関する覚書（昭和50年5月23日文化庁長官農林省構造改善局長）の趣旨に基づき、佐賀県農林部と佐賀県教育委員会は次の事項について確認する。

1　文化財保護担当部局は事業の実施予定地区に係る文化財の調査に当っては当該事業の計画的かつ円滑な実施に支障が生じないよう措置するものとする。

2　農業担当部局は周知の埋蔵文化財包蔵地等における事業の策定に先立ち、事業と文化財保護との連絡調整をはかるため、あらかじめ文化財保護担当部局と協議するものとする。

3　当該事業の施行にあたっては前々年度の9月上旬までに計画図等を添えて佐賀県教育委員会へ連絡し調整をはかるのとする。

4　文化財保護担当部局は当該地区の文化財確認調査を原則として事業施行前々年度に終了するものとする。また事業地区の変更等が生じた場合は、ただちに農業担当部局は文化財保護担当部局に協議する。

5　確認調査の結果埋蔵文化財が発見された場合、文化財保護担当部局は当該地区の文化財の保護に関し農業担当部局と協議し事業計画上やむを得ず破壊される遺跡等について行う発掘調査については原則として事業施行前年度に終了するよう努めるものとする。

ただし確認調査の有無にかかわらず工事中に埋蔵文化財が発見された場合農業担当部局は工事を一時中止して、文化財担当部局へその旨連絡し協議するものとする。

6　発掘調査の促進にあたっては農業担当部局はこれに協力するものとする。

7　事業の実施予定地区に係る埋蔵文化財の調査に要する経費は原則として文化財保護担当部局において負担するものとする。

ただし、やむを得ず当該調査に要する経費を事業費のなかで負担せざるを得ない場合においても当該経費のうち農家負担分については文化財保護担当部局において負担するものとする。

8　その他事業計画遂行にあたり、文化財保護について問題が生じた場合はその都度協議するものとする。

Ⅳ　資料

資料　1

平成８年度農業基盤整備事業に係る文化財調査一覧表

1995.12.15

市町村名	地　区　名	事　　業　　名	工事量	主幹課	確認遺跡面積	調査面積	遺　跡　名
佐賀市	金立北部	県営圃場整備	10.9ha	農村整備課	確認調査済（6,000㎡）	（　　）	金立遺跡
	金立南部	県営圃場整備	7ha	農村整備課	確認調査済（70,000㎡）	（　　）	東千布遺跡・久富遺跡
	鍋島	県営圃場整備	19.3ha	農村整備課	確認調査済（33,000㎡）	（　　）	江頭遺跡
	兵庫西部	県営農地還元資源利用	35ha	農村整備課	確認調査済（　300㎡）	（　　）	[illegible]
	兵庫南部	干拓地等農地整備	10ha	農村整備課	確認調査済（8,000㎡）	（　　）	
	巨勢	干拓地等農地整備	0.1ha	農村整備課	確認調査済（2,600㎡）	（　　）	
唐津市	和多田(上場Ⅰ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	710m	農村整備課	確認調査済（　　0㎡）	（　0㎡）	本村遺跡
	佐志・枝去木(上場Ⅱ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	2,000m	農村整備課	未確認調査		太閤遺跡・八幡窟第Ⅱ・Ⅲ遺跡
	高尾	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	畑島	予防治山		森林整備課	未現地踏査		
	西大島	予防治山		森林整備課	未現地踏査	0㎡	
鳥栖市	鳥栖第２	県営土地改良総合整備		農村整備課	確認調査不要	0㎡	（樋ノ口遺跡隣接）
	鳥栖東部	県営土地改良総合整備		農村整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	鬼追	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	九千部山横断	広域基幹林道	1,200m	林政課	未確認調査		ワカヤマノトリデ
多久市	本多久	県営中山間地域総合整備	10.5ha	農村整備課	確認調査済(15,000㎡)	（7,200㎡）	岡遺跡
	北町	団体営土地改良総合整備	6.3ha	農村整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	南多久	農地等鉱害復旧		農地保全課	確認調査不要	0㎡	未周知
	黒者砂	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	伯父山	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	多久原	水源地域緊急整備		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	天山	広域総合生活環境保全林		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
伊万里市	渚	ふるさと農道緊急整備	600m	農村整備課	未確認踏査		未周知
	東分	農地等鉱害復旧		農地保全課	確認調査済（　　0㎡）	（　　0㎡）	上松遺跡・七田遺跡
	下分	農地等鉱害復旧	2.0ha	農地保全課	確認調査不要	0㎡	未周知
	城Ⅲ	農地等鉱害復旧	9.6ha	農地保全課	確認調査不要	0㎡	（見原遺跡隣接）
	久原	農地等鉱害復旧	14.5ha	農地保全課	未確認調査	（　　）	（目代屋敷跡隣接）
	飯盛川内２号	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	六本柳	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	今岳	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	川内野	集落水源産地整備		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	大野岳	生活環境保全林		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	山代	保安林管理道整備		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	滝野線	普通林道	1,500m	林政課	確認調査済（　　0㎡）	（　0㎡）	今岳原遺跡・日南郷石塁
	木須(里)団地	国営総合農地開発	8.0ha	伊万里開拓	確認調査済（　　）	（　　）	
	木須西団地	国営総合農地開発	15.7ha	伊万里開拓	未確認調査		未周知
	本瀬戸団地	国営総合農地開発	54.3ha	伊万里開拓	未確認調査		未周知
	木須(見上)団地	国営総合農地開発	14.2ha	伊万里開拓	未確認調査		未周知
	木須(渡戸島)団地	国営総合農地開発	7.4ha	伊万里開拓	未確認調査		未周知
	平山団地	国営総合農地開発	11.0ha	伊万里開拓	確認調査済（　　0㎡）	（　0㎡）	未周知
武雄市	橘	県営土地改良総合整備		農村整備課	確認調査不要	0㎡	市場遺跡・みやこ遺跡・王江遺跡
	岳ノ山	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	剣谷	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	明音谷	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	木場山	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
鹿島市	飯田	県営圃場整備	11.0ha	農村整備課	確認調査済（　　0㎡）	（　0㎡）	未周知
	宇土	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	筒口１号	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	筒口２号	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	上浅浦	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	西三河内	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	母ケ浦	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知

市町村名	地区名	事業名	工事量	主幹課	確認遺跡面積	調査面積	遺跡名
大和町	佐賀西部導水	国営水路		筑後川下流農水事務所	確認調査済（ 600㎡）	（ 600㎡）	
富士町	富士北部	県営中山間地域総合整備	6.3ha	農村整備課	確認調査済（ 0㎡）	（ 0㎡）	
	佐賀北部	広域営農団地農道整備	400m	農村整備課	確認調査済（ 0㎡）	（ 0㎡）	古場遺跡
	茅原１号	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	吉原	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	高原	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	高原２号	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	鮎の瀬	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	平	予防治山		森林整備課	未現地踏査		
	赤土田	治山施設修繕		森林整備課	未現地踏査		
	天山	広域総合生活環境保全林		森林整備課	未現地踏査		
	天山横断線	普通林道事業	600m	林政課	確認調査不要	0㎡	市川遺跡
	小副川線	普通林道事業	250m	林政課	未現地踏査		未周知
	貝野～萱木線	普通林道事業	500m	林政課	未現地踏査		舞野遺跡
	鏑倉線	普通林道事業	200m	林政課	未現地踏査		未周知
	上浦線	林業地域総合整備	600m	林政課	未現地踏査		未周知
	宇土線	林業地域総合整備	500m	林政課	未現地踏査		未周知
	一本黒木線	林業地域総合整備	500m	林政課	未現地踏査		未周知
東脊振村	西石動２号	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	山田	国有林野内補助治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	九千部山横断	広域基幹林道	500m	林政課	確認調査不要	0㎡	未周知
脊振村	藤原	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	川頭	予防治山		森林整備課	未現地踏査		
	高取山	生活環境保全林		森林整備課	未現地踏査		
三瀬村	向合	生活環境保全林		森林整備課	未現地踏査		
中原町	中原北部	県営圃場整備	13.7ha	農村整備課	確認調査済（7,000㎡）	（ ）	野田遺跡・拾徳遺跡
	中原南部	県営圃場整備	2ha	農村整備課	確認調査済（2,000㎡）	（ 20㎡）	原古賀一本柳遺跡
	九千部山横断	広域基幹林道	600m	林政課	確認調査不要	0㎡	鷹島山号墳 鷹島山山麓遺跡
上峰町	上峰北部	県営圃場整備		農村整備課	確認調査済（10,000㎡）	（10,000㎡）	堤形原遺跡
小城町	清水	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	岩蔵	水質保全環境整備		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	天山	広域総合生活環境保全林		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	天山線	ふるさと林道緊急整備事業	1,200m	林政課	確認調査不要	0㎡	未周知
三日月町	佐賀西部導水	国営水路		筑後川下流農水事務所	未確認調査		
浜玉町	浜玉	県営土地改良総合整備		農村整備課	確認調査不要	0㎡	吉田遺跡・西谷遺跡・月岡遺跡
	保坂	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	椿山	地域防災対策総合治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	椿山	生活環境保全林		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
七山村	荒川～天川線	広域基幹林道	1,500m	林政課	未現地踏査		未周知
	古村	予防治山		森林整備課	未現地踏査		
	藪田	予防治山		森林整備課	未現地踏査		
	道太郎～蟹川線	普通林道	650m	林政課	未現地踏査		未周知
厳木町	平野	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	天山	広域総合生活環境保全林		森林整備課	未現地踏査		
	荒川～天川線	広域基幹林道	300m	林政課	未現地踏査		未周知
相知町	山口谷	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	上小城川内	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
相知町	湯屋谷	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	蕨野	地域防災対策総合治山		森林整備課	未現地踏査		
	平山	保安林管理道整備		森林整備課	未現地踏査		
	内浦線	林業地域総合整備	360m	林政課	未現地踏査		未周知
北波多村	岸岳	県営中山間地域総合整備	10.5ha	農村整備課	確認調査済（ 0㎡）	（ 0㎡）	未周知

報告書抄録

ふりがな	さがけんのうぎょうきばんせいびじぎょうにかかるぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書15
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第133集
編集者名	松尾　法博
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840-8570　佐賀県佐賀市城内1丁目1－59　TEL.0952(24)2111
発行年月日	1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査対象面積 （確認調査） ha	調査原因
佐賀県 農業基盤 整備事業 地区内 遺跡	佐賀県内					19950401 ～ 19960331	502.7ha	農林業基盤 整備事業等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
佐賀県 農業基盤 整備事業 地区内 遺跡	集落 墓地 古墳	旧石器時代 ～ 近代	集落遺構 甕棺墓 古墳 包含層	石器・土器 陶磁器 ほか	確認調査報告のほかに平成7年度に農業基盤整備事業に伴い実施された18遺跡の調査概要を所収

市町村名	地区名	事業名	工事量	主幹課	確認遺跡面積	調査面積	遺跡名
北波多村	丸尾	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
肥前町	寺浦　(上場Ⅲ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	700m	農地保全課	確認調査不要	0㎡	未周知
	新木場 (上場Ⅲ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	3.8ha	農地保全課	未確認調査		未周知
	納所　(上場Ⅲ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	800m	農地保全課	確認調査不要	0㎡	未周知
	納所　(上場Ⅲ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	18.1ha	農地保全課	未確認調査		長田Ⅰ遺跡・山中Ⅱ遺跡
	万賀里川第2 (上場Ⅲ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	1.0ha	農地保全課	未現地踏査		
	田野　(上場Ⅲ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	380m	農地保全課	未現地踏査		
	納所	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	犬頭	防風林造成		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
玄海町	繁倉　(上場Ⅳ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	2.7ha	農地保全課	確認調査済 (　0㎡)	0㎡	棚橋遺跡
	浜野浦 (上場Ⅳ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	2.2ha	農地保全課	確認調査不要	0㎡	未周知
	浜野浦 (上場Ⅳ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	500m	農地保全課	確認調査不要	0㎡	未周知
	山ノ田	県営畑地帯総合土地改良事業	5ha	農地保全課	未確認調査		未周知
	山ノ田	県営畑地帯総合土地改良事業	1,500m	農地保全課	未確認調査		未周知
	有浦　(上場Ⅳ期)	県営畑地帯総合土地改良事業	1,500m	農地保全課	確認調査不要	0㎡	滝ノ上(大平北第2)
	石田	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
鎮西町	塩鶴　(上場)	県営畑地帯総合土地改良事業	13.2ha	農地保全課	確認調査済 (2,000㎡)	(　　)	未周知
	横竹	県営畑地帯総合土地改良事業	2.9ha	農地保全課	確認調査不要	0㎡	太田代 (横竹Ⅱ)
	松島	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
呼子町	小川島	防風林造成	4,000㎡	森林整備課	未確認調査		(小川島遺跡隣接)
有田町	境野１号	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	境野２号	予防治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
西有田町	山谷	ふるさと農道緊急整備		農村整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	中尾岳	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	勝負	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	曲川	水資源地域緊急整備		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
山内町	古場	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
北方町	長谷	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	原田	予防治山		森林整備課	未現地踏査		
大町町	神山	農地等鉱復旧		農地保全課	確認調査不要	0㎡	今寺遺跡
江北町	江北	県営中山間地域総合整備	19.4ha	農村整備課	確認調査済(194,000㎡)	(　　)	馬場北遺跡
有明町	泉	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	矢川	予防治山		森林整備課	未現地踏査		
福富町	七搦	県営土地改良総合整備		農村整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
太良町	伊福	団体営圃場整備		農村整備課	確認調査済(　0㎡)	(　0㎡)	未周知
	蕪田	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	鹿路	復旧治山		森林整備課	未現地踏査		
	大野	集落水源山地整備		森林整備課	未現地踏査		
塩田町	牛間田	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	茂手	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	殿木場	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	鍋野	地域防災対策総合治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	唐泉山	生活環境保全林		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	杵島山線	広域基幹林道	500m	林政課	確認調査不要	0㎡	未周知
	鍋野線	普通林道	500m	林政課	確認調査不要	0㎡	未周知
	兎鹿野	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
嬉野町	岩瀬戸	復旧治山		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	三丁	集落水源山地整備		森林整備課	確認調査不要	0㎡	未周知
	上不動線	林業地域総合整備事業	200m	林政課	確認調査不要	0㎡	未周知
	椎葉線	林業地域総合整備事業	400m	林政課	確認調査不要	0㎡	未周知 黒曜石原産地
千代田町	佐賀東部千代田町	県営圃場整備	10ha	農村整備課	確認調査中		未周知

資料　2

農業基盤整備事業に係る文化財調査の進め方

①9月上旬

翌（々）年度事業計画書の提出

農林部から文化財課へ翌（々）年度
工事施行計画図等の提出（協議）

②9月中旬～10月上旬

市町村教委と事前打ち合せ
及び現地踏査等

市町村教委と図面をもとに確認
調査箇所について打ち合わせ

③10月11日

第１回協議

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事務所
九州農政局伊万里開拓建設事業所
農村計画課・農村整備課・農地保全課
森林整備課・林政課・農林事務所・市
町村土地改良課・市町村教育委員会・
文化財課と確認調査についての打ち合わせ

④10月下旬～12月上旬

文化財確認調査実施

県費補助事業計画書の提出
ヒアリング

⑤11月下旬～12月上旬

個別協議

文化財所在地区の農業基盤
整備事業について協議
（数回）

⑥12月下旬

第２回協議

翌年度発掘調査箇所（面積）
の決定、発掘調査の時期調整

◎国庫補助事業計画書提出（12月）
◎文化庁ヒアリング（１～２月）

⑦新年度

発掘調査

国庫補助事業内示
（４月）

佐賀県文化財調査報告書第133集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書15

平成9年3月31日発行

編集・発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内一丁目1－59
TEL　0952（24）2111
印　　刷　日之出印刷株式会社
佐賀市高木瀬西6丁目11-5
TEL　0952（31）7177